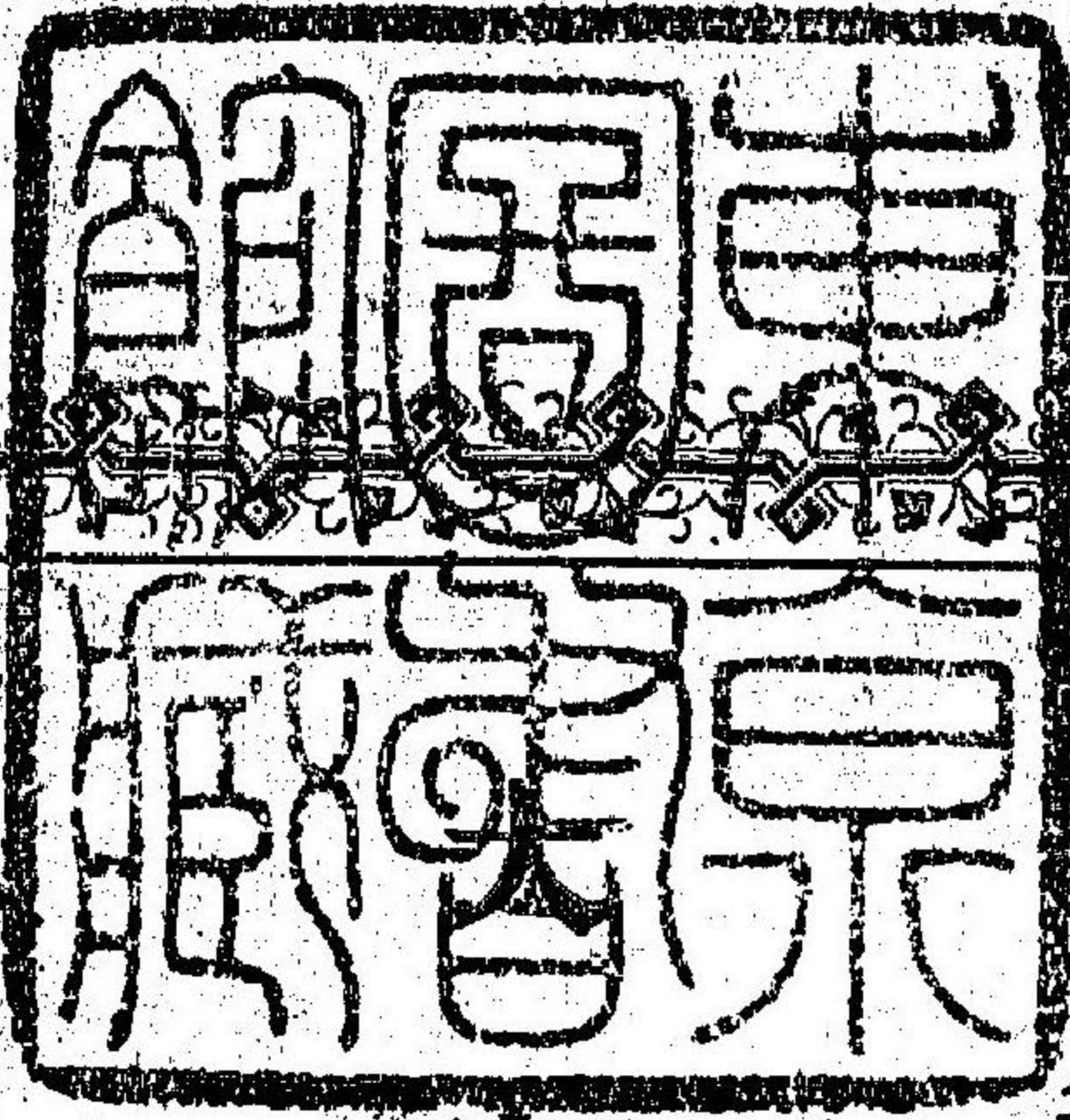


No 34/1774



司法省藏版 版權所有

審
院
刑
事
判
決
錄

明治二十三年十二月印行



12/21/01
12/27/11
7

凡例

- 一 本書編纂ノ主意ハ大審院判決中將來ノ模範トナルヘキモノヲ集録スルニアリ
- 一 本書ハ明治十九年中大審院ニ於テ判決シタル刑事ヲ選抜シタルモノニ係ル但諸罰則ハ別ニ編纂シタルヲ以テ本書ニ録セズ
- 一 本書編纂ノ体裁ハ大審院ニ於テ受理シタル件名及年次號數ニ關セズ爭點ヲ類別シ刑法治罪法ノ節目ニ從テ集録ス
- 一 本書ハ前述ノ如ク爭點ヲ類別シ編纂スルヲ以テ例ヘハ詐欺取財ノ件ト題シアルモ其爭點刑罰計算ニ係ルキハ刑罰計算ノ部ニ編入ス
- 一 本書中一事件ニシテ上告ノ爭點數箇ニ涉ル問題ハ各之ヲ掲クト雖モ其一ニ從ヒ一部門ニ編入ス
- 一 本書ハ每件ノ初メニ問題ヲ掲ケ以テ其事件ノ爭點ヲ知ルニ便ナラシム

- 一件名ハ原件名ヲ存ス毎件ノ初頭ニ何年何號ト割註アルハ大審院ニ於テ受理シタル年次及號數ナリ
- 一本書中單ニ棄却シタリト記スルモノハ總テ治罪法第四百二十七條ニ依ル又單ニ破毀シタリト記スルモノハ大審院自カラ判決ヲ與ヘス他ニ移シタルモノトス
- 一初審裁判所ニ於テ科シタル罰金科料等ハ或ハ金額ヲ記シ或ハ若干ノ文字ヲ以テ之ヲ省略ス

明治十九年刑事判決錄

總目錄

刑法ノ部

法例ニ關ス

- 一 地 所 冒 認 ノ 件 (地所ヲ冒認シ新法頒布後發覺シタルニ係ル) 明治十八年 一
- 一 偽 證 ノ 件 (禁錮ノ刑ニ科料ヲ附加シタルニ係ル) 明治十九年 五
- 加減例ニ關ス
- 一 公 證 文 書 偽 造 ノ 件 (舊犯新法實施後發覺シタルニ係ル) 明治十八年 一三
- 刑期計算ニ關ス
- 一 印 影 盜 用 私 書 偽 造 ノ 件 (偽造罪成立ノ起算ニ係ル) 明治十八年 二一
- 一 公 證 偽 造 ノ 件 (豫審終結ヲ口供甘結ト同視シタルニ係ル) 明治十八年 二七
- 一 私 書 偽 造 及 誣 告 ノ 件 (重シト認メタル罪ニ對シ輕キ罪ノ短期以下ノ刑ヲ科シタルニ係ル) 明治十九年 三三
- 數罪俱發例ニ關ス

- 一 委託金 拐帶ノ件初犯及再犯ノ刑ヲ受ケタルニ係ル 明治十九年 三五
- 一 謀殺ノ件一人ヲ謀殺シ他ノ一人ハ障礙ノ爲メ其目的ヲ達セサルニ係ル 明治十九年 四一
- 一 詐欺 取財ノ件上告中一罪發覺シタルニ係ル 明治十九年 四八
- 一 家畜 殺ノ件夜間人ノ邸内ニ入り家畜ヲ殺シタルニ係ル 明治十九年 五一
- 一 官吏ノ職務ニ對スル罪ニ關スル件公判庭内ニ於テ辯護ノ爲メ過激ノ言語ヲ爲シタルニ係ル 明治十九年 五六
- 一 官吏 侮辱ノ件公判庭内ニ於テ辯護ノ爲メ過激ノ言語ヲ爲シタルニ係ル 明治十九年 五六
- 一 囚徒逃走罪ニ關スル件看守ノ隙ヲ窺ヒ逃走シタルニ係ル 明治十九年 六〇
- 一 既決囚逃走ノ件懲役執行中逃走シタルニ係ル 明治十九年 六三
- 一 逃走ノ件通謀シテ脱檻ヲ企テタルニ係ル 明治十九年 六五
- 一 囚徒逃亡ノ件通謀シテ脱檻ヲ企テタルニ係ル 明治十九年 六五
- 一 囚徒逃走ノ件通謀シテ脱檻ヲ企テタルニ係ル 明治十九年 六五
- 一 囚徒逃走ノ件通謀シテ脱檻ヲ企テタルニ係ル 明治十九年 六八
- 一 官ノ封印破棄ニ關スル件検査院ノ施シタル封印ヲ解除シタルニ係ル 明治十九年 七一
- 一 酒造税則違犯ノ件検査院ノ施シタル封印ヲ解除シタルニ係ル 明治十九年 七一

貨幣偽造ニ關ス

- 一 舊貨幣 偽造ノ件通用廢止ノ貨幣ヲ偽造シタルニ係ル 明治十九年 八一
- 一 偽造舊貨幣收受行使ノ件偽造ノ幣ヲ知テ收受行使シタルニ係ル 明治十九年 八四
- 一 貨幣 偽造ノ件朝鮮國ノ貨幣ヲ偽造シタルニ係ル 明治十九年 八七
- 一 官印偽造ニ關スル件戸長役場印ヲ彫刻シタルニ係ル 明治十九年 九一
- 一 官文書 偽造ノ件偽造印書ヲ交附シ其目的ヲ達セサルニ係ル 明治十九年 九三
- 一 官印及私書 偽造ノ件郵便局印ヲ盜用シタルニ係ル 明治十九年 九七
- 一 官印及文書 偽造行使ノ件驛遞局貯金預所ノ印章ヲ偽造シタルニ係ル 明治十九年 一〇三
- 一 印紙 再貼用ノ件舊犯刑法實施後ノ發覺ニ係ル 明治十九年 一一三
- 一 印紙 再貼用ノ件私製ノ藥劑ニ印紙ヲ再貼シタルニ係ル 明治十九年 一一九
- 一 印紙 再貼用ノ件煙草前賣ヲ爲シ發賣ニ用シタル印紙ヲ其儘貼用シタルニ係ル 明治十九年 一二二
- 一 同 上訴狀ノ印紙ヲ剝取リ新調シタルニ係ル 明治十九年 一二六

一 同 上(切斷シタル印紙ニ裏張ヲ) 明治十九年 一二九
 一 印 紙 犯 則 ノ 件(消印アル印紙ヲ貼用シタ) 明治十八年 一三二
ルニ係ル 第三千六百七十六號

官文書偽造ニ關ス

一 官 文 書 偽 造 ノ 件(詐術ヲ以テ他人ヲシテ公) 明治十八年 一三六
證文書ヲ偽造セシメタルニ係ル 第八百三十一號
 一 同 上(裁判所ノ差紙ヲ偽造シタ) 明治十八年 一四〇
ルニ係ル 第三千五百一十一號
 一 同 上(戸長自カラ偽造セシメタ) 明治十八年 一四五
タルニ係ル 第三千五百九十六號
 一 公 證 偽 造 ノ 件(公證隱匿ニ係ル) 明治十八年 一五二
ル 第三千一百一號
 一 公 證 偽 造 官私書盜用及詐欺取財ノ件(官私印ノ盜用シタルニ係ル) 明治十九年 一六三
ル 第八百一號

私印私書偽造ニ關ス

一 官 私 文 書 偽 造 行 使 ノ 件(呼出狀ヲ偽造シタルニ係ル) 明治十八年 一六七
ル 第三千四百二十七號
 一 同 上(借用證書ヲ偽造シタルニ) 明治十八年 一七二
係ル 第三千四百七十六號
 一 偽 造 證 書 ノ 件(舊戸長ノ名義ニテ證書ヲ) 明治十七年 一七九
偽造シタルニ係ル 第三千八百九十五號
 一 私 印 盜 用 私 書 偽 造 ノ 件(他人ニ於テ實印ヲ白紙ニ) 明治十九年 一八七
盜捺シタルヲ使用シタルニ係ル 第九百一十五號

一 私 書 偽 造 ノ 件(舊偽造證書ヲ新法實施後) 明治十九年 一九一
行使シタルニ係ル 第七百六十一號
 一 公 文 書 偽 造 行 使 ノ 件(代人屆變造ニ係ル) 明治十九年 一九八
ル 第五百九十四號
 一 私 書 變 換 ノ 件(貸借證書ヲ變造シタルニ) 明治十八年 二〇一
係ル 第二千四百六十九號
 一 詐 欺 取 財 ノ 件(無實ノ人名ヲ以テ爲替手) 明治十八年 二〇五
形ヲ偽造シタルニ係ル 第九百六十二號
 一 手 形 偽 造 ノ 件(虛無ノ人名ヲ構造シ手形) 明治十八年 二〇九
ヲ偽造シタルニ係ル 第九百三十九號
 一 印 影 盜 用 ノ 件(印影ヲ切抜キ偽造ノ私書) 明治十九年 二一五
ニ貼用シタルニ係ル 第六百二十六號
 一 私 書 偽 造 ノ 件(委任狀偽造ニ係ル) 明治十八年 二一九
ル 第二千七百七號
 一 證 書 變 造 ノ 件(裁判管轄ノ便ヲ謀リ舊義) 明治十七年 二二三
務者ニ連署セシメタルニ) 第三千九百九十七號
 一 官 文 書 偽 造 ノ 件(代人願書ヲ偽造シタルニ) 明治十八年 二二九
係ル 第二千九百八十五號
 一 證 書 偽 造 ノ 件(死者ノ名義ヲ用井タルニ) 明治十八年 二二三
ルニ係ル 第四百九十六號
 一 同 上(證書偽造ヲ看破セラレタ) 明治十九年 二三七
ルニ係ル 第四百一十二號
 一 同 上(偽造證書ニ他人ノ印影ヲ) 明治十九年 二四三
模寫シタルニ係ル 第三十二號
 一 官 印 盜 用 ノ 件(死亡届ヲ偽造シタルニ係ル) 明治十八年 二四八
ル 第九百二十二號

疾病證書ニ關ス

一私書偽造ノ件(詐僞ノ疾病證書ヲ呈出シタルニ係ル)明治十九年四月號 二五六

詐欺取財ニ關ス

一詐欺取財ノ件(共有ノ帳簿ヲ變換シタルニ係ル)明治十八年三月二十六號 二六〇

一同(欺罔ノ手段ヲ以テ證書ヲ偽造シタルニ係ル)明治十八年三月二十六號 二六三

一同(金減金ノ煙管ヲ金無垢ト詐稱シタルニ係ル)明治十九年七月十七號 二六七

一同(犬肉ヲ牛肉ト詐リ販賣シタルニ係ル)明治十九年三月十三號 二七四

一同(人ノ印影ヲ盗用シ負債ヲ免レントシタルニ係ル)明治十八年五月九號 二七七

一同(宿料ヲ拂ハサルニ係ル)明治十八年七月四十三號 二八三

一同(人ヲ恐喝シ金員ヲ騙取シタルニ係ル)明治十八年三月二十號 二八六

一同(質入ヲ依託サレ其一部ヲ隠シタルニ係ル)明治十九年六月十三號 二九〇

一委託物費消ノ件(人ノ委託物ヲ質入レンタルニ係ル)明治十九年七月十六號 二九三

一同(抵當物ノ保存ヲ承諾シテ賣却シタルニ係ル)明治十九年三月十三號 二九六

一委託金費消ノ件(下賜ノ金員ヲ費消シタルニ係ル)明治十八年六月二十四號 三〇一

贓物罪ニ關ス

一贓物故買ノ件(砂金賣買ニ係ル)明治十八年五月十一號 三〇六

一委託物費消及贓物寄藏ノ件(竊盜金ヲ寄藏シタルニ係ル)明治十九年六月十四號 三一一

一盜贓收受ノ件(竊取ノ牛ヲ屠殺シタルニ係ル)明治十八年三月十一號 三一六

一贓物故買ノ件(身元不詳者ヨリ古物ヲ買取リタルニ係ル)明治十九年九月十七號 三一八

度量衡偽造ニ關ス

一度量衡違犯ノ件(無檢印ノ舊樽ヲ使用シタルニ係ル)明治十八年六月十六號 三二二

一氏名詐稱ノ件(處刑後氏名詐稱ヲ自首シタルニ係ル)明治十八年八月十八號 三二四

一身分詐稱ノ件(代人願書ニ身分ヲ詐書シタルニ係ル)明治十九年四月十五號 三二八

一屬籍詐稱ノ件(他人ノ氏名詐稱ニ係ル)明治十八年三月三十號 三三一

一氏名詐稱ノ件(人ノ子ヲ己ノ子ト詐リ届出タルニ係ル)明治十九年五月十四號 三三四

官吏財産ニ對スル罪ニ關ス

一官 金 費 消 ノ 件(無稅地ヨリ租稅ヲ取リタ)明治十九年 第四百十六號 三三六

謀殺故殺罪ニ關ス

一謀 殺 ノ 件(實子ヲ池ニ投シ殺シタル)明治十九年 第四百八十八號 三四〇

一同 上(人ノ妻ヲ毆取セント欲シ)明治十九年 第三十六號 三四四

一同 上(其夫ヲ殺シタルニ係ル)明治十九年 第三百七十六號 三四九

毆打創傷ニ關ス

一謀 殺 ノ 件(罵詈ヲ受ケ兇器ヲ以テ負)明治十九年 第一千二百號 三五五

一毆 打 創 傷 ノ 件(二人以上ノ毆打ニ係ル)明治十九年 第一千九百五十四號 三五八

一毆 打 致 死 ノ 件(制縛毆打ニ係ル)明治十九年 第一千四百四十五號 三六三

過失殺傷ニ關ス

一毆 打 創 傷 ノ 件(過テ創傷ヲ負ハセタルニ)明治十九年 第三百十九號 三六八

不論罪ニ關ス

一毆 打 創 傷 ノ 件(盜兇ヲ追究シテ負傷セシ)明治十八年 第三百五十二號 三七二

誣告罪ニ關ス

一誣 告 ノ 件(効力ナキ事實ヲ以テ誣告)明治十九年 第九百八十九號 三七六

一同 上(舊貨幣偽造ヲ以テ誣告シ)明治十九年 第四百五十號 三八一

竊盜ニ關ス

一詐 欺 取 財 ノ 件(遺失物ヲ還付セズ買入レ)明治十八年 第九百七十八號 三八七

一竊 盜 ノ 件(亡者ノ財産ヲ竊取シタル)明治十九年 第八百二十一號 三九一

一同 上(同居人ニ抵當トナシタル)明治十九年 第一千三百四十六號 三九七

一同 上(田園ノ茶葉ヲ竊取シタル)明治十九年 第一千三百三十四號 四〇〇

一同 上(官林ヲ盜伐シタルニ係ル)明治十九年 第七百二十八號 四〇二

一同 上(官林伐採ノ際取押ヘラレ)明治十八年 第三百三十七號 四〇五

一山 林 盜 伐 ノ 件(共有山林ノ樹木ヲ賣却シ)明治十八年 第二百二號 四〇七

一竊 盜 ノ 件(樹木ヲ無談ニテ伐採シタ)明治十九年 第三百四十三號 四一〇

- 一 竊 盜 / 件(竊盜ノ爲メ窓口ヨリ忍入) 明治十九年 四一四
- 一 強 盜 / 強盜罪ニ關ス 件(兇器ヲ戶外ヨリ内ニ差入) 明治十八年 四一七
- 一 放 火 / 放火罪ニ關ス 件(官ノ給養ヲ受ケン爲メ家屋ニ放火シタルニ係ル) 明治三十一年 四二五
- 一 建 物 毀 壞 / 家屋物品毀壞及動植物ヲ害スル罪ニ關ス 件(官ノ給養ヲ受ケン爲メ家屋ニ放火シタルニ係ル) 明治三十一年 四二五
- 一 毀 棄 器 物 / 件(巡查見張所ノ障子ヲ毀壞シタルニ係ル) 明治十九年 四三〇
- 一 家 屋 毀 棄 / 件(障子ヲ毀壞シタルニ係ル) 明治十九年 四三二
- 一 毀 棄 器 物 / 件(人ヲ呼起ス爲メ板戸ヲ毀壞シタルニ係ル) 明治十八年 四三四
- 一 毀 棄 器 物 / 件(養父ノ器物ヲ毀棄シタルニ係ル) 明治十九年 四三七
- 治罪法ノ部
- 總則ニ關ス
- 一 詐 欺 取 財 / 件(公訴期滿免除ニ係ル) 明治十八年 四二九

- 民事原告人起訴ニ關ス
- 一 逮 捕 監 禁 / 件(公訴ニ附帶スル私訴ニ係ル) 明治十九年 四四四
- 證據ニ關ス
- 一 毆 打 創 傷 / 件(鑑定診斷書ノミニ據リ他ノ證具ヲ採用セサルニ係ル) 明治十九年 四四七
- 豫審上訴ニ關ス
- 一 竊 盜 / 件(檢察官ノ意見ヲ聽カスシテ判決ヲ爲シタルニ係ル) 明治十九年 四六五
- 一 官 文 書 偽 造 / 件(起訴ナキ事件ニ對シテ附帶犯ヲ以テ論シタルニ係ル) 明治十九年 四六九
- 違警罪公判ノ故障ニ關ス
- 一 詐 欺 取 財 / 件(民事原告人ノ故障ニ係ル) 明治十九年 四七三
- 通則ニ關ス
- 一 詐 欺 取 財 / 件(公判手續ニ係ル) 明治十九年 四七七
- 上告ニ關ス
- 一 委 託 物 拐 帶 / 件(換刑處分ニ係ル) 明治十八年 四八一

再審ニ關ス

一 詐 欺 取 財 ノ

件受刑者死亡シ親族ヨリ反
對ノ證據ヲ呈出シタルニ
係ル 明治十九年
第四百二十四號 四八三

裁判管轄ニ關ス

一 證 書 偽 造 ノ

件犯罪舊新兩法ニ照シテ裁
判管轄ヲ異ニシタルニ係
ル 明治十七年
第四百六十二號 四八六

一 擄 ニ 人 ヲ 制 縛 ノ

件控訴裁判所ニ於テ終審裁
判ニ對スル事件ヲ受理シ
タルニ係ル 明治十九年
第四百二十三號 四九二

一 盜 贓 牙 保 ノ

件大審院ヨリ某裁判所へ移
シタル事件ノ裁判ニ係ル 明治十八年
第四百七十二號 四九七

右合計百十件

明治十九年大審院刑事判決錄

刑法ノ部

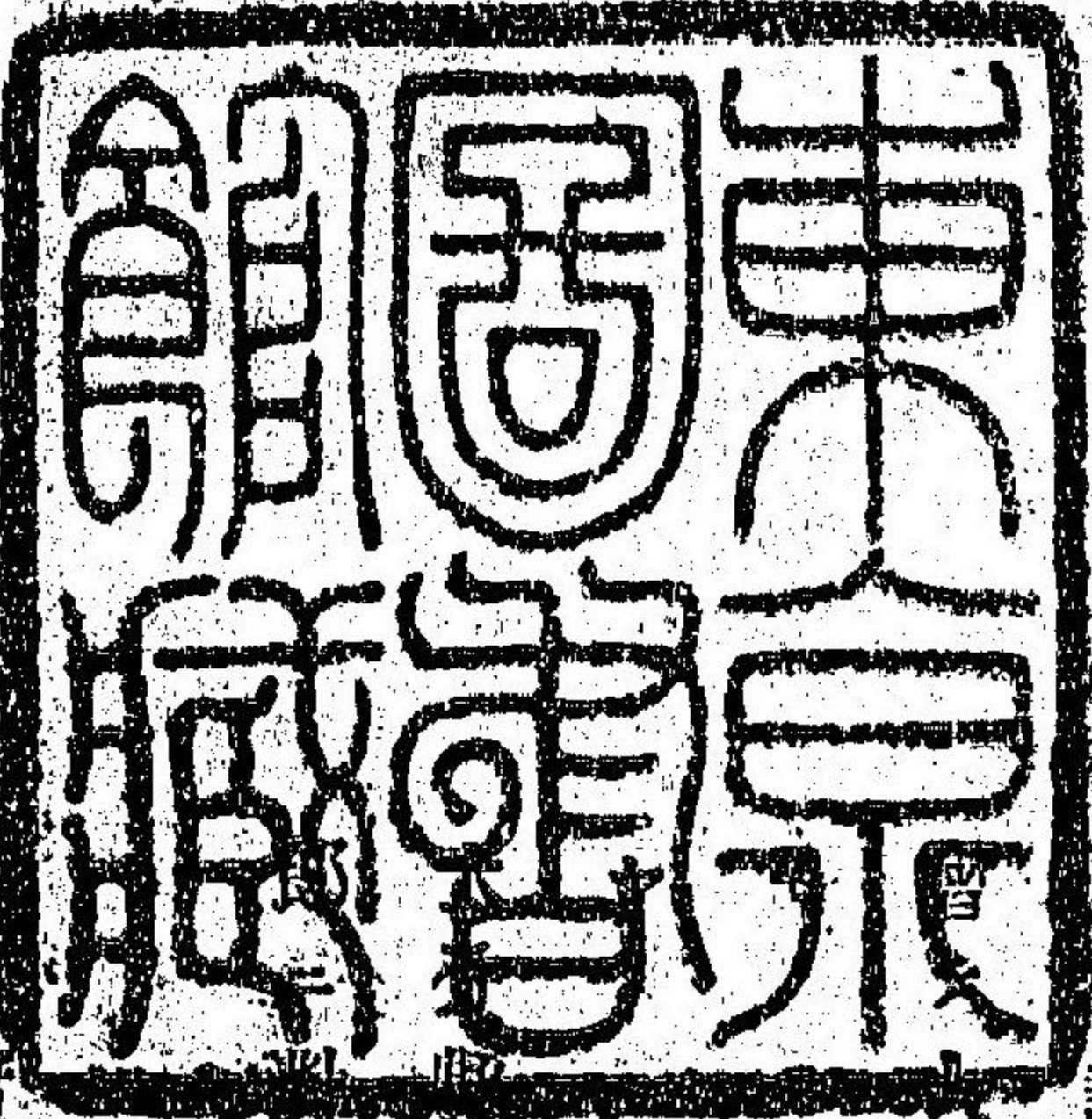
法例ニ關ス

○地所冒認ノ件明治十八年
第四百四十八號

大ノ地所ヲ冒認シ抵當ト爲シ新法實施後ニ至リ發覺シタル
繼續犯ヲ以テ論シ新法ニ照シ罰スヘキヤ將々即時犯ナル

直入郡倉木村田中元一郎事現今全郡藤渡村平民本田元一
ニ對スル被告事件

初審 大分輕罪裁判所



本件ノ事實被告本田元一郎ハ當時直入郡倉木村戸長奉職中明治十二
年三月二十九日直入郡玉來村飯倉常盤外壹名ヨリ金拾壹圓借用スル
際直入郡倉木村阿南熊太郎所有ノ全村字森浦ノ田地二反五步ノ地所

ヲ被告ノ所有ナリト詐リ當時筆生森乾作ニ命シ該證書ニ戸長代理ノ
 本ノ全人ノ公證ヲ受ケ之ヲ抵當ニ書入レタル後明治十七年六月廿四
 日ニ該所爲ヲ竹田警察署ニ書面ヲ以テ自首シタルモノニテ明治十七
 年十二月廿二日初審裁判所ハ被告カ自首ハ被害者ノ覺知後ニ係ルモ
 ノニテ其効ナキモノトシ本件ハ明治十二年三月廿九日證書ヲ詐爲シ
 タルモノニシテ既ニ公訴ノ期滿免除ヲ得タル者ノ如クナルモ明治十
 七年六月九日付戸長ノ保證書ヲ被害人カ受領スル迄ハ行旨原文ノ繼續
 シタルモノニ付期滿免除ヲ得タル限りニ非スト判定シ刑法第三百九
 十三條第三百九十條第三百九十四條ニ依リ重禁錮二月罰金五圓監視
 六月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其
 要領ハ被告カ犯罪ハ即時犯ナリ而シテ犯罪ノ日即チ明治十二年三月
 二十九日ヨリ滿四年餘ヲ經テ發覺シ既ニ公訴期滿免除ノ期限過キタ
 ルヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキニ原裁判所ハ之ヲ犯罪發覺ノ日マテ

繼續シタルモノトシ刑ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ
 而シテ被告ハ該上告ニ對シ答議ナシトノ答辯ヲ爲シ後附帶上告ヲ爲シ
 タリ其要旨ハ被告カ所爲ハ即時犯ナルヲ繼續犯ト爲シタルハ擬律ノ
 錯誤ナリ而シテ原裁判所ハ被害者カ戸長ノ保證ヲ得タル日マテ繼續
 シテ犯シタルモノトセラレタルニ其前已ニ被害者ニ覺知セラレ因テ
 利子ヲ差入レ延期ヲ請フタルアリ已ニ斯ノ如ク發覺シタルモノナ
 レハ被告ハ尙ホ被害者カ戸長ノ保證ヲ得ル日マテ犯罪ノ意ヲ逞フセ
 ン、スルモ爲シ得ヘキニアラス而シテ原判文ニハ初メニ被害者ノ覺
 知後ナリトテ自首ノ効ナシトシ後ニ戸長ノ保證ニ因リ被害者初メテ
 其犯罪ヲ覺知セラレタルモノトセラレタルハ理由ノ齟齬ナリト又被
 告ハ私訴ノ裁判言渡ニ對シ明治十八年一月十五日上告ノ申立ヲ爲シ
 タリ其趣旨ハ公訴ノ期滿免除ヲ得レハ從テ私訴モ亦期滿免除ヲ得ヘ
 キモノナルニ原裁判所ハ原告ノ請求スル金額二十圓九十一錢六厘ヲ

償却スヘシト言渡サレタルハ不當ナリト云ヒ大審院立會檢事ハ被告
 カ所爲ハ戸婚律盜賣田宅條ニ依リ贓金十圓以上懲役七十日已ニ三年
 以上輕過シテ發覺シタルヲ以テ舊惡減免例圖ニ依リ全免スヘキモノ
 ナルニ原裁判爰ニ出テサルハ違法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト論
 シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十八條ニ照シ
 原裁判ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク被告カ私訴裁判ニ對シ上告スルモ原裁判言渡ハ明治十
 七年二月廿二日ニシテ被告ノ上告ハ明治十八年一月十五日ナレハ既
 ニ上告期限經過シタルヲ以テ其効ナシ又被告ハ前掲ノ如ク原裁判ハ
 彼此理由ニ齟齬アリト云フモ原裁判所カ被害者ノ覺知後ニ係ルヲ以
 テ自首ノ効ナシトシタル其覺知ハ明治十七年六月九日被害者カ戸長
 ノ保證ヲ受領シタル時ヲ云フモノナレハ決シテ理由ノ齟齬アラサル
 ナリ然レモ其他人ノ地所ヲ冒認シテ抵當ト爲シタル所爲ハ其冒認シ

タル地所ヲ抵當ト爲シタル時即チ明治十二年三月廿九日ニ於テ即時
 成立ツ犯罪ナルヲ以テ從テ刑法第三條第二項ニ照シ新舊法ヲ比照シ
 テ所斷スヘキモノナリ然而シテ舊法ニ於テ凡ソ贓ヲ以テ論スル罪ハ
 犯所當時中等ノ物價ニ據テ其價錢ヲ估計シ以テ刑期ヲ定ムルモノナ
 ルニ該價錢ノ估計ナキヲ以テ其刑期ヲ知ルニ由ナク隨テ新舊法ヲ比
 照スルヲ得サルモノナレハ所謂其理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト
 ス

○偽證ノ件明治十三年第七百三十三號

重禁錮ノ刑ニ科料ヲ附加シタル場合ニハ其裁判ハ破毀スヘキ原
 由アルヤ否

福島縣岩代國安達郡二本松町字竹田六十八番地平民利左衛門弟
 無職業佐藤丑藏同縣同郡本宮驛字仲町三十九番地平民煙草
 小賣商齋藤茂三郎ニ對スル被告事件

初審 仙臺輕罪裁判所

終審 宮城控訴裁判所

本件ノ事實被告佐藤丑藏齋藤茂三郎カ偽證被告事件ニ對シ明治十九年三月十七日初審裁判所ハ犯罪ノ證憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ從ヒ無罪放免スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢察官ハ控訴ヲ爲シタルニ終審裁判所ハ更ニ審理ヲ遂ケ被告丑藏ハ無鑑札ニテ煙草仲買ヲ爲サントシ明治十八年十二月四日福島縣岩代國安達郡本宮驛ニ於テ被告茂三郎カ周旋ニテ本田文助ヨリ無印紙刻煙草百奴玉造二百三十箇ヲ代金十圓ニ買受ケ内二十箇ヘ已ニ貼用シタル古印紙ヲ再貼シ明治十八年十二月五日之ヲ伊達郡及ヒ仙臺地方ヘ行商セントシタル途中信夫郡伏拜村ニ於テ福島縣收稅屬渡邊猪馬衛ニ發見セラレタルヨリ其場ヲ逃走シ十二月八日事實ヲ詐リ福島輕罪裁判所ヘ自首シ而シテ十二月十四日渡邊猪馬衛ノ訊問ヲ受クルニ際シテ初メ

ハ三春在ノ笹山久治ヨリ買取リタルモノナリト陳述シ尙ホ詳細ノ訊問ヲ受クルニ至リ本田文助ヨリ齋藤茂三郎ノ口入ニテ買取リタルモノナリト自白スルニ依リ右猪馬衛ハ十二月廿八日被告丑藏及ヒ本田文助ノ犯罪ヲ福島輕罪裁判所檢事ニ告發シタル處文助ハ明治十九年一月十一日同所ニ於テ煙草稅則第三十五條ニ依リ二十圓ノ罰金ニ處シ尙ホ其賣代金拾圓九拾五錢三厘ヲ追徵スト言渡シタリ然ルニ文助ハ其言渡ニ對シ當控訴裁判所ヘ控訴ヲ爲シタルニ付被告丑藏及茂三郎ハ二月三日原告官ノ證人トシテ呼出ヲ受ケ宣誓ノ上其事實ヲ證明スルニ際シ被告兩名ハ本田文助ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ隱蔽シテ丑藏ハ明治十八年十二月四日文助ヨリ煙草ヲ買受ケタルヲナシ明治十八年十二月五日ニ差押ヘラレタル煙草ハ其前日須賀川ヘ鶏卵ヲ買ヒニ行カントスル途中石垣ニテ三春在ノ笹山久治ト申者ヨリ買取リタルモノニシテ其件ニ付テハ十二月八日福島輕罪裁判所ヘ自首シ十二月

廿三日裁判ヲ受ケタリ云々ト偽證シ被告茂三郎ハ賣買ノ口入ヲ爲シタルトナシト偽證シタルモノニシテ明治十八年十二月廿三日福島輕罪裁判所カ裁判シタル言渡ハ菅ニ渡邊猪馬衛ノ告發前ニ係リ未タ其賣渡シタルモノ、姓名ヲ知り得サルノミナラス其言渡書ニハ明治十八年十二月中煙草營業鑑札ヲ受ケスシテ云々他へ賣捌ク目的ヲ以テ姓名ヲ不知者共ヨリ云々即チ無鑑札ニテ煙草仲買營業ヲ爲シタルモノナリ云々ト在テ福島輕罪裁判所ハ其賣渡人ノ誰タルニ拘ハラヌ無鑑札ニテ營業ヲ爲シタルヲ罰スルノ裁判ナレハ該裁判確定シタルヲ以テ被告等カ本田文助ヨリ口入且買受ケタル證據明瞭ナル事實ニ迄及ホスヲ得ス況ンヤ明治十八年十二月十四日渡邊猪馬衛カ作りタル被告丑藏ノ訊問調書ニ本月四日須賀川地方へ卵買入ノ爲メ二本松ヲ出立同日日本宮村齋藤茂三郎方へ行不圖心ヲ替へ煙草買入度旨ヲ右茂三郎へ依頼セシ處云々自分一人ニテ本田文助方へ行同人へ金拾

圓ヲ渡シ右無印紙ノ煙草二百拾箇ヲ引取歸宅致候ニ相違無之トアルト印紙再貼用ノ貳拾箇ハ云々トノ問ニ全ク其煙草モ本田文助ヨリ同時ニ買受ケ印紙ノ儀ハ云々答へアルトニ照セハ福島輕罪裁判所カ言渡シタル事件ハ渡邊猪馬衛カ發見シタル事件ニシテ事實的當ノ白狀タルヤ明瞭ナリ而シテ被告ハ渡邊猪馬衛カ作りタル調書ニ對シ非難スル所アルモ暴行ヲ加へ又ハ凌虚ノ所爲ヲ以テ作りタルモノナリト認ムヘキ證左ナク福島輕罪裁判所カ沒收ノ言渡ヲ爲シタル末福島縣信夫郡役所へ引繼タル煙草ノ内ヲ檢スルニ其結束シタル帶ヒ本田文助製造場用等ノ文字ヲ記載シアルヲ以テ之ヲ觀レハ益以本田文助ヨリ買取リタル事實ナルヲ被告丑藏ハ其事實ヲ包藏シテ不實ノ證言ヲ爲シタルモノト確認ス被告茂三郎ハ賣買ノ口入ヲ爲シタルトナシト陳述スルモ明治十八年十二月十四日福島縣收稅屬渡邊猪馬衛カ作りタル被告佐藤丑藏ノ訊問調書ニ本月四日須賀川地方へ云々本宮村齋藤

茂三郎方へ行不圖心ヲ替へ煙草買入度旨ヲ右茂三郎へ依頼セシ處同人承諾シ早速本田文助方へ行取引ノ相談致吳無印紙煙草百匁玉二百十箇云々又仙臺輕罪裁判所豫審掛カ汝ニ對スル訊問本田文助ト申者ハ如何ナルヤノ問ニ是ハ同町ニテ懇意ナリト答へ汝ハ文助ヨリ煙草ヲ買受ケタルコアリヤノ問ニ左様ナリ買受ケタルコアリト答へタルヲ以テ觀ルモ本田文助ヨリ無印紙煙草ヲ被告丑藏へ口入シタルモノト認定スルヲ得右ノ理由ナルニ付初審裁判所ノ裁判ハ其當ヲ得サルヲ以テ治罪法第三百六十八條第三百四十四條第一項ニ依リ之ヲ取消シ刑法第二百十八條第二款^{元ノ}ニ依リ處分スヘキ處情狀原諒スヘキ所アルヲ以テ第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ被告佐藤丑藏齋藤茂三郎ニ對シ各重禁錮十五日ツ、ニ處シ尙ホ第七十一條ニ照シ科料金壹圓ツ、ヲ附加スト言渡シタルニ之ヲ不當トシ被告等ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告等カ當テ宮城控訴裁判所へ證人トシテ呼

出サレ陳述シタル事柄ハ皆眞實ニシテ偽證ニアラサリシコトハ本田文助ノ陳述其他數多ノ證據ニ依リ明カナリ然ルニ原控訴裁判所ハ檢察官カ被告丑藏ニ對シ暴行凌虐ヲ加へ成リ立タル調書ニシテ自由認意ノ白狀ニアラサルモノ其他信ヲ措クニ足ラスシテ採用スヘキモノニアラサル證據ヲ以テ被告等カ斷罪ノ證トナシタルハ假令證據ノ取捨ハ裁判官ノ特有スル權利ナリトスルモ採用ス可ラサル證據ヲ輒ク採用シ最モ信用スヘキ證據ニ就テハ一言ノ辯明ヲモ與ヘスシテ輕シク之ヲ棄擲シタルハ越權ノ處分ナリト云ヒ終審裁判所檢察官ハ被告等ノ上告ハ其理由ナキ旨ヲ辯シ且附帶上告ヲ爲シタリ其要領ハ附加刑ハ刑法第十條ニ規定アリ他ニ科料ヲ附加スルノ法條ナキヲ以テ附加ノ罰金ハ減シテ寡數壹圓九拾五錢以下ニ及フモ尙ホ貳圓以上ノ罰金ヲ附加スヘキニ原裁判カ禁錮ノ刑ニ科料ヲ附加シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ附帶上告ノ如ク擬律ヲ誤

リタルモノト認メ原裁判言渡ヲ破毀シ被告等カ所爲ハ刑法第二百十八條第二ニ該當スル處所犯情狀原諒スヘキヲ以テ同第八十九條同第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ仍ホ同第七十四條ニ照シ十五日以上六月以下ノ重禁錮壹圓以上拾圓以下ノ罰金範圍内ニ於テ被告佐藤丑藏齋藤茂三郎ニ對シ各重禁錮十五日ニ處シ罰金二圓ヲ附加スト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本案被告等カ上告論旨ハ專ラ法律上裁判官ニ任從シタル職權内ニ立入り事實ノ認定證據ノ採擇ニ非難ヲ容ル、ニ過スシテ正當ノ理由ナシト雖モ刑法第十條ニ依ルニ罰金ヲ附加刑ノ一ニ規定シアルコト判然ナレモ科料ヲ以テ附加スルコトヲ規定シタル法條ナケレハ體刑ニ附加スルハ必ス罰金ニ止ム可キコトハ言フ俟サル處ナリ故ニ減等ノ場合ニアリテモ寡數科料ノ金額内ニ及フモ多數仍ホ罰金ノ金額ヲ下ラサル時ハ罰金ヲ以テ附加ス可キハ當然ナルニ原裁判所ニ於

テ被告等カ重禁錮ノ刑ニ刑法第七十一條ヲ引用シ科料ヲ附加シタルハ全ク法律ヲ誤解シタルモノトス何トナレハ科料ノ附加刑トナス可キモノニアラサルコトハ前辯明ノ如クナルノミナラス該第七十一條ハ重刑ノ罰金減盡シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ附加罰金ヲ加減スルコトハ同第七十四條ニ依ル可キモノナレハナリ依テ原裁判ハ全ク原檢察官附帶上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ出タルモノニシテ即チ治罪法第四百十條第十項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス

加減例ニ關ス

○公證文書偽造ノ件明治十八年
第五百八號

新法實施前ニ係ル證書偽造行使ト詐欺取財ト發覺シタル場合ニ

ハ第一犯罪ト第二犯罪トヲ比照シテ處分スヘキヤ否

岐阜縣美濃國多藝郡蛇持村平民農佐竹柳次郎ニ對スル被告事件

初審 岐阜重罪裁判所

本件ノ事實ハ明治十八年四月十八日初審裁判所ニ於テ被告佐竹柳次郎ニ對シ被告ハ明治十四年二月中佐竹彌三郎ヨリ清水宇三郎ヘ地所三段九畝十三步賣渡ノ契約ヲナシタル際佐竹桂左衛門佐竹銀右衛門佐竹彌三郎ト共謀シ右三段九畝十三步ノ地所ヲ已ニ彌三郎ヨリ銀右衛門ヘ三番抵當トナシタル金四百圓ノ借用證書ヲ偽造シ以テ宇三郎ヨリ金圓ヲ騙取シタルヲ無之旨陳辯スルト雖モ證人佐竹光次郎佐竹傳右衛門事實參考人佐竹ヤワノ豫審調書清水宇三郎及共犯人佐竹彌三郎ノ陳述押收シタル證書ニ徴シ其事實ヲ推測スルニ被告ハ明治十四年二月中美濃國多藝郡蛇持村佐竹彌三郎ヨリ同郡直江村清水宇三郎ヘ地所三段九畝十三步ヲ代金六百拾貳圓ニテ賣渡ノ約定ヲナシタル際彌三郎及佐竹桂左衛門佐竹銀右衛門ト相謀リ宇三郎ヨリ金圓若干ヲ騙取セントノ目的ニテ明治十四年一月十四日付ニテ彌三郎ヨリ銀右衛門ヘ宛テタル金四百圓ノ證書ニ該證書ヲ三番抵當ニ書入レア

ル如ク詐爲シ蛇持村用係佐竹傳右衛門ニハ其情ヲ明カサス公證セシメ而シテ宇三郎ニ於テ彌三郎ヨリノ地所賣渡證書ニ公證ヲ願出タル際銀右衛門ニ於テ該地所ハ金四百圓ノ證書ニテ金百五十五圓ヲ彌三郎ヘ貸與シアルニ付其元利金ヲ返濟セサレハ公證ハ與ヘ難クト申聞ケ終ニ宇三郎ヨリ金六拾貳圓及銀右衛門ヘ宛テタル金九拾八圓ノ借用證書ヲ騙取シタルモノトノ認定ヲ下シ第一公正證書偽造行使第二詐欺取財ノ所爲アリトシ犯時新法實施以前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ新法ニ照セハ第一犯罪ハ刑法第二百四條第二犯罪ハ刑法第三百九十條ヲ適用シ數罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第二百四條ニ依リ輕懲役舊法ニ照セハ第一犯罪ハ詐爲官文書條ニ依リ懲役百日第二犯罪中其金六十貳圓ヲ騙取シタルハ詐欺取財條ニ依リ賍金六拾圓以上竊盜ニ準シテ懲役一年半其借用證書ヲ騙取シタルハ未得財ヲ以テ論シ同條ニ依リ懲役四十日數罪俱發スルヲ以テ二罪

俱發以重論條ニ依リ詐欺取財ヲ以テ論シ懲役一年半輕キ舊法ニ從ヒ懲役一年半ニ處ス但シ押收シタル金四百圓ノ偽造證書一通ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ地所賣渡證書外三通ハ佐竹キワ清水宇三郎ヘ還付シ地券書換願寫外五通ハ還付スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ該證書ハ毫モ關係セス彌三郎光次郎等カ被告ヲ陷害セントシタルモノニテ全ク何等ノ事實モ知ラサレハ無罪ナリ云々ト論シ尙ホ追申書辯駁書等ヲ差出シ論スル所ハ之ヲ要スルニ原裁判官カ採取シタル證據物件又證人參考人等ノ陳述ハ以テ被告カ犯罪ノ證トスルニ足ラスト又證人ノ陳述ヲ明示セス上告人ヨリ新タニ呈供シタル數多ノ證據ヲ明示セサリシハ治罪法第三百四條ニ背戾セリ又被告ヲ正犯者トスレハ舊法ニ依リ共犯罪分首從條ヲ適施スヘキニ之ヲ爲サ、ルハ理由ヲ付セサル裁判ナリ又九拾八圓ノ證書ハ眞正ナルモノナルニ之ヲ未得財ヲ以テ論シタルハ

不當ナリ又證人參考人ノ豫審調書ヲ朗讀セサリシハ越權ナリ又彌三郎ヨリ宇三郎ヘ賣渡シタル地所ハ三番抵當ニ書入アル地所ト異ナル地所ナルニ何レノ地所ヲ指シタルヤ明示セス又犯罪ノ年月日ヲ明示セス又證書ヲ騙取シタルハ未得財ヲ以テ論シ云々トアリテ如何ナル理由ニ依ルカ更ニ明示セサルハ皆不法ノ裁判ナリト云ヒ又金六拾貳圓及ヒ九拾八圓證書騙取ノヲ訊問モセス證據ノ取調モセス其理由ヲモ付セスシテ處斷シタルハ越權ナリト主張シ大審院立會檢事ハ被告カ上告ハ牽強附會ニシテ事實ヲ論難スルニ過キサルモ其第二ノ犯罪ハ舊法懲役一年半新法二月以上四年以下ナルヲ以テ十四年第八十一號公布第二條ニ照シ新法ニ從ヒ處斷スヘキノミナラス新舊法比照ヲ愆リタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ附帶上告スト論告シタリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤ニ出テタルモノトシ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ原裁判所

カ認ムル被告カ所爲ハ犯時新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項新舊比照例第一條ニ照シ新舊法ヲ比照セシニ第一犯罪ハ新法ニ於テハ刑法第二百四條第一項ニ問擬シ輕懲役舊法ニ於テハ新律綱領詐爲官文書條餘ノ文書ヲ以テ論シ懲役百日輕キ舊法ニ從テ處斷スヘク第二犯罪ハ新法ニ於テハ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ問擬シ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金六圓以上二年以下ノ監視ニ該リ舊法ニ於テハ新律綱領詐欺取財條ニ問擬シ竊盜ニ準シテ論シ贓金六拾圓以上懲役一年半證書ヲ詐取シタルハ未タ金額ヲ得サルヲ以テ未得財トシ懲役四十日舊法ノ刑期新法ノ刑期内ニ在ルヲ以テ新舊比照例第二條第六條第十條ニ照シ新法ニ從ヒ單ニ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スヘク刑法第三百九十條第二項ニ從ヒ其重キ第二ノ犯罪ヲ以テ新法ニ從ヒ處分スヘキモノト認メ被告佐竹柳次郎ヲ重禁錮一年六月ニ處斷シ但書ハ原裁判ヲ是認シタル

モノニ係ル

其理由ニ曰ク被告カ上告中証人ノ陳述ヲ明示セス上告人ヨリ呈供シタル新証據ヲ明示セスト云フモ法律上事實ノ理由ヲ明示ストハ裁判官カ其認定スル所ノ事實ヲ明示スルヲニシテ其他証人ノ陳述ノ如キヲ明示スルヲ要セス又採取セサル証據ハ判文ニ記載スルヲ要セス故ニ此等ハ決シテ不法ト云フヲ得サルモノトス又舊法共犯罪分首從條ヲ適用セスト云フモ原判文ニ被告カ首犯タルヲ明瞭ナレハ殊更ニ分首從條ヲ明記セサルモ刑ニ差異ヲ生セサルヲ以テ敢テ不法ト云フヲ得ス又豫審調書ヲ朗讀セスト云フモ公判始末書ヲ閱スルニ被告ハ異議ノ申立ヲモ爲サ、ルモノナレハ直チニ上告ノ理由ト爲スヲ得ス又三番抵當ノ地ト賣渡ノ地ト異ナルニ何レノ地所ナルカヲ指示セスト云フモ原裁判官カ同一ノ地所ト認ムル上ハ其地名番號等ヲ明示スルヲ要セサルモノトス又犯罪ノ年月日ヲ明示セスト云フモ原判文ヲ閱

スルニ明治十四年二月中云々トアルヲ以テ被告ノ犯罪ハ即チ十四年二月中ニアルヲ明瞭ナレハ敢テ日時ヲ示サ、ルモ其日時カ期滿免除ニ關セサルハ妨ケナキモノトス又證書ヲ騙取シタルハ未得財ヲ以テ論シ云々トアリテ如何ナル理由ナルカヲ明示セスト云フモ這ハ法律上ノ理由ヲ示シタルモノニシテ證書ハ現金ニ非サルニ因リ未得財ヲ以テ論シタルヲ明瞭ナレハ其理由ヲ明示セスト云フヲ得サルモノトス又金六十圓及ヒ證書ヲ騙取シタルヲ取調ヲ爲サス證據ノ取調モ亦爲サス其理由ヲモ付セスト云フモ公判始末書ヲ閱スルニ之カ取調ヲ爲シ且證據書類ヲ指示シテ辯解ヲ爲サシメタルヲ明瞭ナレハ之カ取調ヲ爲サスト云フヲ得ス且證據物件ニ對シ逐一其理由ヲ付セヨトノ法律アルヲナキヲ以テ此等ハ決シテ上告ノ原由トナラス其他被告ノ上告ハ皆法律上裁判官ニ特任セラレタル證據ノ採擇事實ノ判定ニ對シ非難スルニ過キサルモノナレハ是亦上告ノ原由ト爲スヲ得サ

ルヲ以テ總テ被告ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ照シ棄却スト雖モ附帶上告論旨ノ如ク原裁判ハ新舊法ヲ比照スルニ同一ノ犯罪ヲ以テセシメテ第一犯罪ト第二犯罪トヲ比照シタルノミナラス新舊法比照例第二條ニ照シ新法ニ從テ處斷スヘキニ舊法ニ從テ處斷シタルハ違律錯誤ノ裁判ナリトス

刑罰計算ニ關ス

○印影盜用私書偽造ノ件明治三十八年第四百三十七號

私書偽造罪ノ期滿免除ハ偽造ノ日ヨリ起算スヘキモノナリヤ將ニ行使ノ日ヨリ起算スヘキモノナリヤ

三重縣志摩國英虞郡鹽屋村平民農業東畑太之助ニ對スル被告事件

初審 山 田 支 廳

本件ノ事實ハ被告太之助ニ於テ明治十三年十一月中向井平吉刑部補次郎ナル者ノ印影ヲ盜用シ刑部補次郎外壹名ヨリ被告ヘ宛タル賣渡

地所ニ付約定書ト題セル證書ヲ偽造シ明治十七年六月中名古屋控訴
 裁判所へ提供シ之ヲ行使シタルモノニテ初審裁判所ハ明治十七年十
 二月廿三日ヲ以テ右被告ノ所爲ハ新法實施以前ニ係ルヲ以テ新舊法
 ヲ比照スルニ舊法ニ在テハ印影盜用罪ハ新律綱領雜犯律不應爲輕ニ
 該リ私書偽造罪ハ改定律例第二百四十六條不應爲重ニ該リ新法ニ在
 テハ印影盜用罪ハ刑法第二百八十條第二項第八十一條第二百十二條
 ニ該リ私書偽造罪ハ刑法第二百十條初項第八十一條第二百十二條ニ
 該リ共ニ二罪俱發ニ付キ重キ私書偽造ノ罪ニ從ヒ輕キ舊法ニ照シ處
 分スヘキ處被告カ犯セシ輕罪ハ滿三年ヲ經過シ發覺セシ事件ナルヲ
 以テ治罪法第九條ノ第六項ト第十一條第三百五十八條第二項ニ依リ
 免訴且放免スル旨言渡シタルニ檢察官ニ於テハ證書偽造ノ罪ハ舊法
 ニ在テハ行使未行使ヲ問ハス之ヲ罰セシト雖モ新法ニ於テハ證書ヲ
 偽造スルモ其偽造ハ豫備ノ所爲ナルヲ以テ之ヲ問ハス行使ヲ待テ初

メテ罰スヘキハ刑法第二百十條ノ明示スル所ニシテ偽造行使ノ罪ハ
 其偽造ノ年月ヲ問ハス行使ノ日ヲ以テ一罪ヲ構成スルノ謂ナレハ行
 使ノ日ヨリ滿三年ヲ經タル者ニ非サレハ期滿免除ヲ得ル能ハサルヤ
 明矣又刑法第二百八條末項ニ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ云々トア
 ルハ未行使者ヲ罰スルノ律意ニアラサルヲ以テ被告第一ノ所爲ハ刑
 法第二條ニ基キ無罪ト爲サ、ルヘカラサルニ原裁判所カ前顯ノ如ク
 處斷シタルハ擬律錯誤ト思料スル旨繼々論告シタリ而シテ被告ニ於
 テモ亦第一本案判決以前被告ハ刑部楠次郎代人向井平吉ヨリ被告實
 父東畑太郎左衛門宛ノ預ケ金請取證及約定證ト題スル證書ヲ偽造シ
 名古屋控訴裁判所へ提供行使シタリトノ公訴アリテ當時被告及辯護
 人ニ於テ同一ノ事件ナレハ數罪俱發ノ例ニ依リ同時ニ審問判決アラ
 ンヲヲ請求セシニ原裁判所カ之ヲ採用セス本案ノモノ判決ヲ與ヘタ
 ルハ不法ナリ第二原裁判所カ證據ト爲スニ足ラサルモノヲ取テ證據

充分ナリト認定シ其理由ヲ付セサルハ不法ナリ第三本案ノ證書ハ其成立チ眞正ノモノナレハ無罪ヲ言渡スヘキモノナルニ原裁判所カ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリ第四本案ノ證書ヲ以テ假リニ偽造ト爲スモ之ヲ行使シタル場所ハ名古屋控訴廳ナルヲ以テ本案ハ原裁判所ノ管轄ニアラサルニ之ヲ審判シタルハ不法ナリトノ附帶上告ヲ爲シタリ然レモ刑事局ニ於テハ附帶上告ハ其理由ナキモノトシテ之ヲ棄却シ檢察官上告第一論旨ハ其理由ナキモ第二論旨ハ相當ナリト認メ治罪法第四百廿九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ直ニ被告太之助ニ對シ被告ノ所爲ハ他人ノ印影ヲ盜用シ私書ヲ偽造シテ行使シタル者ト確認ス仍テ印影盜用ノ所爲ハ刑法第二百八條第二百十二條ニ依リ私書偽造行使ノ所爲ハ刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ二罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ照シ情狀最重キ第二百八條ノ罪ニ從ヒ一等ヲ減シ處分スヘキ處犯罪情狀原諒スヘキモノアルヲ以テ仍ホ刑法第八十

九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ二月七日ノ重禁錮ニ處シ貳圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スルモノト判決シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク被告カ附帶上告第一論旨ニ付公判始末書ヲ閱スルニ刑部楠次郎代人向井平吉ヨリ被告カ實父東畑太郎左衛門宛ノ預ケ金請取證及ヒ約定證ヲ偽造行使シタル事件ハ本案事件ト各別ニ公訴アリタルモノナリ而テ原裁判官ハ被告等ノ同一ノ事件ナレハ數罪俱發ノ例ニ依リ同時ニ併テ審問判決アリタシトノ請求ヲ採用セスト言渡シタルモ被告ハ之ニ對シ別ニ異議ノ申立ヲ爲サ、ル上ハ上告ヲ爲スノ理由アラサルモノトス第二第三ノ論旨ハ之ヲ要スルニ原裁判官ノ心證判斷内ニ立入り證憑ノ取捨事實ノ判定ニ對シ其當否ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ原由アリト爲スヲ得ス第四ノ論旨ハ管轄違ナリト云フニ在レトモ治罪法第四百十一條ニ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタルヲ又ハ犯

罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ上告ヲ爲スコトヲ得ストアレハ其上告ノ効ナキヤ言フ俟ス結局附帶上告趣旨ハ相立タス治罪法第四百二十七條ニ從ヒ棄却スト雖モ其新舊法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ且期滿免除ヲ得タルモノトシ免訴シタルハ瑕瑾タルヲ免カレス抑印影盜捺私書偽造ノ罪舊法ニ於テハ行使未行使ヲ分別セス罰スルモノナルモ新法ニ於テハ刑法第二百八條後項ニ若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者トアリ第二百十條ニハ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者トアリ何レモ行使ニ因テ始メテ其罪成立スヘキモノニシテ盜捺シ偽造増減變換シタルノミナレハ唯豫備ノ所爲タルニ過キス法律ノ制裁スル所ニ非ス則チ舊法豫備ノ所爲ヲ罰スル刑ハ新法ニ因テ廢止ニ屬シタルモノナリ果テ然ハ舊法中ニ於テ盜捺偽造等ノ所爲ヲ爲シ新法實施後ニ及テ始メテ行使シタル場合ハ單ニ刑法第二百八條第二百十條ヲ適用シ處分スヘクシテ新舊法ヲ比照スヘキモノニ非ス且公訴期滿免除

期限ハ治罪法第十三條ニ犯罪ノ日ヨリ起算ストアリ本件行使ニ因テ始メテ犯罪ヲ組成スルモノ、如キハ行使ノ日ヲ以テ犯罪ノ日ト爲スヘキナリ而テ被告カ犯罪ノ日ハ明治十七年六月二十八日ニシテ未タ期滿免除ノ期限三年ニ至ラサルモノナレハ免訴ノ言渡ヲ爲スヲ得サルナリ結局本案ハ治罪法第四百十條第十項ノ原由ニ該當スル不法ノ裁判ニシテ檢察官上告第一論旨ハ理由ナシト雖モ第二論旨ハ相當ナリトス

○公證偽造ノ件 明治十七年七月十六號

豫審終結ヲ口供甘結ト同視シ明治七年第五十七號公布ヲ援引シ

豫審終結言渡後ノ日數ヲ刑期ニ算入スヘキヤ否

廣島縣安藝國高田郡上入村平民農元下入江村戸長役場筆生河島

章ニ對スル被告事件

初審 廣島重罪裁判所

本件ノ事實被告河島章二ハ土井高藏カ明治十二年九月十三日所有ノ地所廣島縣高田郡下入江村字十念舊反別三畝壹步壹畝十三步二畝九步二畝二十七步合反別九畝二十步ヲ山本時平ヘ賣却ノ際之カ證人ト爲リ而シテ又高藏ハ明治十三年章二ヨリ借受ケタル米金延滞シテ章二ニ於テ勸解ヲ出願セシモ高藏ハ其義務ヲ果スノ資力ナク折柄章二カ下入江村戸長役場ノ筆生タルヲ以テ高藏ハ竊カニ章二ト謀リ前キニ山本時平ヘ賣渡シタル地所ノ内字十念舊反別二畝二十七步此新反別四畝九步ヲ明治十四年五月廿八日書入質ト爲ス際請人神田多右衛門ヘハ已ニ賣却セシ地所タルヲ告ケヌシテ連署セシメ之ヲ以テ芥川暢次郎ヨリ金二十五圓ヲ借入レテ章二ヘ返還シ又章二ハ高藏カ時平ヘ該地所ヲ賣渡ス時證人トナリ證書ヲ記シタルノミナラス時平ノ所有地ニ歸シ明治十三年二月地券名前換出願中ナルヲハ熟知セシモ自己ノ利益ヲ圖リ即チ貸米金ノ返還ヲ受クル爲メ高藏カ時平ニ與ヘタル賣

却證書ニ戸長ノ公證ナキニ自ラ戸長ノ代理トナリ得可キ資格アルヲ僥倖ニ高藏カ暢次郎ヘ差入レタル證書ヘ與書ヲ爲シ戸長役場ノ印ヲ盜用シテ公證ヲ偽造シタルモノニテ明治十八年八月十七日初審裁判所ハ被告章二カ所犯ハ新法實施前ニアルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ從犯ト爲シ共犯分首從條ニ依リ一等ヲ減スヘキモノナルヲ以テ賊盜律官印條ニ依リ懲役七十日詐欺律詐爲官文書條ニ依リ懲役九十日戸婚律盜田宅條ニ依リ竊盜ニ準シ贓金貳拾圓以上懲役八十日數罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ懲役九十日ニ該ルモ明治七年第五十七號布告ニ照シ豫審終結言渡確定後滯獄日數ヲ除キ曠過スル日數百六日ニシテ本刑ニ過クルヲ以テ直チニ放免スヘキモノトス新法ニ於テハ刑法第二百四條第一項同第二百五條第一項同第二百六條第百九十五條同第百九十七條第一項同第三百九十三條第一項同第三百九十四條ニ依リ同第百條第一項ニ照シ一

ノ重キ重懲役ニ處スヘキモノトス依テ明治十四年第八十一號布告ニ照シ輕キ舊法ニ從ヒ直チニ放免スト言渡シタルニ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ明治七年第五十七號布告ハ口供甘結後獄中ニ曠過セシ日數ヲ刑期ニ算入スルモノニテ治罪ノ手續完備セサル當時ニ必要ナリシモ治罪法實施ノ今日ニ在テハ豫審公判各成規アルヲ以テ假令幾多ノ月日ヲ經過スルモ法律上已ムヲ得サルニ出ル所ニシテ獄中ニ曠過セシト云フ得ス加之原裁判官ハ豫審終結ヲ以テ口供甘結ノ期ト爲シタレヒ豫審終結ハ豫審判事カ證據ノ蒐集ヲ終リ公判ニ移スノ言渡ナレハ此ヲ以テ口供甘結ト同一視ス可カラサルヤ論ヲ俟タサルナリ要スルニ該布告タル今日ニ在テ之ヲ適用スヘキ場合非サルヲ以テ治罪法實施ト同時ニ消滅シタルモノナリ然ルニ原裁判所ハ豫審終結言渡後ノ日數ヲ以テ口供甘結後曠過セシモノトシ該五十七號布告ヲ適用シ直チニ放免ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判

ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ破毀ノ限ニアラサルモノト認メ該上告ハ棄却シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク抑治罪法ニ規定セル豫審終結ハ豫審判事カ證據ヲ蒐集シ被告事件ノ性質ノ何タルヲ認メ公判ニ移スノ言渡ヲ爲スモノニテ公判ニ於テハ更ニ被告人ヲ訊問シ一切ノ證據ヲ取調ヘ裁判ヲ下タスモノナレハ明治七年第五十七號布告ニ所謂口供甘結トハ全ク別異ナルモノナリ何ントナレハ口供甘結トハ既ニ被告事件ノ取調ヘヲ終リ直チニ裁判ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ云フモノナレハナリ畢竟スルニ該布告ハ治罪法實施以前ニ於ケル一ノ治罪手續ヲ定メタル法律ナレハ治罪法實施後ニ在テハ自然廢棄ニ屬シタルモノナリ然ルニ原裁判所カ豫審終結ヲ以テ口供甘結ト同視シ明治七年第五十七號公布ヲ援引シ豫審終結言渡後ノ日數ヲ刑期ニ算入シ直チニ放免シタルハ幾分ノ瑕瑾ヲ免レサルモノト雖モ本件ノ犯罪タル明治十三年二月ニアリテ其

發覺ハ明治十七年ナレハ舊惡減免例圖ニ依リ到底全免ヲ受クヘキモ
ノナレハ原裁判所カ直チニ放免セシモ被告ノ利害ニ毫モ影響ナキヲ
以テ敢テ破毀ノ限リニアラサルモノトス

○私書偽造及誣告ノ件明治十九年
第九百八十六號

數罪俱發シ重キニ從テ處分スル場合ニ其重シト認タル罪ニ對ス
ル刑ノ短期ヨリ輕シトシタル罪ノ刑ノ短期却テ長キハ何レノ
刑期ニ從フヘキヤ

富山縣射水郡守山町平民舟乘業稻垣定吉同縣同郡矢田申岡新村
平民農藏野昌太郎ニ對スル被告事件

初審 富山輕罪裁判所

本件ノ事實被告稻垣定吉藏野昌太郎兩名ハ通謀シ舊戶長伊藤清右衛
門カ稻垣定吉ニ對シ明治十六年度第四期ノ戶數割地方稅ヲ過剩ニ徵
收セシ旨ノ受取書ヲ偽造シ而シテ昌太郎ハ定吉名義ノ告訴狀ヲ作り

伊藤清右衛門ヘ係リ該過稅徵收セントノ誣告ヲ爲シタルモノニテ明
治十九年二月廿三日初審裁判所ハ誣告及私書偽造ノ罪アリト認メ刑
法第三百五十五條第二百二十條二項第二百十條ヲ適用スヘキ數罪ナ
ルヲ以テ第百條ニ照シ偽證ノ犯狀ヲ重シト爲シ昌太郎ハ再犯ニ係ル
ニヨリ第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ五月以上五年以下ノ重禁錮五圓
以上五拾圓以下ノ罰金ニ該り定吉ハ四月以上四年以下ヲ以テ昌太郎
ハ重禁錮六月罰金六圓定吉ハ重禁錮五月罰金五圓ニ處斷シ第二十
二條ニ依リ各監視七月ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢察官ハ
上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ二罪ノ内誣告罪ヲ重シトシテ論定セ
ラレタシト求メタルニ原裁判官ハ偽證書ノ罪ニ從テ處斷シタリ這ハ
其職權内ナレハ敢論セサルモ誣告罪ノ主刑タルヤ其短期六月ニシテ
私書偽造罪ハ四月ナリ其罪惡ニ對シ六月ノ重禁錮ヲ施スヘキ刑罰權
アルニモ拘ハラス其刑期ニ滿タサル前顯刑期ヲ以テ處斷シタルハ所

謂既得權ヲ害シタル越權ノ處分ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ原
 裁判ハ擬律ヲ誤リタルモノトシ治罪法第四百十條第十項第四百二十
 九條ニ依リ之ヲ破毀シ原裁判所カ認メタル事實ニ依レハ被告兩名ハ
 誣告及ヒ私書偽造ノ罪ヲ犯シタルモノナルヲ以テ刑法第二百十條第
 三百五十五條第二百二十條二項ニ該當シ數罪俱發ニ係ルヲ以テ第百
 條三項ニ照シ各私書偽造ノ罪ヲ重シトシ第二百十條ノ刑期內ニ於テ
 稻垣定吉ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ被告藏野昌太郎ハ曩
 キニ輕罪ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ五
 月以上五年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金範圍內ニ於テ重
 禁錮七月十五日ニ處シ罰金六圓ヲ附加シ仍第二百十二條ニ依リ各監
 視七月ニ付スト宣告シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク數罪俱發重キニ從ヒ論スル場合ニ於テ其重シトセシ罪
 ニ對スル刑ノ短期ヨリ輕シトセシ罪ノ刑ノ短期ノ方却テ長キトニ方

テハ其期ヨリ下ラサル刑ヲ當行スヘキモノトス何ントナレハ若シ之
 ヲ下スルハ重キニ從テ論シタル本旨ニ悖レハナリ本案誣告罪ノ主刑
 短期ハ六月ニシテ私書偽造罪ハ四月ナリ原裁判官ハ其職權ヲ以テ私
 書偽造ノ罪ヲ重シト認メタル上ハ宜ク其刑期ノ範圍內ニ於テ六月ヨ
 リ下ラサル刑ヲ當行スヘキニ爰ニ出テス被告定吉ヲ重禁錮五月ニ處
 シ昌太郎ニ對シテハ再犯ノ故ヲ以テ一等ヲ加ヘタルニモ拘ハラヌ六
 月ニ處シ其加等ノ効ナカラシメシハ原檢察官上告論旨ノ如キ越權ノ
 處分トハ稱スヘカラサルモ擬律錯誤ノ裁判ナリトス

數罪俱發例ニ關ス

○委託金拐帶ノ件明治十九年
 第四百八十八號

初犯ノ刑ヲ受ケ尋テ又再犯ノ刑ヲ受ケタル後再犯前ノ犯罪發覺
 シタル場合ニ於テハ初犯ノ罪ト比較シテ處罰スヘキヤ將タ再犯ト
 比較スヘキモノナルヤ(刑法第百二條ノ餘罪トハ如何ナル謂ナル

三重縣三重郡四日市驛濱町二十一番地平民平九郎長男東京監獄
石川島分署已決囚矢田仙松ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所
終審 東京控訴裁判所

本件ノ事實被告矢田仙松ハ神奈川縣橫濱區尾上町五丁目六十二番地
安藤政治郎方ニ雇ハレ明治十七年八月一日午前七時頃同人番頭ノ
申付ニ依リ同區太田町四丁目伊勢梅方へ持參スヘキ金四圓ヲ拐帶シ
爾後自首シ而シテ被告ハ先キニ明治十八年九月二十一日東京輕罪裁
判所ニ於テ詐欺取財ノ罪ニ依リ重禁錮一年罰金十圓監視六月ニ處セ
ラレ現ニ服役中ニ係ルモノニテ明治十九年三月八日初審裁判所ハ刑
法第三百九十五條同第三百九十四條同第三百九十四條同第八十五條及
ヒ全第二百二條第一項ニ依照シ被告初度ノ前科即チ遺失物隱匿ノ罪ト

比較シ後發即チ本案ノ罪ヲ重シト判定シ更ニ之ヲ論シ前刑重禁錮一
月ニ通算シ重禁錮三月罰金四圓監視六月ニ處スト言渡シタル裁判ニ
對シ檢察官ハ控訴ヲ爲シタリ其要領ハ原裁判言渡中事實ノ認定及ヒ
之レニ刑法第八十五條第三百九十四條第三百九十四五ノ兩條ヲ適用シ
タリシハ聞然スルナシト雖モ本案ノ罪ヲ刑法第二百二條第二項ニ依リ
再犯ノ罪ト比較セスシテ同條一項ニ照シ初犯ノ罪ト比較シ更ニ重禁
錮其他ニ處ストノ言渡ヲ爲シタルハ其當ヲ得サルモノト思料スト云
フニアリ終審裁判所ハ被告カ所爲ハ刑法第三百九十五條同第三百九
十條及ヒ同第三百九十四條ニ該リ重禁錮二月以上四年以下罰金四圓
以上四十圓以下監視六月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキモ
未發前自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ一月
十五日以上三年以下罰金三圓以上三十圓以下ノ範圍内ニ於テ二月ノ
重禁錮三圓ノ罰金ニ處シ尙ホ刑法第三百九十四條ニ依リ六月ノ監視

ニ付スヘキモノナルモ被告ハ既ニ詐欺取財ノ罪ニ依リ目下服役中ナルヲ以テ刑法第百二條一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス云々トアルニ照シ前罪ト比較スレハ本案ノ罪ハ輕シト認ムルニ付其罪ヲ論セサルモノトス然ルニ原裁判所カ爲シタル事實ノ認定ハ其當ヲ得ルモ擬律ノ點ニ至テハ被告カ初度ノ前科即チ明治十七年九月廿日東京輕罪裁判所ニ於テ處斷セラレタル遺失物隱匿ノ罪ト比較シ前後ノ刑ヲ通算シ更ニ重禁錮其他ノ刑ヲ言渡シタルハ失當ノ裁判ト認定シ治罪法第三百六十八條同第三百四十四條ニ則リ原裁判言渡ヲ取消シ被告ニ對シ其罪ヲ論セスト言渡シタルニ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ終審裁判所ニ於テ再犯ノ刑期ト比較シタルハ何等ノ理由アル歟蓋シ刑法第百二條第二項ヲ援引シテ本案ノ如キ俱ニ發セスシテ後ニ發シタル者ニモ適用セシナル可シ抑モ該第二項ハ第一項ニ關係ナキ一種ノ特別法ニシテ初犯ノ

時包藏ノ罪再犯ノ罪ト全時ニ俱發セシ時ニ限り適用ス可キ法律ニシテ異時即チ再犯ノ罪處斷後ニ發セシ初犯ノ包藏犯罪ト比較ス可キ者ニ非ラス而シテ又東京控訴裁判所ハ之ヲ同條第一項ニ依據シ再犯ト初犯包藏罪トノ刑期ヲ比較シタリ是亦第一項ノ比較法ヲ誤レル者ナル可シ何トナレハ第一項ニ所謂一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ云云トアル其餘罪トハ前發ノ罪ニ對スルノ謂ニシテ已ニ受ケタル前發罪判決ノ刑期ト比較シ處斷ス可キ者ニシテ其緣故ナキ再犯ノ刑ト比較ス可キ者ニ非サレハナリ故ニ本案始審裁判ノ如ク初犯ノ刑期ト比較シテ處斷スルヲ相當ト考量ス是レ擬律ノ錯誤アリトシテ上告シ破毀ヲ求ムルト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ト認メ治罪法第四百二十九條ニ基キ控訴裁判言渡ヲ破毀シ刑法第三百九十五條末段同第三百九十條同第三百九十四條ニヨリ重禁錮二月以上四年以下罰金四圓以上四十圓以下監視六月以上二

年以下ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキニ該ルモ未發前自首スルヲ以テ刑法第八十五條同七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下罰金三圓以上三十圓以下ノ範圍内ニ於テ處スヘキニ該ル然ルニ被告ハ既ニ他ノ事件ニヨリ再度裁判ヲ受ケタルモノニ付刑法第百二條初項ニ依リ初犯ノ罪即チ遺失物隱匿ノ罪ト比較シ後發ノ罪ヲ重シトシ更ニ之ヲ論シ被告矢田仙松ニ對シ二月ノ重禁錮三圓ノ罰金ニ處シ前刑重禁錮ヲ本刑ニ通算スト裁定シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本訴ハ明治十七年九月廿日初犯遺失物隱匿ノ罪ニ依リ處斷ヲ受ケ又明治十八年九月廿一日再犯詐欺取財ノ罪ニ依リ處斷ヲ受ケタル以前即チ明治十七年八月一日犯シタル委託金拐帶ノ罪發覺シタルモノナルニ付刑法三百九十五條末段同第三百九十條同第三百九十四條ヲ適用シ同法第百二條初項ニヨリ初犯ノ罪即チ遺失物隱匿罪ト比較シ處分スヘキモノトス何トナレハ刑法第百二條初項ニ所謂一罪

前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ云々トアル其餘罪トハ前發ノ罪ニ對スル謂ニシテ已ニ受ケタル前發罪判決ノ刑期ト比較シ處斷スヘキモノナレハ其緣故ナキ再犯ノ刑ト比較スヘキ者ニアラサレハナリ然ルニ東京控訴裁判所ハ本案被告カ所爲ニ對シ刑法第百二條初項ヲ適用シ再犯ノ罪ト比較シ處斷シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○謀殺ノ件明治十九年
第四百四十二號

一人ヲ謀殺シ續テ一人ヲ他所ニ於テ謀殺シタルモ障碍ノ爲メ其目的ヲ遂ケサルモノハ一罪ニ問フヘキヤ將々數罪俱發例ニ依ルヘキヤ

高知縣土佐國高岡郡大内村五十五番屋敷平民農兼紙漉業植田勝吾ニ對スル被告事件

初審 高知重罪裁判所

本件ノ事實被告植田勝吾ハ明治十年四月中醉酩ノ餘リ居村平民植田達次ニ重傷ヲ負ハセ一時踪跡ヲ愛媛縣ニ韜晦セシヲアリシ以來村民已レヲ厭忌シ就中植田久五西村早太氏不詳清吾右衛門等カ首唱者ト爲リ居村ヲ擲ハント企テタリト妄想シ常ニ之ヲ恨ミ居タル處明治十九年五月四日平常ノ如ク紙漉ヲ爲シ其日午後四時頃ニ至リ草臥タリトテ其業ヲ妻子ニ委子置キ鰻ヲ釣ル見込ニテ邸内厠ノ側ラニ於テ唐鍬ヲ以テ蚯蚓ヲ索メ居リシニ適隣家ナル植田久五ヨリ何事ヲ爲スヤト問ハレ魚ヲ釣ルタメ蚯蚓ヲ索ムル旨ヲ答ヘシ處久五ハ未タ魚ヲ釣ル世ニアラストノ一言ヲ遺シテ立去リタルヲ被告ハ該語辭ハ貴様等ハマタ魚ヲ釣リテ慰ム如キ身代ニアラサルヘシト己レヲ侮辱セシモノナリト臆測シ忽然怒氣ヲ發シ遂ニ植田久吾等ヲ殺害シ以テ年來ノ怨恨ヲ散セント決意シタリ而シテ先ツ蒲團ヲ取出シ一旦打臥シ豫メ其方法ヲ考ヘ居リシ處久吾カ入浴セントスルノ模様アルヲ察知

シ同日午後七時頃右ノ唐鍬ヲ携ヘ我本宅ト厠ノ間ヨリ竹垣ヲ押分ケ久吾ノ邸内ニ忍入り其浴場ニ至ルヤ久吾カ浴室ト土藏トノ間ニ在テ身体ヲ拭ヒ居ルヲ認メ突然該鍬ヲ以テ久吾ノ頭部面部胸部ヲ亂撃シ其右顙頂部ニヘノ字形長二寸五分深サ五分開キ四步其稍前上方ニ長一寸深サ三寸開キ二步右顙額部ニ長サ壹寸五分深サ五分開キ五分左顙頂部ニ長サ二寸深サ一分開キ一分左上眼瞼部ニ充血腫脹紫色ヲ呈シ右鎖骨ノ外端ヲ折斷シタメニ久吾ノ仆ルハヲ認メ走リテ西村岩太ノ店ニ到リ店外ヨリ岩太ノ在否ヲ問ヒ岩太ノ雇人久保はるカ岩太ハ醉臥セリト答フルヲ聞キ被告ハ該家ニ立入り岩太ノ臥シ居タルヲ見テ彼ハ岩太ナリヤト問ヒはるニ於テ然リト答フルヤ否携ヘタル唐鍬ヲ以テ岩太ノ頭部ヲ毆打シ左前頭部ニ縱經長二寸五分深サ骨ニ達シ開キ五分ノ傷ヲ負ハシメタルニはるハ大ニ驚キ之ヲ支ヘタルモ尙ホ續テ捶撃セント打下ス唐鍬ノ鴨居ニ當リタル場合該家ニ來合セシ岩太

ノ雇人竹内鹿之助ノ爲メニ其唐鍬ヲ奪ハレタルヨリ早太清五右衛門等ヲ殺害セントノ意氣茲ニ盡キ直チニ伊野警察署ニ自首シ植田久吾ハ右創傷ニ因テ其翌即チ明治十九年五月五日午後五時遂ニ死ニ至リ西村岩太ハ其創傷二十有餘日ヲ經テ全癒シタルモノニテ明治十九年十月二十一日初審裁判所ハ被告カ久吾ヲ謀殺シタル罪ハ刑法第二百九十二條ニ該リ岩太ヲ謀殺セントシテ遂ケサリシ罪ハ同條及ヒ刑法第一百三條第一項同第一百二十二條同第六十七條ニ該ル自首スルモ刑法第八十五條後段ニ依リ減輕ヲ與フ可カラサルモノトス以上數罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ第一ノ罪ニ從ヒ同第二百九十二條ヲ適用シ死刑ニ處ス被告ハ民事原告人植田庄吉ノ請求スル醫料金拾圓並ニ未來ノ損害金五百圓合金五百拾圓同西村岩太ノ請求スル醫料金二十一圓三十錢腐敗ニ係ル楮草代拾五圓休業ノ損害金十八圓合計金五十四圓三十錢ヲ速ニ賠償ス可シト言渡シタルニ被告ハ以

上ノ裁判ヲ不當トシ公訴ニ對シテハ被告カ暴行ハ全ク精神喪失ノ時ニ在テ爲シタルモノナリ假リニ殺意アリトスルモ豫メ謀リシモノニアラス即チ其索メタル蚯蚓ハ翌日釣魚ニ供スル爲メ一ノ器ニ入レ置キタルモノナレハ一時忽然怒氣ヲ發シタルモノナルヲ明確ナリ云々私訴ノ裁判ニ對シテハ刑法第七十八條ニ依リ處分セラルヘキモノナルヲ以テ要償ノ訴ヲ受クヘキ條理ナシト論シ上告ヲ爲シ尙ホ辯護人ハ上告ノ主意ヲ擴張シタリ其要旨ヲ擧クレハ第一原判文ニ辯護人ノ辯論ヲ聽キシヲ記載セサルハ越權ナリ第二民事原告人植村庄吉西村岩太ヲ證人ト爲シタルハ治罪法第百八十一條ニ背キシヲ以テ是亦越權ナリ第三被告ハ植田久吾外三名ヲ殺害スル決意ナルヲ以テ一人ヲ謀殺シ一人ヲ謀殺未遂ノ所爲ハ一個ノ人ト見テ論セサルヲ得ス故ニ二罪ト云フヘキモノニ非ラサルニ原裁判所ハ之ヲ二罪トシ刑法第百條ヲ適用シタルハ擲律錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑

事局ニ於テハ被告カ上告及辯護人第一第二ノ擴張論旨ハ其理由ナキ
 モノト認メ之ヲ棄却シ第三ノ趣旨ハ適法ノモノトシ原裁判官カ言渡
 シタル公訴裁判ヲ破毀シ直ニ被告カ所爲ハ刑法第二百九十二條ニ該
 ル自首スルモ刑法第八十五條但書ニ依リ減輕ヲ與フ可キ限リニアラ
 ス因テ被告植田勝吾ヲ死刑ニ處ス但書ハ原裁判ノ通リタルヘシト更
 ニ宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ諸般ノ證憑ヲ取捨シ事實ノ有無ヲ判定スルハ法律
 ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判
 定ト証憑ノ採擇上ニ對シテハ他ヨリ漫リニ其當否ヲ論難スルコト得
 サル者ナリ然ルニ被告カ第一上告ノ理由トスル所ハ裁判官カ職權ヲ
 以テ有罪ナリト認メタル事實ノ判定ト採証ノ當否ヲ論難スルニ過キ
 サレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ヌ又第二ノ論點ハ原裁判所ニ
 於テ民事原告人カ請求スル醫料金并ニ損害金ハ相當ナリト認メ速ニ

賠償ス可シト言渡シタル裁判ニ對シ彼此不服ヲ唱フルモ私訴ニ付キ
 治罪法第四百十條ノ各項目ニ適當セサル上告ナルヲ以テ其効無キ者
 トス又被告代理人カ第一論點ハ越權ナリト云フニ在レモ判文ニ辯護
 人ノ辯論ヲ聽キシコトヲ掲載ス可シトノ命令法アルコトナケレハ之ヲ記
 載セサルトテ越權ノ處分ト云フヲ得ヌ況ンヤ公判始末書ヲ參觀スル
 ニ辯護人ヲ撰定シ辯論ヲ爲サシメタル事跡著明ナルニ於テオヤ第二
 ノ論點ニ付一件書類ヲ閱スルニ豫審ニ於テ植田庄吉ヲ証人トナシ調
 書ヲ作りタルハ明治十九年五月廿七日ニシテ同人カ私訴ノ申立ヲ爲
 シタルハ同年六月十七日ナリ又西村岩太ヲ証人トナシ調書ヲ作りタ
 ルハ同年六月一日ニシテ同人カ私訴ノ申立ヲ爲シタルハ同年九月廿
 九日ナリ然レハ庄吉岩太カ豫審調書ハ民事原告人トナル前ナレハ証
 人ノ資格アルヲ以テ其証言ヲ採テ以テ本案被告カ斷罪ノ材料ト爲シ
 タルハ越權ノ處分ナリト云フヲ得ヌ因テ被告カ上告并ニ被告代理人

カ第一第二ノ論點ハ相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却ス然レモ本案被告カ所爲ハ植田久吾外三名ヲ殺害スル決意ニテ植田久吾ヲ謀殺シ續テ西村岩太ヲ謀殺セントシテ遂ケサルモノナレハ其人其場所ヲ異ニセシモ一ノ謀殺罪ニシテ其謀殺未遂罪ハ別ニ一罪ヲ構造ス可キ者ニ非ラサルナリ然ルニ原裁判所ハ某謀殺未遂ノ所爲ヲ別ニ一箇ノ罪ヲ構造セシ者ト認メ刑法第二百九十二條同第百十三條第一項同第百十二條同第六十七條同第百條ヲ適用シタルハ被告代言人カ第三擴張論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○詐欺取財ノ件明治十八年三月十五號

上告中ニ一罪發覺シタル場合ニハ數罪俱發例ニ依リ處斷スヘキ

否

宮崎縣日向國西諸縣郡東麓村二百六拾二番戶土族農業迫田市五郎ニ對スル被告ノ事件

初審 宮崎輕罪裁判所

本件ノ事實被告迫田市五郎ハ明治十八年四月中日向國北諸縣郡下長飯村土族大河原保介ノ依頼ヲ受ケ曾テ全人ヨリ全郡笛水村平民齋藤卯太郎ニ係ル貸金請求ノ末身代限トナリ其滯金二十四圓餘ノ請求ヲ爲シタルニ示談ノ上卯太郎ノ親族坂元市兵衛ヨリ牡馬一頭ト米三俵ヲ受取り濟方可致旨ノ約條ヲ爲シナカラ保介ニ對シテハ右馬ノミニテ濟方致シタルモノ、如ク詐リ尙ホ之ヲ他ニ賣却スルモハ六圓ヨリ上ハ賣レサル由ヲ申聞ケ右馬ノ賣却方ヲ頼マル、ヨリ之ヲ五圓五拾錢ニ賣拂ヒ其内五十錢ハ馬喰ノ者ニ相與ヘ殘金五圓ハ被告ニ於テ消費シタルヲ以テ保介方ヘハ前件約定シタル米三俵ノ代金四圓廿七錢五厘ノ内四圓ニ金壹圓ヲ加ヘ馬代金ヲ五圓トナシ之ヲ保介ノ妻ヘ相渡シ其餘ハ被告ニ於テ消費シ先キニ被告ハ明治十八年二月六日氏名詐稱ノ罪ニ依リ罰金十五圓ニ處セラレ又全年五月廿五日誣告ノ罪ニ

依リ重禁錮六月罰金八圓ニ處セラレ當時上告中ノモノニテ明治十八年十一月十日初審裁判所ハ被告カ前顯ノ所爲ハ固ヨリ詐欺ノ念ニ出タルモノト認メ刑法第三百九十四條第三百九十四條ニ該ルヲ以テ重禁錮三月罰金五圓ニ處シ監視六月ニ附スト言渡シタルニ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要ヲ舉クレハ被告ハ前ニ氏名詐稱ノ罪ニ依リ都城治安裁判所ニ開ク宮崎輕罪裁判ニ於テ罰金ノ刑ヲ言渡サレ其裁判ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ未タ其處斷ヲ經サル内被告ハ又誣告ノ罪アリ明治十八年五月廿五日同裁判所ハ重禁錮及罰金ノ裁判ヲ與ヘタルモ該裁判ハ宜シク數罪俱發例ニ照ラシ刑法第百條ニ從ヒ處斷スヘキモノナルヲ以テ上告ヲ爲シ而シ未タ其當否ヲ見サルニ又發覺シタル本件被告カ詐僞取財ノ罪ニ對シ同裁判所ハ刑法第三百九十條第三百九十四條ノ刑ヲ言渡シタリ前罪上告ニ係リ未タ其處斷ヲ經サルモノハ刑法第百條ニヨリ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘキモノナル

ニ原裁判ノ茲ニ出サルハ擬律ノ錯誤ナリ云ト論シタリ刑事局ニ於テハ上告ハ其理由ナキモノトシ之ヲ棄却シ原裁判ヲ是認シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク前發ノ罪ニ對スル裁判言渡ハ上告ニ依リ未タ確定ニ到ラサル内餘罪發覺シタルモハ數罪俱發例ニ據ラス其餘罪相當ノ刑ヲ言渡スヘキモノトス何ントナレハ前發ノ罪上告ニ依リ免訴又ハ無罪ト爲ルモハ單ニ後發ノ罪ニ從ヒ其刑ノ執行ヲ爲サヘルヘカラサレハナリ然リ而シテ前發後發ノ罪俱ニ確定シタルカ如キ場合ニハ執行命令官ニ於テ刑法第百條若クハ第百二條ノ規定ニ從ヒ區處スヘキモノナルヲ以テ原裁判所カ本按被告事件ヲ單ニ刑法ノ正條ニ問擬シ數罪俱發例ヲ用ヒサリシハ適法ノ判決ニシテ上告論旨ハ却テ不當ナリトス

○家畜殺シノ件 明治十九年八月七十六號

憤怒ヲ殺シカ爲メ夜間人ノ邸内ニ入り家畜ヲ殺シタルモノハ數
罪俱發ヲ以テ論斷スヘキヤ否

高知縣土佐國幡多郡柚木村平民小賣商澤良木榮太郎ニ對スル被
告事件

初審 中 村 支 廳

本件ノ事實被告澤良木榮太郎ハ豫テ同村土族加用交連三女芳野ト懇
意ニナリ夫妻ノ内約ヲ結ヒタルニ其後芳野ニ於テ違約スルヨリ更ニ
仲人ヲシテ交連ニ對シ貰受ケノ相談ヲ爲スモ交連モ亦之ヲ承諾セス
且芳野ハ前ノ養子ニ關係アリトノ言ヲ以テ謝絶シタルヲ被告ハ不實
ト認メ之ヲ詰問シ互ニ不和トナリタルモ明治十八年十二月二十六日
桑原政重等ノ周旋ニ依リ遂ニ和解ニ至リ爲ニ交連方ニ於テ被告等共
ニ酒宴ヲ爲シ然ルニ被告ハ其夜十時ニ及フモ歸宅セサルヲ以テ交連
カ被告ニ歸宅ヲ促シタルニ被告ハ立腹シテ歸宅シ爾來之ヲ遺恨ニ懷

ヒ時々爲ス所アラントノ況狀ヲ示シ終ニ暴威ヲ以テ彼是ノ談判ヲ爲
サント明治十九年一月廿七日午后十時過被告所有ノ脇差ヲ携ヘ交連
方南涯上ニ接スル境界ノ山林ヲ二尺許押開キ交連カ屋敷内ヘ忍入り
交連方出入口ノ戸ヲ引明ントカヲ極メタルモ鎖鑰堅固ニシテ開ク能
ハサルヨリ不得止他ニ聊カ憤怒ヲ殺シカ爲メ其側ニ居合セタル交連
カ畜犬壹疋ヲ所携ノ脇差ヲ以テ切殺シタルモノニテ明治十九年二月
廿五日和審廳ハ刑法第四百廿三條ニ依リ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金
ニ該ル處被告ハ明治十七年十二月十七日官林盜伐ノ罪ニ依リ當廳ニ
於テ重禁錮一月監視六月ノ處斷ヲ經再犯ナルヲ以テ刑法第九十二條
ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ貳圓五拾錢以上二十五圓以下ノ範圍ニテ罰
金拾五圓ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル脇差ハ刑法第四十三條ニ依リ沒
收ストノ判決ヲ與ヘタルニ被告ハ之ヲ不當トシ原裁判ハ再犯加重ノ
點ニ至リ單ニ本刑ニ一等ヲ加ヘ貳圓五拾錢以上貳拾五圓以下ノ範圍

ニテ云々トノミ言渡シテ其一等ナルモノハ如何ナル法律ニ依リ然ルヤノ理由ヲ明示セサルハ越權ノ處斷ナリ云々ト論シ上告ヲ爲シ檢察官ハ被告カ人ノ畜犬ヲ殺シタル罪アリトセシハ適當ナランモ再犯ニ係ルモノトシ單ニ刑法第九十二條ニ照シ云々トノ外又犯罪ニ供シタル脇差ハ同法第四十三條ニ依リ云々ト言渡シ該條ノ理由ヲ付セサルハ不法ナリト論シ附帶上告ヲ爲シタリ又大審院立會檢事附帶上告ノ要旨ハ該犯ハ他ニ圖ル所アリテ夜中被害者カ宅ニ忍入り家宅ニ侵入セントセシモ鎖鑰堅固ニシテ入ルヲ能ハサル折柄適マ該家ノ畜犬ヲ切殺シタルモノナレハ即チ夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入りタルモノニシテ數罪俱發ヲ以テ論斷スヘキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出サリシハ擬律錯誤ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ立會檢事附帶上告ヲ適當ノモノト認メ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ刑法第七十二條第七十一條第四百二十三條ニ照シ數罪俱發ス

ルニ付同法第百條ニ從ヒ所犯情狀最モ重キ第百七十二條第百七十一條ノ罪ヲ以テ論シ第百七十二條第一項ノ刑ニ一等ヲ加ヘ一月七日以上一年三月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ處明治十七年十二月十七日官林盜伐ノ罪ニ依リ中村支廳ニ於テ重禁錮一月監視六月ニ處セラレ再犯ニ係ルヲ以テ同法第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ被告澤良木榮太郎ヲ重禁錮二月ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル脇差ハ刑法第四十三條第四十四條ニ照シ沒收スト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原判文ヲ閱スルニ被告ノ所爲ハ加用交連ニ對シ遺恨ヲ懷キ暴威ヲ示シ爲ス所アラントシ所有ノ脇差ヲ携ヘ同人宅ニ接スル境界ノ山林二尺許リヲ押開キ夜間其邸内ニ忍入り出入口ノ戸ヲ引明ケントセシモ鎖鑰堅固ニシテ開ク能ハサルヨリ他ニ聊カ憤怒ヲ殺カシ爲メ其側ニ居合セタル同家ノ畜犬壹疋ヲ所携ノ脇差ヲ以テ切殺シタリトハ原判官カ認ムル處ノ事實ナリトス右事實ニ依レハ被告ハ人

ノ家畜ヲ殺シタル罪アルノミナラス夜間故ナク人家ヲ侵シタル罪モ亦免ルヘカラサルニ付刑法第四百廿三條ノ外第七十二條第七十一條ニ照シ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノナリ然ルニ原裁判茲ニ出テサルハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク攪律ノ錯誤アル不法ノ裁判ト云フヘシ已ニ此點ニ付破毀更正ヲ認メタル上ハ被告カ上告論旨及ヒ原檢察官カ附帶上告論旨ニ對シ別ニ説明ヲ爲スノ必要ナキモノトス

官吏ノ職務ニ對スル罪ニ關ス

○官吏侮辱ノ件明治十九年五月八十三號

公判庭内ニ於テ辯護ノ爲メ語氣過激ニ涉リ某人カ故意ニ證據ヲ搆造シ罪ニ陷ラシメタルナリトノ言ヲ以テシタルモノハ直チニ刑法第四百十一條ノ罪ヲ搆造スルヤ否

札幌縣後志國小樽郡相生町平民梶河武三ニ對スル被告事件

初審 札幌輕罪裁判所

本件ノ事實被告梶河武三ハ民事原告人北川誠一黒田信順カ小樽高島兩郡共有元利金四万九千五百四拾圓餘及明治十四年御巡幸ノ際小樽高島兩郡人民ヘ賜リ金七拾五圓ヲ詐取シ或ハ費消シ加フルニ信順ハ長濱金兵衛カ私書變換シタル等ノ罪アリト告訴シタルハ曩キニ被告カ信順ヲ罵詈シ懲役六十日ノ處分ヲ受ケタル宿怨ニ出テタルモノトノ被告事件又同上公判庭内ニ於テ檢察官カ汝ハ曩キニ黒田信順ヲ罵詈シ處刑ヲ受ケシヲ今恨ミテ居ラサルヤノ問ニ對スル答辨中明治十四年二月右信順ヲ罵詈シタル科ニ依リ懲役六十日ニ處セラレタルニ非ス當時小樽警察署詰鹿島警部カ證據ヲ拵ヘ其罪ニ陷ラシメタル者ナリト答ヘタルモノニテ明治十九年一月廿九日初審裁判所ハ被告ハ誣告及官吏侮辱ノ罪アリト判定シ刑法第三百五十五條全第二百二十條第二項全第四百十一條第二項ヲ適用シ二罪俱發スルヲ以テ全第四百條末項ニ照シ所犯最重キ誣告ノ罪ニ對シ重禁錮一年ニ處シ罰金四

圓ヲ附加スト言渡シタル官吏侮辱ノ裁判ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シ
 タリ其要ヲ舉クレハ公庭内ノ犯罪ハ治罪法第二百七十四條ニ定メア
 リテ輕罪裁判所其他上等ノ裁判所ニテハ輕罪ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス
 モノナリ即チ誣告罪ハ輕罪ノ始審ニシテ官吏侮辱罪ハ終審ノ裁判ナ
 リ原裁判所ハ是ヲ混同シテ終審ノ裁判ト始審ノ裁判ト併テ二罪俱發
 ノ例ニ照シ一ノ重キニヨリ言渡ヲ爲セシハ抑權限ヲ誤リタル不法ノ
 裁判ト言ハサルヲ得ス云云又此二罪ノ内誣告罪ハ未決ニシテ特リ公
 庭内ノ犯罪ハ確定セシモノト爲スヘキ乎刑ノ言渡アラサルヲ以テ執
 行スルニ由ナシ是原裁判所ハ治罪法第二百七十三條ノ規則ニ背キ刑
 法第百條ヲ適用セシ違法ノ裁判ナリト論スルニアリ大審院立會檢事
 ハ本件被告カ公庭内檢察官ノ訊問ニ對シ陳述シタル所聊カ鹿島警部
 ノ職務ニ關スル事項ナキニ非ルモ是唯タ其身辯護スルノ意ニ出テ毫
 モ侮辱ノ故意ヲ徴スヘキ事實證據ノ具備セサルノミナラス原裁判亦

之ヲ確認セサル以上ハ其所爲固ヨリ罪ト爲ルヘキモノニ非ス然ルニ
 原裁判ノ有罪ヲ言渡セシハ擬律錯誤ナリトス依テ原裁判ヲ破毀シ直
 チニ無罪ノ言渡アラント求ムト論告シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局
 ニ於テハ附帶上告論旨ニ基キ治罪法第四百三十一條ニ則リ原裁判言
 渡中官吏侮辱ニ對シ言渡シタル一部ヲ破毀シ刑法第二條ニ依リ治罪
 法第三百五十八條ニ照シ被告梶河武三ニ對シ無罪且放免ノ宣告ヲ爲
 シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第百四十一條ハ故ラ官吏ノ職務ニ對シ其目前及ヒ
 目前ト看做シ得ヘキ場所等ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル
 犯罪ヲ制裁スル律意ニシテ公庭内ニ於テ被告カ辯論中或ハ穩當ナラ
 サル語氣アルモ畢竟辯護ノ意思ニ過キサルモノハ直チニ該法章ノ犯
 罪ヲ構成シタルモノト論スルヲ得ス然リ而シテ今原裁判言渡ノ事實
 ヲ閱スルニ被告ハ公庭内ニ於テ檢察官ニ對スル答辯中右信順ヲ罵詈

シタル科ニ依リ懲役六十日ニ處セラレタルニ非ス當時小樽警察署詰
 鹿島警部カ證據ヲ持ヒ其罪ニ陥入ラレタル者トアリテ已ニ原裁判所
 カ認定シタル所ニ據レハ被告カ語氣ハ稍ヤ過激ニ涉リタルモ唯々辨
 護ノ事實ニ止リ故意ヲ以テ其人ノ目前等ニ於テ侮辱シタル事實ニ非
 ルナリ然ルニ原裁判所カ之ヲ官吏侮辱罪ナリトシ刑法第四百十一條
 ヲ適用シ斷了シタルハ附帶上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項
 ニ該當スル破毀ノ源由アル失當ノ裁判ナリトス已ニ此點ヲ以テ破毀
 ヲ認メタレハ上告旨趣ニ付茲ニ辯明ヲ與フルノ必要ナキモノトス

囚徒逃走罪ニ關ス

○既決囚逃走ノ件明治十八年六月廿二日明二千四百九十五號

看守者ノ隙ヲ窺ヒ數丁逃走シ追跡逮捕セラレタルモノハ逃走未
 遂ヲ以テ論スヘキヤ將々既遂罪ニ問フヘキヤ

愛媛縣伊豫國上浮穴郡東明神村平民森山喜藏ニ對スル被告事件

初審 松山輕罪裁判所

被告森山喜藏ハ明治十八年六月七日竊盜再犯ノ科ニ依リ重禁錮五月
 監視八月ノ刑ニ處セラレ其刑期服役中明治十八年六月廿二日正午十
 二時頃伊豫國温泉郡小坂村ニ於テ外役ヲ執ル際逃走セント決意シ看
 守春宮忠克ノ隙ヲ窺ヒ直ニ其場ヲ三丁許リ逃走シタルモ看守春宮忠
 克押丁多川義信ノ爲メニ追跡逮捕セラレ遂ニ其目的ヲ遂ケサルモノ
 ニテ明治十八年七月八日初審裁判所ハ意外ノ障礙ニ因リ其目的ヲ遂
 ケサルモノトシ刑法第四百十二條初項全第四百十九條全第四百十二條
 ニ照シ再犯ニ係ルヲ以テ全第九十二條ニ依リ重禁錮二月ニ處スト言
 渡シタルニ被告ハ原裁判官カ認メタル如ク逃走シタルモノナレハ恰
 モ繫獄ノ囚徒監獄ノ範圍外へ逃出セシト全一ニシテ逃走ノ所爲ヲ遂
 ケタルモノナリ然ルヲ未遂ヲ以テ處分シタルハ不當ナリト論シ上告
 ヲ爲シ檢察官ハ上告旨趣ノ如ク既ニ其役場監守外ニ出テタルハ逃

走ノ既遂ト云ハサルヲ得ス且逃走罪ハ限内再逃スルニ非サレハ再犯ヲ以テ論スヘキ限ニ非ルコトハ刑法第四百十三條ニ明文アルニ原裁判官カ再犯ヲ以テ處分シタルハ擬律錯誤ナリト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ附帶上告論旨ノ如ク原裁判ハ擬律ヲ誤リタルモノト認メ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ直ニ森山喜藏ニ對シ刑法第四百二十二條初項ニ照シ重禁錮二月ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原判文ニ於テ被告喜藏ハ外役中其役場管守外ニ逃出シタリトノ事實ヲ認定セシ上ハ則逃走既遂罪ヲ組成シタルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ原判定ノ爰ニ出テサルハ原檢察官カ上告論旨ノ如シ且刑法第四百十三條ノ明文アリテ既決囚徒逃走罪ハ刑期限内再逃スルニ非レハ再犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ルニ原裁判官カ再犯トシテ斷了シタルハ附帶上告論旨ノ如ク俱ニ治罪法第四百十條第十項ニ

相當スル破毀ノ原由アル失當ノ裁判ナリトス

○逃走ノ件明治十八年三月十七日七十九號

懲役執行中逃走シタル者ハ刑法第四百十二條以下ノ制裁ヲ受クルヤ否

愛媛縣伊豫國越智郡泊リ村平民農窪田重吉ニ對スル被告事件

初審 松山輕罪裁判所

本件ノ事實被告窪田重吉ハ曾テ行政處分ニ依リ懲役執行中看守ノ隙ヲ窺ヒ逃走シタルモノニテ明治十八年二月初三日初審裁判所ハ被告カ所爲ハ已決ノ囚徒逃走シタル罪ヲ以テ論スヘキモノニアラスト判定シ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ抑モ囚徒トハ犯罪ニ原由シ自体ノ自由ヲ束縛セラル、者ノ名稱ニシテ彼ノ賭博ヲ爲シ行政ノ處分ニヨリ懲役ニ處セラレタル者モ刑法第四百十二條乃至同第五百十一條ニ記載アル

囚徒ト同一ナリト云ハサルヲ得ス然ルニ裁判官ハ行政處分ニ因テ受ケタル懲罰執行中逃走シタル所爲ハ刑法第四百十二條ニ掲クル已決ノ囚徒ト謂フ可キモノニアラストシ刑法第二條ニ依リ單ニ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ加之被告ハ令狀ニ因テ拘束セラレタルモノナルニ無罪ノ言渡ヲ爲シナカラ放免ノ言渡ヲ爲サ、ルハ越權ノ處分ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告第一論旨ノ如ク原裁判ハ擬律ヲ誤リタルモノト認メ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ被告カ所爲ハ刑法第四百十二條初項ニ依リ一月以上六月以下ノ範圍内ニ於テ處分スヘキモノト判定シ被告窪田重吉ヲ重禁錮一月十五日ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク凡ソ囚徒トハ身体ノ自由ヲ拘束セラレタル者ノ名稱ナレハ行政司法處分ノ區別ナク身体ノ自由ヲ拘束セラレタル者逃走シタルニハ刑法第四百十二條乃至第四百四十五條ノ制裁ヲ受クヘキハ

論ヲ俟タサル處ナリ然ルニ原裁判所ニ於テ被告ハ行政處分ニ依リ懲罰執行中逃走シタルモノナリト事實ヲ認メナカラ已決囚徒ノ逃走罪ヲ以テ論スヘキモノニアラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ上告第一論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス既ニ此點ヲ以テ破毀ノ原由アリト認メタル上ハ第二論旨ニ對シ辯明スルノ必要アラサルモノトス

○囚徒逃亡ノ件明治三十九年
第四百三十八號

重罪ノ未決囚通謀シテ獄舎ヲ毀壞シ脱監ヲ企テ其目的ヲ遂ケサルモノハ刑法第四百十二條ノ刑期ニ一等ヲ加ヘ本刑ト爲シ未遂犯ノ減等ヲ爲スヘキヤ否

大阪府西區本田町三丁目平民塾劍道具製造職森留吉ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實被告森留吉ハ京都重罪裁判所ニ移サレ即チ京都監獄本署

未決監倉ニ在監中同監人石井芳之助阪田文吉等ト申合セ明治十九年六月十七日其監第一舍第十二監房便所ノ入口東手ノ角格子ノ根臺木ノ端ヲ釘ヲ以テ毀壞シ脱監逃走ヲ爲サントシテ監守ニ見咎メラレ逃走ヲ遂ケサルモノニテ明治十九年十月九日初審裁判所ハ刑法第四百十四條第四百二十二條第四百四十五條第四百四十九條第四百九十二條ヲ適用シ各一等ヲ加重減輕シ即チ三月以上三年以下ノ重禁錮範圍内ニ於テ被告ヲ重禁錮四月ニ處スト言渡シタルニ被告ハ曩ニ大阪重罪裁判所ニ於テ強盜被告事件ニ付有期徒刑十三年ニ處セラレタルモ之ヲ不服トシテ大審院へ上告シ破毀ノ未當重罪裁判所へ移サレタル事件ナレハ本案ニ付テハ刑法第百條ヲ適用セラルヘキハ當然ナルニ原裁判茲ニ出テサリシハ擬律錯誤ナリト論シ上告ヲ爲シ大審院立會檢事ハ本件ハ囚徒三人以上通謀シ獄舎ヲ破毀シ逃走セントシテ遂ケサル所爲ナレハ三月以上三年以下ノ刑期ニ一等ヲ加ヘ三月廿二日以上三年九月

以下ト爲シテ本刑ヲ定メ尙未遂犯ニ付一等ヲ減シテ更ニ本刑期二月廿三日以上二年九月廿二日以下ト定メサルヘカラス然ルニ原裁判所ニ於テ特別ノ加減ヲ同時ニ行ヒタルハ即チ擬律錯誤ノ裁判ナリト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ上告及附帶上告共其理由ナキモノト認メ棄却シタルモノニ係ル
其理由ニ曰ク上告ノ理由トスル處ハ本案事件ニ付刑法第百條ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在レハ強盜被告事件ハ上告中ニ係ル者ナレハ固ヨリ本件ニ付刑法第百條ヲ適用スヘキ者ニ非ス故ニ被告ノ上告趣旨ハ不相立者トス而シテ本院立會檢事ノ附帶上告ヲ案スルニ本件ノ如キ特別ノ加重減輕ヲ爲スニハ刑法第四百二十二條ノ刑期即チ三月以上三年以下ニ一等ヲ加ヘ三月廿二日以上三年九月以下ト爲シ之ヲ本刑トシテ未遂犯ノ減等ヲ爲スヘキ者ナリト云フニ在ルモ刑法第九十九條ニ但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等云云其加減シタル者ヲ以テ

本刑ト爲ストアリテ其加減ヲ爲シテ始メテ本刑ト爲スヘキヲ規定セラレタレハ本案ノ如キモ獨リ刑法第四百十五條ノ加等ノミヲ以テ本刑ト爲スヲ得ス故ニ三月以上三年以下ノ刑ニ各一等ヲ加重減輕スレハ即チ三月以上三年以下ニ復スヘキモノナルヲ以テ原裁判所カ其範圍内ニ於テ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニアラサル者トス

○囚徒逃走ノ件明治十九年九月七十九號

囚徒護送途中ニ於テ縛繩ヲ擦リ切り逃走シタルモノハ刑法第四百二十二條第二項ニ該當スルヤ否

愛媛縣伊豫國下浮穴郡串村平民農岡田光次郎ニ對スル被告事件

初審 松山輕罪裁判所

本件ノ事實被告岡田光次郎ハ曩キニ松山輕罪裁判所ニ於テ重禁錮ノ刑ヲ受ケ服役中逃走罪ニ依リ明治十九年八月二十日又重禁錮三月ニ處セラレ明治十九年九月三日西條監獄ヨリ別子山村別子鑛山監獄出

役所へ押送ノ途中他囚ト繋キ合セタル縛繩ヲ角立タル小石ヲ以テ切り放チ同日午後二時頃伊豫國新居郡立川山村字ウンリウト稱スル所ヨリ逃走シタルモノニテ明治十九年九月初審裁判所ハ刑法第四百二十二條二項ニ該ル處其刑期限内再ヒ逃走セシヲ以テ同法第四百二十二條第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ三月廿二日以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノト判定シ被告ヲ五月ノ重禁錮ニ處ス但證據品トシテ引揚ケタル縛繩ハ西條監獄へ還付スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ其縛繩ヲ擦リ切りタルモ獄具ヲ毀壞シタルモノト云フヘカラス又暴行ヲ爲シタルニモアラズ畢竟護送者ノ防禦シ得ヘキモノナルニ其注意ノ綿密ナラサルヨリ遂ニ逃走シタルモノナレハ自ら護送者ノ懈怠ハ免レス然ルニ被告カ所爲ヲ猛意兇行ヲ逞フシタルモノト同視シ刑法第四百二十二條二項ニ照ラシ處斷セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告

論旨ヲ適當ノモノト認メ原裁判ヲ破毀シ被告カ所爲ハ刑法第四百十二條初項ニ該當スルヲ以テ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ處被告ハ曩キニ同罪ヲ犯シ其刑期限内再ヒ逃走シタル者ナルヲ以テ第四百十三條ニ照シ再犯ヲ以テ論シ本刑ニ一等ヲ加ヘ一月七日以上七月十五日以下ノ重禁錮範圍内ニ於テ被告光次郎ヲ五月ノ重禁錮ニ處シ但書ハ原裁判ノ通リト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原裁判所カ認メタル所ニ依レハ被告ノ所爲ハ西條檻獄ヨリ別子鑛山檻獄出張所ヘ押送ノ途中他囚ト繋キ合セアル縛繩ヲ角立タル小石ヲ以テ切放チ逃走シタルモノナレハ上告論旨ノ如ク刑法第四百十二條第二項ニアラスシテ初項ヲ當行スヘキ罪ナリトス何ントナレハ同條第二項ノ獄具トハ特ニ獄舎ニ具フル警戒ノ器物ニシテ押送ノ途中囚人ニ施シタル縛繩ノ如キハ此限りニアラサレハナリ然ルヲ原裁判所カ右第二項ニ依リ處斷セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス

官ノ封印破棄ニ關ス

○酒造稅則違犯ノ件 明治十八年四月十九日第九百四十三號

他人ノ名義ヲ用非酒造營業鑑札ヲ願受ケタルモノハ酒造稅則第三十條ニ依リ處分スヘキヤ否

酒造検査員ノ施シタル封印ヲ解除シタルモノハ刑法第七百七十四條ニ問擬スヘキヤ否

佐賀縣肥前國東松浦郡濱崎村平民酒造營業野崎又造ニ對スル被告事件

初審 福岡輕罪裁判所
終審 長崎控訴裁判所

本件ノ事實被告野崎又造ハ明治十七年一月中筑前國怡土郡吉井村檜崎慎藏ヨリ酒造器械ヲ買受ケ且同人所有ノ酒造藏ヲ借受ケ一切ノ費用ヲ負擔シ酒造營業ヲ爲サント企テ自己ノ名前ヲ避ケ故ラニ同村即

濱崎村親屬櫻井久太郎ヲ吉井村ニ表面而已寄留ト爲シ同人ヲシテ
 酒造營業ヲ出願セシメ其鑑札ヲ以テ清酒五百三十六石九斗八舛二合
 燒酎七石貳斗八舛三合ヲ釀造セシハ即チ鑑札ヲ借受ケタルモノナリ
 而テ明治十七年五月中該清酒ノ内二百零七石四斗壹舛二合ハ酒造檢
 査員ノ検査ヲ經テ平均一舛ニ付九錢五厘ニ賣捌キ清酒三百二十九石
 五斗七舛及ヒ燒酎七石二斗八舛三合ハ検査員ニ於テ酒稅ノ逋脫アラ
 ンコトヲ慮リ納稅濟ニ至ル迄封印ヲ施シタルニ其後追々納稅セシ分即
 チ清酒百四十三石零三舛七合燒酎七石二斗八舛三合ノ封印解除ヲ得
 清酒ハ平均壹舛ニ付九錢五厘ニテ皆賣拂ヒ燒酎ハ平均一舛ニ付十七
 錢ニテ五石九斗八舛三合丈ケヲ賣拂ヒ尙ホ清酒百八十六石五斗三舛
 三合ハ未タ納稅ヲ濟マサルニ付封印ノ儘ナリシヲ稅金ニ差支ル迪明
 治十七年八月廿二日頃竊ニ封印ヲ脱却シ清酒百拾四石壹斗貳舛ヲ汲
 取り殘ル三拾餘石ノ清酒ニ水ヲ混シ其欠ヲ補ヒ亦元ノ如クニ封印ヲ

糊シ腐敗酒ノ姿ニ爲シ置キ汲取リタル酒ノ内四十六石八斗八山口縣
 長門國赤間關中ノ町御手洗梅次郎ノ周旋ヲ以テ金五百三十圓ニ賣拂
 ヒ六十七石三斗二舛ハ自家濱崎村ニ積送り此内拾五石ハ追々一舛ニ
 付平均十錢合計金百五十圓ニ賣拂ヒタルモノニテ終審裁判所ハ被告
 カ酒造鑑札ヲ借受ケタル所爲ハ酒造稅則第二十九條第三十條及明治
 十四年第七十二號布告第三條官ノ封印ヲ破毀シタル所爲ハ刑法第百
 七十四條ヲ適用スヘキモノト判定シ初審裁判所ニ於テ言渡シタル裁
 判ヲ認可シ酒造鑑札ヲ借受ケタル所爲ハ免許稅二倍ノ金額即チ罰金
 六十圓及ヒ賣捌キタル清酒總高四百十二石二斗四舛九合燒酎五石九
 斗八舛三合ニ相當スル造石稅三倍ノ金額即チ罰金五千零三十六圓七
 十三錢三厘ヲ併科シ尙ホ賣捌キタル清酒四百十二石二斗四舛九合ノ
 代金四千零々九圓二十六錢六厘ト燒酎五石九斗八舛三合ノ代金百壹
 圓七十一錢壹厘合計金四千百十圓九十七錢七厘ヲ追徵シ且現在ノ清

酒百二十四石七斗三升三合燒酎壹石三斗並酒造諸器械ヲ沒收ス但既ニ官納シタル造石税金二千百八十四圓三十四錢三厘ハ罰金五千零九十六圓七十三錢三厘ヨリ扣除シ其不足金二千九百十二圓三十九錢ヲ追徴ス官ノ封印ヲ破毀シタル所爲ハ刑法第百七十四條ニ照ラシ二月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ云云禁錮三月ニ處スト言渡シタルニ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ニ於テ封印ヲ脱シタルヲナキモ警察ノ調ヘ拷問極メテ強ク因テ一時之ヲ遁レン爲メ無實ノ陳述ヲ爲シタルモノナリ又櫻井久太郎ニ於テ營業ナシ規則ニ遵ヒ榎崎轍介ヲ代理人ト爲シタルニ同人多忙ナルニヨリ久太郎ノ依頼ニ應シ明治十七年二月頃ヨリ折節加勢罷在タルニ其後酒類封印セラレ久太郎ニ於テ納税金調ノ目的ナキヨリ被告ニ於テ一層盡力ナシタル義ナリ是等ヲ以テ原裁判所ハ久太郎ヲ表面而已寄留ノ如クナシ云々ト認定セラレタルナレトモ久太郎不在ニシテ酒類造石検査等ニ對シ甲乙検査簿ニ何

ヲ以テ押印爲スヤ尤モ要用ニテ他出シタル時ハ代理人ニ於テ代理シタルハ検査簿ニ因テ一目瞭然タリト云フニ在リ又辯明書ノ要旨ハ第一抑モ酒造鑑札ハ酒造場一ヶ所毎ニ壹個ヲ受クルノ定法ハ稅則第一條第三條ニ照シ明ナリト雖モ其名義人ニ付テ法律上制限アルヲナシ本件ハ酒造場一ヶ所ニシテ壹個ノ免許鑑札ヲ受ケ又造ノ名義ハ出サハルモ久太郎ヲ名義人ト爲シタルヲハ法律上之ヲ不法ト云フヲ得サルナリ然レハ本件ハ稅則第廿九條第三十條ヲ適用セラルヘキニ非ス何トナレハ鑑札借受ケト云フ上ハ壹個ノ鑑札ヲ二個ノ用ニ供スルヲ指シ即チ或ル一ヶ所ニ受ケタル鑑札ヲ他人借受ケ他ノ個所ニテ別ニ釀造スルノ所爲ヲ云フモノナリ本件ノ如キハ酒造場一ヶ所ニ壹個ノ鑑札ヲ受ケ成規ノ造石稅ヲ上納シ正當ノ營業ヲ爲シタルヲナレハ其資本ハ何人ヨリ出ルモ其扱人ハ甲乙轉換スルモ又營業人ハ實際其事ヲ取扱ハス他人ニ任セ置クモ法律上干渉セララルヘキ正條ナキナリ

然ルニ原裁判所カ管理ノ所爲ト資本ノ出所トノミニ依リ鑑札借受ケトナシタルハ擬律ノ錯誤ナリ今原裁判ノ旨趣ヲ當初ヨリ鑑札ヲ借受クルノ見込ヲ以テ久太郎ニ酒造營業ヲ出願セシメタルモノト推定シテ論スルモ是レ鑑札借受ケノ實ナキモノニシテ却テ名義ヲ貸與シタルニ止ルコノ理由蔽フヘカラサルナリ第二原判文ニ自己ノ名前ヲ避ケ云々トアツテ其避ケタル理由ヲ示サレサルハ事實理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ第三百八拾六石五斗三升三合ノ内百拾四石壹斗貳升ヲ減殺スレハ殘ル七拾貳石四斗壹升三合ナリ原裁判所カ殘ル三拾餘石ト判示シタルハ事實理由ニ齟齬アルコ算ヲ須スシテ一目瞭然タリ況ンヤ其末段ニ(現在ノ清酒百二十四石七斗三升三合云々沒收ス)トアルニ比照スレハ其石數ノ計算更ニ二重ノ齟齬ニ陷レルモノアルヲヤ第四政府ノ許可ヲ得テ製造シタル正當ノ酒類ニ對シ不法ニモ其物品ニ封印ヲ施サレタルモ營業者ハ其封印ノ精神ニ應シ成規ノ石稅ヲ上

蓋セシ上ハ封印ノ精神ハ更ニ消滅セシモノニシテ營業者カ所有權正シキヲ辯ヲ俟スシテ明ナリ加之該封印ハ決シテ被告カ破毀シタルモノニ非ス又竊ニ汲出シタルモノニモアラサルナリ故ニ刑法第七十四條ノ支配スル所ニ非ス一步ヲ讓リ今其理由ヲ辯センニ同條ニ(官署ノ處分ニ因リ特別ニ)云々トアレハ其精神タル必スヤ非常ノ場合ニシテ即チ官署ノ處分上ヨリ特ニ施サレタル封印ヲ破毀シタル者ヲ待ツノ法意ニシテ之ヲ例セハ身代限又規則犯ノ處分ニ因リ法律ニ指定アル明條ニ依リテ特ニ或ル物件ニ施サレタル封印ヲ破毀スルノ類ヲ指シタルモノニシテ本件ノ如キハ酒造稅則中明文ナキモノニシテ檢査員一己ノ適宜ノ處分ナレハ法律上罰セラルヘキ正條ナク從テ刑法第百七十四條ニ照サルヘキニ非スタトヒ其筋ノ指令等ニヨリ封緘シタルモノトスルモ是レ單ニ行政上ノ處分ニ出タルモノニシテ刑法ノ制裁ヲ受クヘキニ非ス然ルニ原判官ハ其事實ヲ認メナカラ該法條ヲ適

用シタルハ擲律ノ錯誤ナリト云フニ在リ又被告カ第二辯明書ノ要旨ハ本件ハ治罪法第百條第百一條及ヒ明治十四年第四十六號公布等ニ該ルヘキ現行犯ニ非シテ純然タル非現行犯ナリ然ラハ其治罪ノ手續モ又非現行犯ノ法則ニ依ラサルヘカラサルハ勿論ナルニ原警察官ハ不法ニモ豫審判事ノ職權ヲ冒シ擅ニ上告人ヲ逮捕シタルノミナラス令狀モ發セスシテ被告ヲ監禁シ後チ漸ク令狀及ヒ收監狀ヲ發シ且恐喝詐言毆責等ヲ以テ被告及ヒ泉善次外二名ニ對シ不正ナル訊問調書ヲ作爲シタリ如此原警察官ノ訊問調書ハ治罪法ニ背反シタル無効ノモノナルニ原判官カ之ヲ裁判ノ資料ニ供シタルハ亦治罪法ニ背反シタル無効ノ裁判ナリト云フニ在リ刑事局ニ於テハ上告論旨中適當ノ理由アルモノトシ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ原裁判所カ認メタル被告カ所爲ハ罪トナラサルモノト認メ被告野崎又造ニ對シ無罪且放免ノ旨渡ヲナシタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク酒造稅則第二十九條第三十條ハ酒造營業者ノ逋稅ヲ防クニ出タルノ法條タルハ勿論右第三十條ニ所謂貸借ナル者ハ甲者ニ於テ自家營業ノ爲メ願受ケタル鑑札ヲ既ニ自家ノ用ニ供シ再ヒ之ヲ他人ニ貸渡シ其營業ノ用ニ供セシムルモノヲ云フモノニシテ彼ノ當初ヨリ自家營業ノ爲メニスルニ非スシテ他人ノ爲メニ願受ケタルノ鑑札ハ縱令ヒ自己ノ名義ヲ以テシタリト雖モ其實他人ノ爲メニ願受ケタルモノナレハ從テ其鑑札モ他人ノ鑑札ニシテ自己ノ鑑札ニ非サレハ其鑑札ヲ其他人ニ渡シタリトテ貸借ノ事實因テ生スヘキニ非ス況ンヤ刑罰ハ其事實ニ適スルヲ要シ毫モ其名義ノ如何ニ拘ハルヘキニ非サルニ於テヲヤ今原判文ニ(被告人ハ云々酒造器械ヲ買受ケ且同人所有ノ酒造藏ヲ借受ケ一切ノ費用ヲ負擔シ酒造營業ヲ爲サント企テ自己ノ名前ヲ避ケ故ラニ同村即チ濱崎村親屬櫻井久太郎ヲ吉井村ニ表面而已寄留ト爲シ同人ヲシテ酒造營業ヲ出願セシメ其鑑札ヲ以

テ清酒五百三十六石九斗八升貳合云云ヲ醸造セシハト認メタル事實ニ據レハ被告ハ櫻井久太郎ノ名義ヲ以テ酒造鑑札ヲ願受ケ且其名義ヲ以テ醸造ノ業ヲ爲シタルモノナリト雖モ其實自己ノ爲メ鑑札ヲ願受ケ且自己ノ爲メ醸造シタルモノナレハ其名義ノ如何ンニ拘ハラズ該營業上ヨリ生スル不利益ノ責ハ總テ被告ノ負擔ニ歸スル勿論ナレハ從テ其利益ニ屬スル點モ亦被告ヲシテ之ヲ享有セシメサルヲ得サルハ固ヨリ當然ノコトナリトス然ルニ原裁判所ハ前文ノ事實ヲ認メ且ツ其不利益即チ醸造ノ點ニ於テハ其名義ノ如何ンニ拘ハラズ其實ヲ採リタルモ其利益即チ鑑札ノ點ニ至テハ其實ヲ捨テ其名義ヲ採リ鑑札ヲ借受ケタルモノトシ遂ニ稅則第三十條ノ違犯者ナリト斷定セシハ要スルニ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス況ンヤ被告ニ於テ毫モ逋稅ノコトナキニ於テヲヤ又刑法第百七十四條ニ官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印トアルハ官署ニ於テ

法律ニ從ヒ封印ノ處分ヲ爲シタル場合ヲ云フモノニシテ其職權ナクシテ爲シタル封印ヲ破棄シタリトテ該條ノ支配スヘキニ非ス今原裁判所カ認ムル處ノ事實ニ據レハ被告カ破棄シタリト云ヘル封印ハ検査員ニ於テ酒稅ノ逋脫アラントテ慮リ之ヲ施シタルニ係ルモノナリト雖モ法律上検査員ニ對シテハ勿論其他ニ對シテモ如此職權ヲ與ヘタルコトナケレハ即チ其封印ハ不法ニ出タルモノナレハ被告ニ於テ之ヲ破毀シタリトテ罪トナルヘキニ非ス然ルニ原裁判所ハ之ヲ刑法第百七十四條ニ問擬シタルハ是亦上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス既ニ右等ノ點ヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ認ムル上ハ他ノ上告論旨ニ對シ一々辯明ヲ與フルノ要ナキモノトス

貨幣偽造ニ關ス

○舊貨幣偽造ノ件明治十九年
第七百四號

通用廢止ノ貨幣ヲ偽造シタルモノハ貨幣偽造ヲ以テ論スヘキヤ

否

愛媛縣伊豫國西宇和郡宮内村平民兵頭滿太郎ニ對スル被告事件

初審 大分重罪裁判所

本件ノ事實被告兵頭滿太郎ハ明治十六年四月以降伊豫國喜多郡管内村平民矢野荒太郎方物置ノ二階ヲ借受ケ舊壹朱銀凡ソ四百六十餘箇ヲ偽造シ而シテ該偽造壹朱銀ヲ同國宇和郡松尾坂ノ山中ニ於テ彩色シ之ヲ矢野荒太郎尾上佐一郎等ヲシテ行使セシメタルモノニテ明治十七年初審裁判所ハ刑法第百八十二條ニ依リ無期徒刑ニ處スヘキ所原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ有期徒刑十五年ニ處ス但シ犯罪ノ用ニ供シタル真正ノ舊壹朱銀一箇并ニ偽造ニ係ル壹朱銀九箇ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト言渡シタル裁判確定ノ後大審院檢事長ハ非常上告ヲ爲シタリ其要旨ハ抑モ舊貨幣ノ如キハ既ニ一般ノ通用ヲ廢止セラレ其性質金銀塊ト異

ナルコトナク即チ法律上ノ通貨ニアラサルヲ以テ之ヲ偽造スルモ刑法第百八十二條ノ制裁スル所ニアラス然ルニ原裁判所カ右ノ如ク言渡シタルハ違法ノ處斷ナルヲ以テ非常上告ニ及フト云フニアリ刑事局ニ於テハ非常上告論旨ニ基キ治罪法第四百三十五條ノ規則ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ同法第四百一條ニ依リ既決囚兵頭滿太郎ニ對シ無罪且放免ス但真正ノ壹朱銀并ニ偽造ノ壹朱銀九箇ハ治罪法第三百八條ニ依リ其所有主ニ還付スト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ舊金銀貨ハ明治七年第九十三號公布ヲ以テ人民相互ノ取引ヲ廢止セラレタル以上ハ内國通用ノ貨幣ニアラス其性質一ノ金銀塊ト異ナルコトナケレハ之レヲ偽造スルモ刑法第百八十二條以下ノ制裁スル處ニアラス然ルニ原裁判所ハ被告ノ所爲ハ舊貨幣タル壹朱銀ヲ偽造シテ行使シタルモノナリト認メ刑法第百八十二條ヲ適用シ無期徒刑ヨリ一等ヲ酌減シテ有期徒刑十五年ニ處シ真正ノ壹朱

銀壹箇并ニ偽造ノ壹朱銀九箇ヲ沒收シタルハ非常上告論旨ノ如ク法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲セシ不法ノ裁判ナリトス
○偽造舊貨幣收受行使ノ件明治十九年
第五百五十八號

舊貨幣偽造ノ情ヲ知テ之ヲ收受行使シタルモノハ刑法第百九十条ノ罪ヲ構成スルヤ否

鳥取縣因幡國高草郡賀露村士族無職業加藤武藏同縣同國法美郡中鄉村平民農業藏增孝一同縣同國邑美郡大工町頭平民無職業井上直次郎ニ對スル被告事件

初審 鳥取重罪裁判所

本件ノ事實被告井上直次郎ハ明治十四年三月以來西村忠次郎ナル者ヨリ偽造小判タルノ情ヲ知テ二十七枚ヲ收受シ六枚ハ被告藏增孝一ヘ二十一枚ハ加藤武藏ヘ賣渡シ孝一ハ同シク其情ヲ知テ直次郎ヨリ之ヲ受ケ加藤武藏ニ交付シ武藏ニ於テモ亦其情ヲ知テ六枚ハ孝一ヨ

リ二十一枚ハ直次郎ヨリ之ヲ受ケ其内十七枚ハ他ニ抵當ニ差入金員ヲ借用シ其後偽造タルノ情ヲ知ラスシテ取扱ヒタリト不實ノ自首ヲ爲シタルモノニテ明治十七年十月二十一日初審裁判所ハ被告等ハ刑法第百九十条ニ該ル罪アリト判定シ所犯新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ハ明治十年第二十五號改正偽造寶貨律ニ依リ懲役十年新法ニ於テハ刑法第百九十条ニ依リ處斷スヘキヲ以テ明治十四年第八十一號公布ニ照シ輕キニ從ヒ刑法第九十条ヲ適用シ同第百八十二条ノ本刑ヨリ二等ヲ減シ重懲役ニ處スヘキ處所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條第六十九條ニ照シ又二等ヲ減シ重禁錮四年六ヶ月ニ處シ同第四十三條ヲ適用シ偽造貨幣ハ官沒ス鑑定者木村正直ヨリ請求スル日當金九拾錢ノ内偽造小判六枚ニ係ル日當三拾錢ハ被告三名ヨリ二十一枚ニ係ル六十錢ハ直次郎武藏兩名ヨリ辨償スヘシト言渡シタル裁判確定ノ後大審院檢

事長ハ非常上告ヲ爲シタリ其要旨ハ抑モ舊貨幣ノ如キハ既ニ一般ノ通用ヲ廢止セラレ今日ニ在テハ法律上ノ通貨ニアラサルヲ以テ其偽造ノ情ヲ知テ收受行使スルモ刑法第九十條ヲ以テ制裁スルノ限リニアラス然ルニ原裁判所カ前顯ノ如ク處斷セシハ法律上罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ科シタル不法ノ裁判ナリトス仍テ非常上告ニ及フト云フニアリ刑事局ニ於テハ非常上告論旨ニ基キ原裁判ヲ破毀シ被告等カ所爲ハ法律上貨幣偽造ニ關スル罪ヲ組成セサルモノトシ被告加藤武藏藏增孝一井上直次郎ニ對シ無罪且放免但差押ヘタル舊貨幣ハ治罪法第三百八條ニ依リ差出人ニ還付スト宣告シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク凡ソ法律上ニ於テ貨幣ト稱スル者ハ一國政府ノ公權ヲ以テ國內一般ニ通用セシムルモノヲ云フモノナリ今被告等カ偽造タルノ情ヲ知テ受取行使シタリト云ヘル小判ナルモノハ明治七年第九十三號布告ヲ以テ一般ノ通用ヲ廢止セラレタル上ハ該小判ハ法律上

ノ貨幣ニアラサルナリ然ラハ則被告等カ右ノ行爲ハ場合ニヨリ他ノ罪ヲ構成スルコトアルハ格別貨幣偽造ニ關スルノ罪ヲ構成スルモノニ非ス然ルニ原裁判所カ前掲ノ如ク處斷シタルハ非常上告論旨ノ如ク法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡タルモノニシテ即チ治罪法第四百三十五條ニ適スル破毀ノ原由アルモノトス

○貨幣偽造ノ件 明治十七年 第四百十三號

朝鮮國通用ノ貨幣ヲ偽造シタルモノハ我刑法第百八十五條ニ依リ處斷スヘキヤ否

一件書類閱讀ノ請求ヲ許サ、ルハ公判手續ニ背クヤ否

佐賀縣西松浦郡山谷村三百十八番戶平民雜業力武嘉次郎事山田嘉次郎ニ對スル被告事件

初審 長崎重罪裁判所

本件ノ事實被告山田嘉次郎ハ朝鮮國仁川港居留中朝鮮人崔某孫致凡

等ト謀リ明治十七年六月九日朝崔某孫致凡柳景福咸永萬等俱々銅鉛炭共ニ鑄錢機械等ヲ積込ニ竊ニ仁川港ヲ發鑄シ翌十日無人島即チ同國南陽地方ソウラ龍溪ニ着シ其夜ヨリ鑄錢ニ着手シ同月十二日朝迄ニ朝鮮國通用ノ銅貨五文錢若干ヲ偽造シ其未被告ハ仁川港ニ於テ之ヲ行使シタルモノニテ明治十七年十一月六日初審裁判所ハ被告カ朝鮮國通用ノ銅錢ヲ偽造シタルノ罪ハ明治九年第二百二十七號布告朝鮮國修好條規附錄第七款第二項日本國人民ハ朝鮮國銅貨幣ヲ使用運輸スルヲ得ヘシ兩國人民私ニ錢貨ヲ鑄造スル者アレハ各其國ノ法律ニ照シテ處斷ス及刑法第百八十五條內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス云々トアルニ該ル而シテ被告ハ二十歲未滿ナルヲ以テ同法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減ス可キモノト判定シ同第六十九條ニ依照シ重禁錮四年六月ニ處シ尙同第九十一條ニ依リ六月ノ監視ニ付シ差押ヘタル證書類并ニ偽造銅貨ハ同第四十四條ニ依リ沒

收シ裁判費用ヲ負擔スヘシト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判官ノ認メタル如ク被告ハ朝鮮國通用ノ銅貨ヲ偽造行使シタルモノトスルモ內國通用ノ銅貨ヲ偽造シタルニ非サレハ刑法第百八十五條ノ支配ヲ受クヘキ者ニ非ス而シテ朝鮮國修好條規附錄第七款第二項ニ各其國ノ法律ニ照シテ處斷ストアルハ兩國各其國ニ備ハル法律ニ依テ處斷ストノ意義ニ止マルモノニシテ我刑法中罰スヘキ正條ナケレハ同第二條ニ依リ無罪ノ言渡アルヘキ筈ナルニ原裁判所ニ於テ刑法第百八十五條ニ問擬シタルハ越權及ヒ事實理由ニ齟齬セル不法ノ裁判ナリト云ヒ且辯護人カ訴訟書類ヲ閱讀抄寫スルニ方リ其一部ヲ糊封契印シアリテ閱見スルヲ得サルニ付其筋ヘ伺ヒタルニ官府ノ往復文書ニシテ本案ノ事實ニ關係ナキヲ以テ閱讀ヲ許サスト指令シ竟ニ之ヲ許サレサルハ公判ノ手續ニ背キタルモノナリト論告シタリ刑事局ニ於テハ被告カ上告論旨ハ其理由ナキモノ

ト認メ棄却シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク刑法第百八十五條ハ内國通用ノ銅貨ヲ偽造行使シタル者ニ適用スヘキ法章タルハ論ヲ俟タスト雖モ明治九年第百二十七號布告朝鮮國修好條規附錄第七款第二項ニ(兩國人民私ニ錢貨ヲ鑄造スル者アレハ各其國ノ法律ニ照シテ處斷ス)ト規定シアリテ此文意タル我國人民ニシテ朝鮮國ノ通貨ヲ偽造スル者ハ内國通用ノ貨幣ヲ偽造スルト同ク處斷ストノ意ナルヤ明カナリ故ニ原裁判所ニ於テ被告ノ所爲ニ對シ刑法第百八十五條ヲ適用シタルハ允當ノ裁判ニシテ上告ノ理由ナキ者トス又辯護人カ訴訟書類閱讀ノ際其一部ヲ糊封シテ閱見ヲ許サ、リシハ不法ナリト云フモ一件書類ヲ閱スルニ辯護人カ閱讀ヲ請求スル書面ハ本案ニ關係ナキ文書ニシテ訴訟書類ト同視スヘキモノニ非ストアリテ訴訟書類ニ非サル上ハ之カ閱讀ヲ許サ、ルトテ決テ不法ナリト云フヲ得ス依テ上告趣旨ハ總テ不相立者ト判定ス

官印偽造ニ關ス

○官文書偽造ノ件明治三十八年
第三千七百七十八號

戶長カ旅行先ニ於テ公證用ノ爲メニ擅ニ役場印ヲ彫刻シタル場合ニ於テハ官印偽造ヲ以テ論斷スヘキモノナリヤ否

福井縣越前國坂井郡竹松村甲拾七番地平民農内田正二郎ニ對スル被告事件

初審 福井重罪裁判所

本件ノ事實ハ被告正二郎ニ於テ戶長奉職中其旅行先ナル某所ニ於テ借用證書ノ公證ヲ爲スニ當リ役場印ヲ携帯セサリシヨリ印判師ヲシテ之ヲ彫刻セシメタルニ遂ニ使用スルニ至ラサリシヲ以テ其儘所持シ來リシモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ニ對シ戶長奉職中ノ事ナレハ假令同一ノ役場印ヲ彫刻スルモ法律上別ニ箇數ノ制裁ナキ以上ハ罪トナルヘキモノニアラストシ無罪且放免ノ言渡ヲ爲シタリ然

ルニ檢察官ニ於テハ抑役場印ナルモノハ紛失磨滅等ノ事アルニ於テハ先ツ郡役所ニ其事由ヲ届出テ然ル後ニ之ヲ彫刻シ尙ホ其印鑑ヲ届出ルニ非レハ公然之ヲ戸長役場印ト稱スルヲ得サルヲ郡治一般ノ例規ナルニ役場印ヲ携帶セザリシトテ擅ニ印判師ヲシテ之ヲ彫刻セシメ遂ニ其届ヲモ爲サス竊ニ之ヲ所持シタルカ如キハ偽造罪タルヲ勿論ナルヲ原裁判所カ箇數ニ制裁ナシトテ之ヲ不問ニ付シタルハ擬律錯誤ノ裁判ト思料スル旨總々論告シタリ然レモ刑事局ニ於テハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第七拾七條ニ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セストアリ今本案被告人カ所爲ニ於ケル原裁判官ノ認定セシ事實ニ依レハ戸長奉職中旅行先ニ於テ借金證書ニ公證ヲ爲サントスルニ方リ役場印ヲ携帶セサルヲ以テ擅ニ戸長役場印彫刻セシメタルモ該公証ヲ要セスシテ其儘ニ所持シ居タルニ過キスシテ毫モ惡意アルニアラ

サルノミナラス之レヲ不正ニ行使スル事跡ナケレハ罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ナルハ論ヲ竣サルナリ而テ戸長職務ニ付擅權等ノ所爲アルニ於テハ官吏懲戒令ニ處セラルヘキハ格別無届ニテ役場印ヲ彫刻セシトテ直チニ之レヲ以テ官印偽造罪ノ構成セシモノト云フヲ得ス故ニ原裁判官カ認メタル事實ニ對シ無罪放免ノ言渡シヲ爲シタルハ相當ニシテ之レヲ擬律錯誤ナリト云フヲ得可カラサルヲ以テ上告ノ旨趣ハ其理由ナキモノトス

○官印及私書偽造ノ件明治十七年四月二十五號

財貨ヲ騙取センカ爲メ官印及私書ヲ偽造シ人ニ交付シ他ノ疑フ所ト爲リ其目的ヲ達セサルモ行使罪ハ成立スルヤ否

青森縣陸奥國三戸郡田子村北村善五郎ニ對スル被告事件

初審 弘前重罪裁判所

本件ノ事實被告北村善五郎ハ第一明治十七年四月七日立花吉三郎ト

相謀リ吉三郎ニ於テハ双子編及其裏地ヲ此者へ貸渡シ吳レヘキ旨ヲ記シタル養父字七郎カ信書一通ヲ詐爲シ其名下ニ吉次郎^{本名}トアル新刻ノ自印ヲ押捺シタルニ善五郎之ヲ持テ上野清吉ニ交付シ以テ双子編三反裏地三反ヲ騙取シ第二明治十七年四月十九日全廿二日吉三郎カ美濃紙及半紙ヲ此方へ貸渡シ吳レヘキ旨ヲ記シ養父字七郎カ信書二通ヲ詐爲シタルヲ同年三月中善五郎ハ共ニ謀リテ犯罪ノ用ニ供センカ爲メ佐藤宗吉ニ託シ偽造シ置キタル養父字吉郎ノ實印ヲ押捺シ之ヲ工藤傳三郎ニ交付シ以テ美濃紙二十帖半紙一束ヲ騙取シタリ第三明治十四年四月日詳ナラス小中野村藤谷キチ方二階ニ於テ被告善五郎ハ石鹼ヲ以テ之ニ三戸郡第九組戸長役場及戸長役場ト彫刻シタル二顆ノ印ヲ偽造シ後チ吉三郎ト相謀リ金額詐取ノ目的ニテ吉三郎曾テ所持セサル田地一町歩餘ヲ抵當トシ近藤徳之助ヲ證人トシ負債主トナリ新渡戸審小笠原清ノ名宛ニテ全年四月十七日付ナル金八十五圓

借用證書ヲ詐爲シ被告ハ之ニ戸長代理立花字七郎ノ姓名ヲ記シ其名下ニ豫テ偽造シ置キタル字七郎カ實印ヲ押捺シ右戸長役場印ヲ押用シテ公證ヲ偽造シ以テ周旋人細川清太郎ニ託シ新渡戸常彬ニ交付シタルモ公證ノ字跡等常彬カ疑フ所トナリ爲メニ金額ヲ詐取スルノ目的ヲ達セス又前全一ノ目的ヲ以テ吉三郎カ曾テ所持セサル田地五反歩餘ヲ抵當トシ自分ハ負債主トナリ明治十七年四月廿日頃ノ日付ナル金五十五圓ノ借用證書ヲ詐爲シ善五郎之ニ戸長代理立花字七郎カ姓名ヲ記シ其名下ニ豫テ偽造シ置キタル字七郎カ實印ヲ押捺シ右戸長役場ノ印ヲ押用シテ公證ヲ偽造シ以テ周旋人田中萬五郎ニ託シ太田廣武ニ交付シタルモ公證ノ字跡等廣武カ疑フ所トナリ爲メニ金額ヲ詐取スルノ目的ヲ達セサルモノナリ明治十八年六月三十日初審裁判所ハ被告カ第一ノ所爲ハ刑法第三百九十條同第三百九十四條同第二百十條第二項同第二百十二條ニ依リ第二ノ所爲ハ刑法第二百四條

同第二百六條第九十五條同第二百八條同第二百十二條同第三百九十條同第三百十二條同第三百九十四條同第三百條ニ照シ一ノ重キ第九十五條ニ依リ犯情原諒スヘキヲ以テ仍ホ同第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮三年六月ニ處シ仍ホ同第二百一條ニ依リ監視一年ニ付ス但犯罪ノ用ニ供シタル書類ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト言渡シタルニ之ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ假令原判文ニ認ムル如キ事實ナリトスルモ被告ハ只偽證書ヲ他ニ示シタル迄ニシテ字跡ノ模様等ニ依リ他ノ疑フ所トナリ目的ヲ達セズ自止シタル者ナレハ自止未遂犯ニシテ無罪ナリ或ハ他ニ疑ハレタルハ障礙ナリトセンカ刑法第一百十二條ヲ適用スヘキ者ナルニ原裁判ハ行使既遂ノ擬律ヲナシタルハ事實誤判擬律錯誤ナリト論シタリ刑事局ニ於テハ上告ハ其理由ナキモノトシ刑法第四百二十七條ニ從ヒ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク凡諸般ノ證據ヲ採擇シ事實ヲ判定スルハ原判官ノ主權ナリ故ニ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ノ原由アル場合ヲ除クノ外他ノ容喙シ得ヘカラサル者トス今原判文ヲ閱スルニ被告事件ノ證據ヲ列記シ事實ノ判定ヲナシタル者ニシテ毫モ不法トナス廉アルコトナク事實誤判ナリトノ上告論旨ハ徒ラニ原判官ノ職權ヲ侵シ事實ノ判定ヲ左右セント試ムルニ過キサル者トス然リ而テ偽造公正證書行使ノ如キハ已ニ新渡戸常彬太田廣武ニ交付シタルコトハ原判文ニ明記アリ抑證書行使トハ其行使ノ目的ヲ達スルト否トヲ別ツ者ニ非ス被告ノ如キ其目的詐欺取財ニアル時ハ其詐欺取財ハ別ニ一罪ヲ構成スル者ナレハ偽造證書ヲ人ニ交付スルカ又ハ利ヲ射ンカ爲メ人ニ示シタル迄ニシテ行使罪ノ成立スルハ論ヲ俟タス然ラハ則チ被告カ所爲ハ純然タル既遂罪ニシテ未遂罪ト云フヘカラス

○官印盜用ノ件 明治三十一年九月二十九號

郵便局雇書記ニシテ局印ヲ盗用セシモノハ該印監守ノ責任アリ
シヤ否ヲ審究セス直チニ刑法第九十七條ヲ適用シテ可ナルヤ
否

又同上雇書記ニ對シ刑ヲ科スルニハ普通官吏ノ身分トシ處分ス
ヘキヤ否

石川縣能登國鹿島郡七尾檢物町四十番地ノ二平民質屋營業松田
固四郎ニ對スル被告事件

初審 金澤重罪裁判所

本件ノ事實ハ明治十八年十月十三日初審裁判所ニ於テ松田固四郎ハ
七尾郵便局雇ヲ以テ書記ヲ勤メ郵便事務取扱中丹波國何鹿郡田野村
田中敬造ヨリ天蠶并柞蠶飼養及製糸法便覽ト題スル印刷物五十枚ニ
信書一通ヲ合裝シ之ヲ第四種郵便物ト爲シ被告ヘ宛テ未納稅ノ儘差
送リタル處途中大津郵便局ニ於テ第一種郵便物即チ信書ヲ封入シ在

ルヲ發見シ總体量目二百二十六匁ヲ第一種郵便物トシ配達未納稅
徵收云云ノ附箋ヲ爲シ明治十七年十一月十一日七尾郵便局ヘ到着ス
ルヤ被告ハ當時郵便取扱役立違ノ間自己郵便事務ヲ取扱フテ幸ヒ其
郵便物ヲ受取ルルハ未納稅金四圓五十二錢ヲ差出サ、ルヲ得サルヲ
厭ヒ又之ヲ其儘繼戻セハ敬造ニ於テ定稅三倍ノ金額ヲ拂ハサル可ラ
スト迷惑ノ餘リ原忽チ惡計ヲ案シ信書及ヒ印刷物二枚ヲ拔取り而シ
テ一應取調フル處目形二百十匁ニシテ第一種ナルモノ見當ラサルニ
依リ四種郵便物未納稅徵收スル旨ヲ七尾郵便局ヨリ受取人宛ノ書面
一通及ヒ貼用切手面ヘ未納印ヲ押スヘキ處誤テ日付印ヲ捺印此段相
斷ルトノ書面一通ヲ偽造シテ被告ノ雇人ニ淨寫セシメ七尾郵便局ノ
局印及ヒ内一通ヘハ同局ノ日付印ヲ盗用シ又被告ノ實父松田久平ヲ
郵便配達人ノ体ニ仕爲シ受取人松田固四郎ハ青森縣ヘ旅行不在ニ付
返却スル旨右久平ヨリ七尾郵便局宛ノ書面一通ヲ偽造シ其名下ヘ被

告ノ見留印ヲ押捺シ以上三通ヲ該郵便物ニ貼付シ且附箋ノ趣ニ付墨消候條配達方御取計有之度ト七尾郵便局ヨリ大津郵便局ヘ宛タル書面一通ヲ偽造シ七尾郵便局ノ日付印ヲ盜捺尙之ヲ貼付シ其繼目ヘモ該日付印ヲ盜用スル而已ナラス同局ニ在ル郵便切手五十錢二枚八錢一枚ヲ竊取シ該郵便物ヘ貼付墨消ヲ爲シ其日即チ明治十七年十一月十一日大津郵便局ヘ宛テ繼戻シタルモノト事實ヲ判定シ刑法第二百五條第二百十條第二項第二百十二條第九十七條第二項第三百六十六條第三百七十六條郵便條例第二百四十三條第二百四十九條第二百三十七條第二項第二百四十八條第二百四十九條刑法第百條ヲ適用シ一ノ重キ刑法第百九十七條ニ從ヒ重懲役ニ處スヘキ處所犯情狀原諒スヘキモノアルヲ以テ同第八十九條第九十條第六十九條ニ依リ二等ヲ減シ二年ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同法第二百一條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一被

告ハ七尾郵便局雇ヲ以テ書記ヲ勤メ郵便事務取扱中云云トノミアリテ果タシテ雇書記ナルモノハ官吏ナリヤ否ヤヲ示サス第二付箋ニ押用シタル局印ハ日付印ヲ押用スヘキヲ誤テ局印ヲ捺用シタルモノニ付公判中喋々辯論シタルニ原裁判ハ其錯誤ニ出テシヤ否ヤヲ明示セズ第三日付印ハ官印ト性質ノ異ナルモノナルニ原判文ニ官印タルノ理由ヲ示サス又局印日付印ハ被告カ監守者ナルヲモ明示セス云云ト論スルニ在リ檢察官ハ被告カ所爲ハ郵便條例第三百三十七條第二百四十九條刑法第二百三條第九十七條第二百十條第二項第九十六條第二項第九十七條ニ該當スヘキ數罪俱發ニシテ同法第百條ニ照シ一ノ重キ同第二百三條ニ依リ輕懲役ニ處スヘキモノナリ即チ第一郵便局取扱役ノ雇ヲ受ケシ者ヲ普通官吏ト同視シ刑ヲ加重セシメ第二郵便發着ノ日時ヲ證明スル日付印ヲシテ官署ノ印ト同視シ官印盜用ノ刑ニ處シタルヲ第三郵便信書ニ付スヘキ付箋ノ文書ヲ官文書ト論

定セシテ第四郵便切手ヲ貼用セシテ消印セス墨消シタルトノ斷リ書ヲ以テ官文書偽造官印盜用罪ト爲シタルヲ第五檢察官ノ公訴ヲ受ケス且被告ヲ審問セスシテ郵便切手竊取ノ判定ヲ爲シタルヲ右五ヶ條ノ法律適用ハ皆被告カ犯罪ノ事實ニ適合セサル不法ノ裁判ナリト論シ附帶上告ヲ爲シ被告代言人ハ原裁判言渡ハ毫モ犯罪ノ證據ヲ明示セサルニ付此一點ニ於テモ充分破毀ノ原由アルモノト述ヘ上告論旨ヲ擴張シタリ刑事局ニ於テハ上告第一論旨及附帶上告第一論旨ヲ適當ノ理由アルモノト認メ此點ヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原裁判言渡ヲ閱スルニ被告松田固四郎ハ七尾郵便局雇ヲ以テ書記ヲ勤メ郵便事務取扱中云々ト掲ケ被告ハ刑法第九十七條第二項第二百五條等ノ數罪アル者ト判定シタリト雖モ抑モ郵便局雇書記ナル者ハ果シテ官吏タルノ身分ヲ有スル者ナルヤ又ハ郵便取

扱役カー己ニ雇入レタル者ナルヤ若シ官吏ナリトセハ郵便局印等ヲ被告カ監守スルノ責任アルモノナルヤ否ヤノ事實理由ヲ明示セサルハ上告及ヒ附帶上告論旨ノ如ク不備ノ裁判タルヲ免レサル者トス何トナレハ是等ノ事實ハ刑法第九十七條一二項第二百五條第二百五條等ノ因テ分ル、處ノ要點タレハナリ然ルニ原裁判所ハ單ニ郵便局雇書記云々トノミ認定シテ輒スク前記ノ刑ヲ適用シタルハ不法ノ裁判ニシテ即チ治罪法第四百十條第九ニ適應スル上告ノ原由アル者トス

○官印及文書偽造行使ノ件明治十八年
治千六百六十三號

驛遞局貯金預所ノ印章ヲ偽造シタル者ハ私印偽造ヲ以テ論斷スヘキモノナリヤ將々官印ナリヤ

驛遞總官又ハ郵便局長ニ宛タル貯金拂出願書ハ權利義務ニ關スル私書トハ云フヲ得サルモノナリヤ否

騙取シタル金額ノ賠償ヲ命スルニ當リ騙取者被害者ニ預ケ金ア

リタル場合ニ於テハ其騙取金額ヨリ之ヲ控除シテ命ス可キモノナリヤ否

愛知縣尾張國名古屋區臺所町士族無職業小笠原鎗三郎ニ對スル
被告事件

初審 名古屋重罪裁判所

本件ノ事實ハ被告鎗三郎ニ於テ曾テ名古屋郵便局雇奉職中自ラ矢橋ト詐稱シ印判師某方ヘ至リ尾張國枇杷島貯金預リ所トアル印章一顆ヲ代金若干ニテ彫刻セシメ尋テ伊藤庄之助ナル名義ヲ設ケ枇杷島貯金預リ所ヘ金貳拾錢ヲ預ケ同所ヨリ下渡シタル貯金預リ通帳中八月トアルヲ六月ト改描シ矢島トアル檢印ヲ偽造押捺シ其第二項ニ某月日金五拾圓第三項ニ某月日金八拾錢ト記入シ各其下ニ矢島吉右衛門ト記シ偽造シタル矢島トアル檢印及貯金預リ所ノ印ヲ押用シ伊藤庄之助名義ニテ驛遞總官宛金五拾圓貯金拂戻願書伊藤庄之助證人某名

義ニテ名古屋郵便局長宛貯金即時下渡願書各壹通ヲ偽造シ其驛遞總官宛ノ願書ニハ貯金預所ノ偽造印ヲ押捺シ又矢島吉右衛門ヨリ名古屋郵便局長宛ノ副伸書名古屋出張局會計課貯金係リ宛ノ添書各壹通ヲ偽造シ其副伸書ニハ矢島ノ偽造檢印ヲ押用シ通帳ト共ニ一封ト爲シ枇杷島郵便局ヨリ到達シタルモノ、如ク裝ヒ住所氏名知レサル面識ノ者ヲシテ名古屋郵便局ヘ伊藤庄之助ナリト詐稱出頭セシメ以テ金五拾圓ヲ騙取シタルモノナリトノ告訴及驛遞總官ノ代理者タル種田元萬ヨリ右騙取金賠償ノ私訴ヲ受ケタルモノニテ初審裁判所ハ右被告ノ所爲ヲ以テ官印ヲ偽造シ官文書ヲ偽造變造行使シ及權利義務ニ關スル私書ヲ偽造行使シ金圓ヲ騙取シ且官署ニ對シ姓名ヲ詐稱セシメタル罪アルモノト認メ刑法第百九十五條第百六條第百三條第百十條第一項第百九十四條第百九十四條第百五條第百三十一條ニ照依シ第百條ニ依リ一ノ重キ第九十五條ヲ適用シ同第八十一

條ニ照シ一等ヲ減シ輕懲役六年ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル偽造ノ書類ヲ沒收シ民事原告人請求ノ金額ヲ賠償シ及ヒ裁判費用若干ヲ負擔スヘキ旨言渡シタルニ被告鎗三郎ニ於テハ第一驛遞局貯金預所ナルモノハ驛遞局認可ヲ受ケ人民自宅ニ開設シ得ルモノナレハ其主務者モ亦一人民タルニ過キサルヲ以テ其印章ヲ偽造シタリトテ之ヲ官印偽造トハ云フヲ得ストノ事第二伊藤庄之助名義ニテ枇杷島貯金預書ヘ金貳拾錢ヲ預ケタリトノ事實ハ原判官ノ構造シタルモノナリトノ事第三偽造ノ書類ヲ通帳ト共ニ枇杷島郵便局ヨリ到達シタル体ニ取計ヒタリトハ事實上爲シ得可カラサル所爲ニシテ是亦原判官ノ構造ニ出テタル事實ナリトノ事第四貯金預リ通帳中ノ文字ヲ描改増減シ及貯金預リ所ノ偽造印ヲ押用シタル所爲ハ權利義務ニ關スル私書ヲ増減變換シタルモノニシテ之ヲ變造行使シタルモノトハ云フヲ得ストノ事第五驛遞總官又ハ名古屋郵便局長ニ宛タル偽造ノ願書ニ貯金

預リ所ノ偽印ヲ押捺シタル所爲ハ之ヲ權利義務ニ關スル私書ヲ偽造行使シタルモノトハ云フヲ得ストノ事第六矢島吉右衛門名義ヲ以テ矢島トアル印ヲ押捺シ作爲シタル副申書及添書ハ官文書偽造ニ非ストノ事第七右第四ノ所爲ハ刑法第二百十條第一項第五第六ノ所爲ハ同條第二項ヲ適用スヘキモノナリトノ事第八假リニ伊藤庄之助名義ノ者ヲ出頭セシメ金五拾圓ヲ騙取シタル事實アリトスルモ身分詐稱ノ點ニ付テハ刑法第二百五條第二百三十一條ヲ適用セラレタルヲ以テ金圓騙取ノ點ニ付テモ亦同第百五條ヲ適用スヘキモノナリトノ事第九民事原告人請求ノ金圓ハ素ヨリ被告ノ騙取シタルモノニ非サレハ賠償ノ義務ナキヲ明カナリ假リニ之レアリトスルモ被告カ金貳拾錢ヲ枇杷島貯金預所ヘ預ケタル事實ハ原判官モ認ムルノミナラス證據物件ニ徴シ明カナレハ賠償ヲ命スヘキ金額ハ其貳拾錢ヲ控除シタル殘金ニシテ其被害ハ名古屋驛遞出張局主務者ニ在ルモノナレハ驛

遞總官ヨリ請求ヲ受クヘキモノニアラストノ事其他筆跡鑑定人ノ宣誓式ニ違フヲ以テ其効ナキモノナレハ更ニ相當ノ鑑定ヲ請ヒシニ之ヲ容レサリシトノ事ヲ論告シ又追伸書ヲ以テ前意ヲ擴張論疏シ仍ホ辯明書ヲ以テ矢橋トアル印ハ如何ナル印類ナリヤ又何人ノ彫刻ナルヤ將タ如何ニシテ之ヲ押捺セシヤ其理由ヲ示サス且該印ハ被告カ偽造ナリトノ公訴アルニ此事實ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘサリシハ所謂訴ヲ受ケタル事件ヲ判決セサリシトノ事伊藤庄之助名義ノ實否ヲ審究明示セサリシトノ事鑑定ノ請求ヲ容レラレサリシヲ非難シ且豫審調書ノ朗讀ヲ爲サ、リシトノ事官文書ヲ増減變換シタルコトハ公訴アラサルニ之ヲ裁判シタリトノ事ヲ纏々追論シタリ依テ刑事局ニ於テ治罪法第四百廿七條ニ則リ上告論旨中原裁判所カ矢島トアル小印ノ件ニ付檢察官ノ公訴アリタルニモ拘ハラヌ何等ノ判決ヲ與ヘサリシヲ不法ナリト認メ此一部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ハ掲ケテ前顯ノ如シト雖モ押驛遞局貯金預所タルヤ素ヨリ人民自宅ニ開設シ其主務者モ一ノ人民ニ歸スルモ驛遞總官ノ命令ニ依リ其事ヲ取扱フ所ニシテ其事務タル驛遞局貯金ノ事務ヲ分掌スルモノナレハ該事務ニ關スル文書及ヒ印章ハ官文書又官印ノ資格アルハ勿論ナルヲ以テ若シ之レヲ偽造變造シテ行使シタルニ於テハ刑法第九十五條第二百三條第二百六條等ノ支配ヲ受クヘキハ當然ナリ故ニ原判官於テ被告ハ枇杷島貯金預所ノ印ヲ偽造シテ之ヲ押用シ貯金事務ニ關スル副申書及ヒ添書ヲ偽造シ且其主務者ニ於テ證記スル所ノ通帳ヲ増減變換行使シタル者ト認メタルヲ以テ此事實ニ對シ刑法第九十五條第二百三條第二百六條等ヲ適施シタル至當ニシテ之レヲ事實及ヒ法律ニ依リ理由ノ齟齬又ハ擬律ノ錯誤ナリト云フヲ得ヌ又伊藤庄之助名義ヲ以テ作爲シタル願書ノ如キハ其願書ヲ以テ貯金拂出ヲ請求スル書面ニシテ即チ引出シ證書ナレハ最

モ權利義務ニ關係スル證書タルコトハ論ヲ竣サレハ之ヲ以テ刑法第二百十條ノ第二項ニ該當スル私書ト云フ可カラズ而シテ刑法第二百五條ハ人ヲ教唆シテ重輕罪ヲ犯サシメタル場合ニ當行スヘキ法章ニシテ其事實ナキ以上ハ當行スヘキモノニ非ス故ニ其姓名ヲ詐稱セシメタルコトハ原判文ニ明示スルカ如クニシテ該條ヲ適用シタルハ當然ナレトモ其騙取ヲ教唆シタリトノ事實ハ認メサルヲ以テ右第五條ヲ施適セサルハ之レ亦至當ニシテ之ヲ不法ノ言渡ト爲スヲ得ス而テ假令公訴狀ニ刑法第二百十條第二項ニ該ルモノト記載シ或ハ其他罪名ノ異同アルモ其所爲ノ事實ヲ判定スルハ裁判官ノ職權上ニ在ルモノナレハ判文ノ事實ニ公訴狀ト差異アルモノヲ以テ直チニ治罪法第四百十條第七項ニ該當スル失當ノ裁判ナリト爲スヘキモノニ非ス然リ而シテ原書類ヲ檢スルニ水谷彰ノ鑑定書ハ初メ警察署ニ於テ爲サシメタルモノナルモ豫審中更ニ宣誓式ヲ履行シ其鑑定ノ如何ヲ確メタルヲ

以テ今ヤ之ヲ其式ヲ履サル違法ノ鑑定ト爲スヲ能ハサルノミナラス再鑑定ノ請求ヲ許否スルハ之レ亦裁判官ノ職權ニ在ルヲ以テ設ヒ之レヲ聽許セサルモ以テ越權ト爲ス可カラス殊ニ公判始末書ヲ閱スルモ檢察官於テ該鑑定書ヲ證トシ辯論シアルハ勿論該鑑定ニ付テハ辯護人モ辯論シアルヲ以テ別ニ其調書ヲ朗讀セサルモ違法ノ處分ト云フヲ得ス殊ニ之レヲ無効トスルノ法則ナケレハ斯ク朗讀ナキヲ満足セサルニ於テハ當時異議ノ申立ヲ爲ス可キニモ此申立ヲ爲シタルニ非サルヲ以テ今ヤ之レヲ論難スルモ其効ナキモノトス又伊藤庄之助ナル者ノ實否如何ハ本案ニ必用ノ關係ナキヲ以テ其理由ヲ審究明示セサルモ事實理由ヲ欲キタルモノト爲スヲ得ス又驛遞出張局ノ被害ハ即チ驛遞總官ノ被害ニシテ出張局主務者ノ被害ニ非サレハ種田元萬於テ驛遞總官ノ代理ト爲リ私訴請求ヲ爲スハ素ヨリ當然ニシテ既ニ被告於テ騙取シタリト認定シタル以上ハ之レヲ賠償セシム可キハ

論ヲ竣タサル而已ナラス該五拾圓ノ金額ハ騙取ニ係ルヲ以テ之レヲ賠償シ尙ホ其裁判ニ付他ニ負ハシメタル費用ヲ辨償セシムルハ當然ニシテ被告カ正當ニ預ケタル金圓ハ更ニ下ケ戻ヲ請求スヘキ筋合ナルヲ以テ其正當ニ預ケタルノ金貳拾錢ヲ本金ヨリ差引ヲ爲シ賠償ヲ命スヘキモノニ非サルニ依リ是亦不當ナリトノ論旨ハ其理由ナキモノトス其他先キノ第二第三論旨ハ事實ノ判定ト採證ノ如何ヲ批難スルニ止リ其理由ナキヲ以テ採用スル不能ハス故ニ官印偽造官私文書偽造變換行使詐欺取財氏名詐稱ノ罪ニ對スル裁判適當ニシテ上告ノ旨趣ハ一モ相立タス然リト雖モ最終辯明書第一第二ノ論點ニ係ル私印偽造罪事件ニ付公訴狀及ヒ公判始末書ヲ閱スルニ矢橋トアル小印ヲモ偽造行使シタルモノトシ刑法第二百八條ヲ當行スヘシトノ檢事請求アリタル明了ナルモ原判文ニ徵スルニ其私印偽造ノ點ニ付テハ何等ノ理由ヲ付セス之レカ判決ヲ爲サ、リシハ上告論旨ノ如ク訴ヲ

受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サ、ル不法ノ裁判ナルヲ以テ此一部ハ破毀ス可キモノト判定ス

○印紙再貼用ノ件 明治三十三年三月二十七號

舊證券印稅規則ニ違犯シ刑法實施後ニ發覺シタルモノハ新舊法ヲ比照シ處分スヘキヤ將タ刑法ノミニ依ルヘキヤ
印紙再貼用ノ罪ニ對シテハ脫稅ト再貼用ノ二罪ニ問フヘキヤ否

埼玉縣武藏國高麗郡上廣瀬村平民清水宗徳ニ對スル被告事件

初審 浦和輕罪裁判所

本件ノ事實被告清水宗徳ハ第一明治十四年十二月廿九日第九十五國立銀行ヨリ金二千圓借入ル、節借用證書ニ二圓ノ證券印紙ヲ貼用シタルモ内一圓七拾錢ノ印紙ハ再貼用ニ係ルモノナリ而シテ清水豐三八其情ヲ知ラスシテ保證人ニ相立テ渡邊敏行モ亦之ニ氣付カスシテ受取リ第二明治十五年二月十日被告ハ和田傳吉カ證人トナリ第九十

五國立銀行ヨリ金百圓借入ル、際借用證書ニ一錢ノ印紙ヲ貼用シ之
 ヲ同銀行支配人ニ差入レタルモノニテ明治十七年九月十三日初審裁
 判所ハ被告カ第一ノ證券印紙貼用ハ刑法第百九十九條ニ該リ第二ノ
 所爲即チ借用金高ニ相當ノ印紙ヲ貼用セス脱税ヲ謀リタルハ明治十
 七年第十一號布告第二條同第十九條ニ照ラシ處分スヘキニ該リ右印
 紙再貼用ノ罪ト二罪俱發ニ係ルモ同第二十六條前數條ノ罪ヲ犯シタ
 ル者ハ刑法數罪俱發例ヲ用井ストアルニ因リ再貼用ノ廉ヲ以テ罰金
 二圓脱税ノ罪ニ對シテハ科料一圓即チ脱税五錢ノ二十倍ヲ併科スト
 言渡シタルニ被告ハ事實探證ヲ論難シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告
 ハ印紙再貼用等ヲ爲シタルヲナケレハ法庭ニ於テノ供述中犯則ノ證
 憑トナルヘキ言詞アルノ理ナク又他ノ被告人兩名ハ更ニ其事ヲ知ラ
 ストノミ主唱シタル者ナレハ亦被告カ犯則ノ證據トナルヘキ供述ア
 ルノ理アルヘカラサルニ原裁判所ハ是等事實ノ證據ヲ明示セス只證

書ノ現在被告人共カ當法庭ニ於テノ陳述ニ依テ證據充分ナリト爲シ
 輒スク罰金ヲ言渡シタルハ證據ヲ明示セサル不法ノ裁判ナルヲ以テ
 破毀ヲ求ムト云ヒ檢察官ハ被告カ第一ノ所爲ナル金額二千圓ノ借用
 證書ニ已ニ用井タル印紙ヲ再ヒ貼用セシ所爲ハ刑法ノ正條ニ照シ處
 斷スヘキハ勿論該印紙ハ貼用ノ効ナキヲ以テ證券印稅規則第十九條
 ニ從ヒ不足印紙貼用ノ點ヲモ罰スヘキモノナルヲ以テ二罪ノ處分ヲ
 求メタルニ證券印稅規則違犯ノ點ニ付判決ヲ與ヘス單ニ刑法第百九
 十九條ニ照シテ處斷セシハ治罪法第四百十條第七ニ所謂請求ヲ受ケ
 タル事件ニ付判決ヲ爲サハル違法ノミナラス擬律ニ錯誤アル裁判ニ
 付破毀ヲ求ムト論シ附帶上告ヲ爲シ又大審院立會檢事ハ被告カ第一
 ノ所爲ハ明治十四年ノ犯罪ナレハ舊證券印稅規則ト刑法トヲ比照シ
 テ處分スヘキニ刑法ノミニ依リタルハ擬律ノ錯誤ナリ又第二ノ所爲
 ハ期滿免除ヲ得タルモノニシテ罰スヘカラサルモノナリト陳述シタ

リ刑事局ニ於テハ被告カ第一ノ所爲ナル已ニ貼用シタル證券印紙ヲ再ヒ貼用シタル廉ハ舊法ニ於テハ明治七年第八十一號布告第四則第十二條六十圓以下ノ過料ニ該リ新法ニ於テハ刑法第百九十九條二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ該ルヲ以テ輕キ新法ニ從ヒ尙ホ明治十四年第八十一號布告第五條及ヒ同年第七十二號布告第三條ニ依リ二十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處スヘキモノトス其印紙不貼用ノ廉ハ明治七年第八十一號布告證券印稅規則第二則第一條ニ基キ二圓ノ印紙ヲ貼用スヘキニ三十錢印紙ヲ貼用シ一圓七十錢不足シタル者ニ付同規則第四則第七條ニ依リ減稅高ノ十倍十七圓ノ過料ニ該リ新法ニ於テハ明治十七年第十一號布告證券印稅規則第二條ニ依リ六十錢ノ印紙ヲ貼用スヘキニ三十錢印紙ヲ貼用シ三十錢ヲ不足シタル者ニ付同規則第十九條ニ依リ脫稅高ノ二十倍六圓ノ罰金ニ該ルヲ以テ輕キ新法ニ從フヘキモノトス又被告カ第二ノ所爲ハ明治七年第八十一號布

告證券印稅規則第二則第一條ニ基キ十錢印紙ヲ貼用スヘキニ一錢印紙ヲ貼用シ九錢不足シタル者ニ付同規則第四則第七條ニ依リ減稅高ノ十倍九十錢ノ過料ニ該ルモ犯時明治十五年二月十日ヨリ發覺ノ當時即チ明治十七年八月迄已ニ二ケ年以上ヲ經過シタルヲ以テ治罪法第十一條一項ニ依リ公訴期滿免除ヲ得タルモノト認定シ明治十四年第七十二號布告第五條及ヒ明治十七年第十一號布告證券印稅規則第二十六條ニ依リ數罪俱發例ヲ用井ス被告清水宗徳カ第一ノ所爲中印紙再貼用ノ點ニ付一圓九十錢ノ科料印紙ヲ不足ニ貼用シタル點ニ付六圓ノ罰金ヲ併科シ第二ノ所爲ハ治罪法第三百五十八條二項ニ依リ免訴ス但書ハ原裁判ノ通リタル可シト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ事實及ヒ證憑ヲ判定スルハ原裁判官ノ職權ニ屬シ他ヨリ徒ニ之ヲ非難スルモ其効ナキモノナルニ上告論旨ハ無罪ノ證

トナルヘキ被告等ノ供述ヲ取り斷罪ノ用ニ供シタルハ不法ナリト云フニアリテ事實及ヒ證據ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ止リ上告ヲ爲シ得ヘキ適法ノ原由ナキ者トス然レモ原檢察官附帶上告論旨ノ如ク被告カ第一所爲即チ印紙再貼用ヲ罰スルモ一面脱稅ノ所爲ヲモ罰スヘキモノナルニ原裁判所ニ於テ單ニ再貼用ノミヲ罰シ脱稅ノ所爲ヲ不問ニ付シタルハ擬律ノ錯誤ナリトス而シテ原檢察官ハ此點ニ付擬律ノ錯誤及ヒ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サ、ルニ個ノ瑕瑾ナリト云フモ原判文ニ印紙再貼用ノ事實ヲ認メアル上ハ隨テ脱稅ノ所爲モ伴フヘキハ勿論ニ付只之ニ對スル法律ノ適用ヲ欠キタル擬律ノ錯誤ニ止ル者トス加之原判官ノ認ル所ニ據ルニ右第一ノ所爲ハ明治十四年十二月二十九日ニシテ即チ刑法實施以前ニ在ルモノナレハ刑法第五條二項ニ基キ同第三條二項ニ照シ新舊法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スヘキ筈ナルニ原裁判茲ニ出テサルハ本院檢事意見ノ如ク是

亦擬律錯誤ノ裁判ナリトス又被告カ第二ノ所爲ハ明治十五年二月十日ニシテ其罰スヘキ法律ハ舊證券印稅規則第四則第七條ニ依リ減稅高ノ十倍九十錢ノ過料ニ該リ即チ違警罪ナルヲ以テ治罪法第十一條一項ニ依リ公訴期滿免除ヲ得タルモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テ受理判決シタルハ治罪法第四百十條第五ニ相當スル破毀ノ原由アル者トス

○印紙再貼用ノ件明治十五年三月十六日

私ニ藥劑ヲ調製シ之ニ印紙ヲ再貼シテ販賣シタル場合ニハ其正當ノ營業者ニアラスト云フヲ以テ刑法第百九十九條ノ罪ハ成立セサルヤ否

廣島縣佐伯郡廿日市村平民二宮善右衛門ニ對スル被告事件

初審 廣島輕罪裁判所

本件ノ事實被告二宮善右衛門ハ明治十九年一月以來無免許ニシテ明

治十八年十二月廢業セシ順血湯及ヒ消毒藥王丸ト稱スル二個ノ藥方ヲ調製シ名ヲ受賣スル所ノ婦王湯萬病圓等ニ託シテ販賣シ又消毒藥王丸ニ印紙ヲ再貼用シテ販賣シタルモノニテ明治十九年十一月二十日初審裁判所ハ被告カ無免許ニテ順血湯ト消毒藥王丸ヲ調製販賣セシ所爲ハ賣藥規則第二條ノ規則ヲ犯シタルモノト判定シ同規則第二十三條ニ依リ右順血湯消毒藥王丸ニ方ノ罰金五十圓ニ處ス又右藥劑ニ印紙ヲ再貼用セシハ法律上賣藥營業者ニ非ラサルヲ以テ罪トナラサルモノトシ刑法第二條ニ照シ無罪現在スル製藥順血湯消毒藥王丸ハ賣藥規則第二十三條ニ依リ沒收シ引上ケタル萬病圓及ヒ蟲藥菓子包紙當座帳等ハ治罪法第三百八條ニ依リ所有主被告ニ還付スト言渡シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判官ノ認メシ如ク廢業シタル順血湯并消毒藥王丸ノ二方劑ヲ私ニ調製シ已ニ用井タル賣藥印紙ヲ之レニ貼用シテ名ヲ受賣

スル所ノ婦王湯及ヒ萬病圓等ニ託シ販賣シタルモノナルニ單ニ賣藥規則第二十三條ニ依リ之ヲ罰シテ印紙貼用ノ點ヲ刑法第九十九條ニ依リ罰セスシテ罪トナラスト判定セシハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ其一部ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ニ出テタルモノト認メ其一部分ヲ破毀シ刑法第九十九條ニ依リ被告ニ宮善右衛門ヲ三圓ノ罰金ニ處シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原判文ヲ按スルニ被告カ明治十九年一月以來無免許ニシテ昨明治十八年十二月廢業セシ順血湯及ヒ消毒藥王丸ト稱スル二個ノ藥方ヲ調製シ名ヲ受賣スル所ノ婦王湯萬病圓等ニ託シテ販賣シ又消毒藥王丸ニ印紙ヲ再貼用シテ販賣シタル事實ハ云云證憑明白ナリト記載シテ其印紙再貼用ノ所爲ヲ明認シナカラ之レニ刑法第九十九條ヲ適用セスシテ其後段ニ「法律上賣藥營業者ニ非ルヲ以テ罪トナラ

サル者ナリト説明シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯
 誤ノ裁判ナリトス何トナレハ其製藥販賣スルニ方テヤ名ヲ受賣藥種
 ノ名稱ニ藉リ以テ無免許製藥タルノ事實ヲ蔽ヒ而シ之レニ一旦用ヒ
 シ印紙ヲ貼用スルニ至リシハ畢竟賣藥印紙稅則第六條ノ責罰避シカ
 爲メノ策ヲ爰ニ採リ世ノ信用ヲ害セシモノナレハ其所爲ヤ無免許製
 藥ヨリ生セシ避クヘカラサルノ結果ニアラス瞭トシテ別個ノ犯罪タ
 ルト遲疑ナキナリ然レハ則チ公然タル賣藥營業者タルト否トニ論ナ
 ク其再貼用ノ點ハ刑法第九十九條ヲ適用シ明治十四年第七十二號
 布告第五條ニ則リ賣藥犯則ノ點ト共ニ各自ニ處罰スヘキハ當然ナル
 ニ前顯ノ如キ理由ニ託シ以テ之ヲ刑法ニ問擬セサルハ全ク法ノ誤解
 ニ因ルモノナレハナリ

○印紙再貼用ノ件明治十九年
第八百九十九號

裝置煙草定量ノ減シタルヲ五匁以下ニ崩シ直シ曩キニ用井タル

印紙ヲ其儘貼用シタルモノハ印紙再貼用ヲ以テ論斷スヘキヤ
 否

東京府芝區本芝四丁目拾六番地平民煙草小賣人伊藤留次郎ニ對
 スル被告事件

初審 橫濱輕罪裁判所

本件ノ事實被告伊藤留次郎ハ明治十八年五月十二日ヨリ同年同月廿
 五日マテ芝田村町十一番地四方九郎助ヨリ買受ケタル四匁八分ノ煙
 草二百個ヲ其量目ノ不足シタルヨリ之ヲ五匁以下ニ崩シ直シ曩キニ
 貼用シアリタル印紙ヲ再ヒ貼用シ之ヲ賣捌キ尙前年月中同區三田三
 丁目廿四番地栗生田久次郎ヨリ買受ケタル四匁九分ノ煙草二百個ノ
 量目不足シタルヨリ更ニ五匁以下ニ崩直曩ニ貼用シアリタル印紙ヲ
 再ヒ貼用シ之ヲ賣却シタルモノニテ明治十九年三月初審裁判所
 ハ被告カ印紙再貼用ノ所爲ハ刑法第九十九條ニ依リ罰金二圓ニ處

シ無印紙ノ所爲ハ煙草稅則第三十五條ニ依リ賣渡代金四圓五十一錢一厘追徴ノ上罰金拾圓ニ處シ再貼用ノ二厘印紙六十六枚ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ差押ヘタル煙草ハ被告ニ還付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ明治十六年第二十號布告第十一項ニ仲買人小賣人ニシテ裝置煙草ヲ五匁以下崩シ賣ニナス時ハ稅則第十五條ニ據リ結束スヘシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ付記スヘシトアリ稅則第十五條及ヒ第四項五項ハ製造人ヲ指シタルノ稅則ナリ是レ之ヲ觀レハ五匁以下崩シ賣ヲ取扱フヲ製造人ノ例ニ倣フ可キハ前項ノ稅則ニテ明ナリ製造人ニシテ五匁以下崩シ賣ヲ取扱フヲ製造人ノ例ニ倣フ可キハ前項ノ稅則ニシテ五匁以下崩シ賣貳厘帶印紙結束ヲ爲シタル煙草量目不同ナク裝置爲スモノナリ之レヲ以テ觀レハ何ソ製造人ノ例ニ倣ヒ量目不足タルニ據リ印紙ヲ取外シ不同ヲ改メ量目ヲ定メタリト雖

此印紙及煙草ヲ他ヨリ買入レタルモノニアラザレハ再貼用ノ件毫モナシ稅則第二十號ノ第十一項ニ裝置煙草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲スルハトアレハ五十匁百匁玉造印紙貼用ノ品ヲ崩シ賣ト爲シタルトハ該貼用ノ印紙ハ無効タル可キハ論ヲ竣タス殘印紙四十枚ハ無効ニ歸シタルトハ既ニ公庭ニ於テ辯シタル如クナル理由ナレハ再貼用ノ件尙無印紙煙草ヲ賣却爲シタリトノ言渡ハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ハ其理由アルモノトシ治罪法第四百二十九條ノ規則ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ被告カ所爲ハ孰レモ罪トナラサルモノト認メ治罪法第三百五十八條ニ依リ被告伊藤留次郎ニ對シ無罪但差押ヘタル二厘印紙六十六枚及煙草ハ治罪法第三百八條ニ依リ還付スト宣告シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク明治十六年太政官第二十號布達第十一項ニ於テ煙草小賣人ニ裝置煙草ヲ五匁以下ニ崩賣ニ爲スヲ許シタル所ナレハ本案

被告事件ノ如キハ五匁以下ノ煙草ヲ買受ケ量目ノ不足シタルヨリ之ヲ五匁以下ニ崩シ直シタルモノニシテ止タ其量目ノ不足シタルヲ改メタルニ過キサレハ曩キニ用ヒタル印紙ヲ其儘用ヒタリトテ印紙再貼用ト云フヲ得ス隨テ無印紙ノ罪モ成立セサルモノトス然ルニ原裁判所ハ右ノ事實ニ對シ刑法第百九十九條煙草稅則第三十五條刑法第四十三條ヲ適用シテ處罰シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○印紙再貼用ノ件明治十八年八月四十七號

却下サレタル訴狀ノ印紙ヲ剝取り新調ノ訴狀ニ貼附シ更ニ消印シテ呈出シタルモノハ刑法第百九十九條ニ問フヘキヤ否
茨城縣北相馬郡守谷町平民佐次右衛門二男嗣子農井飲食店下村武次郎ニ對スル被告事件

初審 土浦支廳

本件ノ事實被告下村武次郎ハ明治十八年二月十二日父佐次右衛門カ代人トナリ茨城縣北相馬郡長ニ係ル食料給與引去金理由取糺ノ詞訟ト題スル訴狀ニ訴訟用壹圓印紙三枚ヲ貼用シ正副二本ヲ土浦支廳ヘ呈供シタル處本訴ハ官署ニ對スル詞訟ナルヲ以テ同廳ノ慣例ニ依リ仍ホ一本ヲ呈供スヘク而シテ其既ニ呈供シタル訴狀ハ頗ル塗抹改竄シアリテ讀下シ難ク又訴狀ノ体裁ヲ失スルヲ以テ新ニ呈供スヘキ一本ハ認方ニ注意スヘキ旨ヲ諭サレ其訴狀正副二本ヲ下戻サレタルヲ翌十三日ニ至リ故ラニ其正本ノ初葉ヲ認メ換ヘ既ニ呈供シタル正本ニ貼用シタル印紙ヲ剝取りテ之ヲ其認メ換ヘタル正本ノ初葉ニ貼用シ更ニ消印ノ上呈供シタルモノニテ明治十八年三月五日初審廳ハ刑法第百九十九條第八十九條第九十條ニ依リ罰金三圓ニ處シ但印紙剝取シ痕跡アル紙面ハ被告ニ還付スル旨言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ刑法第百九十九條ニ所謂印紙再貼用ト名稱ス

可キモノハ單ニ印紙ノ消印ヲ押捺スルノミヲ云フニアラスシテ其印紙ヲ民事訴件ノ爲メ實際公用ヲ爲スニアリトス然ラハ則チ被告ノ所爲ヲ罰スヘキ正條ナキニ原裁判官ハ其事實ヲ確認シ現ニ之ヲ判文ニ載セナカラ之ヲ有罪視セラレタルハ該法意ヲ誤釋セシモノナリ又該訴狀ヘ貼用シタル三圓ノ印紙ヲ宣告ナシニ沒收シタルハ是亦擬律ノ錯誤ナルニ付該裁判ノ破毀ヲ希望スト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ上告前段論旨ノ如ク擬律ヲ誤リ治罪法第四百十條第十項ニ該當スル破毀ノ原由アルモノト認メ同法第四百二十八條全第四百二十九條ノ規則ニ法リ原裁判ヲ破毀シ更ニ刑法第二條ニ照シ被告下村武次郎ニ對シ無罪但紙面還付ノ點ハ原裁判ノ通タルヘント宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ刑法第九十九條ニ記載セル印紙再貼用ノ罪トハ已ニ其効用ヲ爲シ終リタル印紙ヲ再ヒ貼用シタル所爲ヲ云フモノナ

レハ縱ヘ被告於テ一旦提出シタル訴狀ノ印紙ヲ剥キ取り之ヲ其書キ直シタル訴狀ニ張り換ヘ使用シタリ逆決シテ此罪アリト謂フ可カラス何トナレハ前ノ訴狀ハ裁判所ニ於テ受理セサリシモノナレハ宛モ未タ曾テ提出セサルニ等シク隨テ之ニ貼付セシ印紙モ亦未タ其効用ヲ爲シ了ラサルヲ以テナリ左スレハ被告ノ所爲タル上告論旨前段ノ如ク法律ニ於テ罰スヘキ正條ナキモノニ付刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキハ當然ナルニ前掲ノ如ク刑法第九十九條ニ照シテ處斷シタルハ即チ擬律錯誤ノ裁判ナリトス然ルニ被告ハ上告論旨後段ニ於テ三圓ノ印紙ヲ宣告ナシニ沒收シタルハ不當ナリト愬フルモ原判文ニ沒收ノ言渡ナキ以上ハ法律上沒收シタルモノト看做シ難キニ付此訴旨ハ相立サルモノトス

○印紙再貼用ノ件明治十九年第五百七號

切斷シタル印紙ニ裏張りヲ爲シ之ヲ貼用シタルモノハ印紙再貼用

ヲ以テ論シ刑法第九十九條ヲ適用スヘキヤ又ハ無印紙ヲ以テ論斷スヘキヤ

東京府牛込區牛込横寺町第二番地平民煙草營業犬塚音五郎ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所

本件ノ事實被告犬塚音五郎ハ明治十八年五月中刻煙草百匁玉造壹個同煙草五十匁玉造四個トモ切斷セシ印紙ヲ裏打シタルモノヲ以テ結束シタルモノニテ明治十九年一月十五日和審裁判所ハ右切斷シタル廢印紙ヲ用井タルハ刑法第九十九條ニ該當スルモノトシ罰金貳圓ニ處シ無効ノ印紙ヲ用井タルハ畢竟無印紙ニ歸スルヲ以テ即チ無印紙ノ刻煙草ヲ所持シタルモノト判定シ煙草稅則第三十五條ニ依リ罰金拾圓ヲ併科ス但シ封印ノ上預置タル煙草ハ被告へ還付シ右印紙五枚ハ之ヲ官ニ沒收スト言渡シタルニ之ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタ

リ其要旨ハ皇國一般ニ通用スル紙幣スラ裁斷セシキハ裏張ヲ爲シ通用シ銀行ニテ引換ユル制則ナレハ煙草印紙裁斷スルモ無効タル理ナシ又印紙ハ一旦煙草需用者へ賣渡シタル上ハ無効タル可キハ勿論ナレモ未タ賣渡タサ、ル以前ハ假令裁斷シタルモ効用ヲ失ハサルコトハ煙草稅則中裁斷シタルキハ無効タル可シトノ明文ナキヲ以テ明ナリ云々ト論スルニアリ大審院立會檢事ハ切斷印紙ヲ貼用セル事實ヲ再貼用ヲ以テ論斷シタルハ擺律ノ錯誤ナルヲ以テ原裁判言渡中此一部ノ破毀更正ヲ求ムト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ附帶上告ハ其理由アルモノトシ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判言渡中切斷シタル印紙ヲ用井タル所爲ニ對シ刑法第九十九條ヲ適用シ罰金貳圓ニ處シ右印紙五枚ハ之ヲ官ニ沒收スト言渡シタル一部ヲ破毀シ更ニ取消シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告ハ上告旨趣中切斷シタル印紙ニ裏張ヲ爲シ用ヒタ

ルハ犯則ニアラスト論スル處アルモ既ニ切斷シタルモノハ印紙ノ効
 用ヲ失フコト勿論ナレハ其無効ノ印紙ヲ用ヒタル責ニ任スヘキコト當然
 ナルノミナラス其他ノ論旨ハ原裁判官ノ未タ認メサル事實ニ論及シ
 徒ラニ苦情ヲ鳴スニ過スシテ一モ正當ノ原由ナキヲ以テ被告ノ上告
 ハ總テ相立スト雖モ刑法第百九十九條ハ一旦用ヒタル印紙ヲ再ヒ利
 用シタル場合ヲ制裁スル法條ナリ然ルニ切斷セシ印紙ノ如キハ無効
 ニ屬スルハ勿論ナレトモ之ヲ用ユルモ再用ト云フヲ得サレハ刑法第百
 九十九條ノ支配スヘキモノニアラサルコト明カナリトス然ルニ原裁判
 所ニ於テ之ヲ再貼用ナリトシ同條ヲ適用シタルハ本院立會檢事附帶
 上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ出タルモノニシテ即チ治罪法第四百十
 條第十項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス

○印紙犯則ノ件明治三十八年
 第三千六百七十六號
 印紙再貼用ハ繼續犯ナレヤ等々即時犯ヲ以テ論スヘキヤ

又同上ノ場合ニ於テ印稅通脫ノ罪ヲ構成スルヤ否

宮城縣陸前國仙臺區北六番丁百二十四番地土族黑澤守節ニ對ス

ル被告事件

初審 仙臺輕罪裁判所

終審 宮城控訴裁判所

本件ノ事實被告黑澤守節ハ明治十四年十二月二十七日長倉元敬ヨリ
 金二百五十圓借用スル證書ヘ既ニ消印シアル拾錢印紙二枚五錢印紙
 一枚再貼用シタルモノニテ明治十八年十月三十日初審裁判所ハ被告
 カ證券印紙再貼用ノ罪ハ新舊法比照シ輕キニ從テ處分スヘキモ該犯
 罪ハ新法實施後既ニ三年ヲ經過シ期滿免除ヲ得タルモノトシ治罪法
 第九條第三百五十八條第二百二十四條第三ニ照シ被告ヲ免訴スト言
 渡シタル裁判ニ對シ檢察官ハ該犯ハ繼續犯ニシテ期滿免除ヲ得タル
 モノニアラスト論シ控訴ヲ爲シタリ終審裁判所ハ審理ノ末被告カ所

爲ハ明治十四年十二月廿七日ヨリ明治十八年十月二十四日迄犯罪ノ日ニシテ到底期滿免除ヲ得ヘキ限リニアラスト判定シ刑法第九十九條ヲ適用シ罰金四圓ニ處シタルニ之ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ繼續犯ナルモノハ數日ニシテ一罪ヲ遂クル所爲ヲ云フモノニシテ其繼續スル限リハ其罪止ムコトナキモノナリ證券印紙再貼用ノ如キハ其印紙ヲ再貼用シ其證券ヲ使用スレハ直チニ其事終ルモノニシテ數日ニ引續クヘキモノニアラス本件ハ治罪法第九條及第十一條第二項ニ依リ既ニ期滿免除ヲ得ヘキモノナルニ原裁判所カ繼續犯トシ罰金ヲ科シタルハ理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニアリ大審院立會檢事ハ上告ノ旨趣相當ニシテ原裁判ハ攪律ノ錯誤アル旨ヲ陳述シ且原裁判官カ單ニ再貼用ノ所爲ノミヲ審理シ脱税ノ點ヲ不問ニ付シタルハ攪律錯誤ナリト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ原裁判所カ

認メタル事實ハ證券印紙再貼用ノ罪及ヒ證券印稅逋脫ノ罪アリト雖モ其發覺セシハ明治十八年十月ニ在リテ治罪法實施以後滿三年ヲ經過セシヲ以テ治罪法第九條第十一條第二項及ヒ第三百五十八條第二項ニ依リ被告黑澤守節ニ對シ免訴スト宣告シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク證券印紙再貼用ハ其印紙ヲ再貼シ其證券帳簿ヲ行使スルヲ以テ其所爲ヲ遂ケタルモノトス故ニ其罪ハ繼續犯罪ヲ以テ論ス可カラス本件被告ノ所爲ハ明治十四年十二月ニ係リ其發覺セシハ明治十八年十月ニ在リシコトハ訴訟書類ニ徴シテ明瞭ナリ故ニ其所爲ハ治罪法實施以後滿三年以上ヲ經過セシヲ以テ同法第九條第十一條第二項ニ依リ公訴ノ期滿免除ヲ得タルモノナリ然ルニ原裁判所カ繼續犯罪ナリトシ刑法第九十九條ニ照シ罰金ニ科シタルハ攪律ノ錯誤ナリ又證券印紙ヲ再用セシハ其貼用ノ効ナク之ヲ貼用セザリシト同一ナレハ被告ノ所爲ヲ斷センニハ印紙再貼用ノ罪ノ外其脱税ニ付相

當ノ處分ヲ爲サ、ルヘカラス原裁判茲ニ出テサリシハ是亦擬律ノ錯
誤ナリト雖モ其罪モ亦再貼用ノ罪ト同シク其證券ヲ使用スルヲ以テ
其所爲ヲ遂ケタルモノニシテ即時犯罪ヲ以テ論スヘキモノナレハ治
罪法第九條第十一條第二項ニ依リ公訴ノ期滿免除ヲ得タルモノトス
官文書偽造ニ關ス

○官文書偽造ノ件明治十三年八月三十一號

自カラ手ヲ下サス詐術ヲ用非他ヲシテ公證文書ヲ偽造セシメタ
ルモノハ刑法第二百四條ヲ以テ罰スヘキヤ否

鳥取縣因幡國邑美郡西町士族無職業大畠喜代馬ニ對スル被告事
件

初審 鳥取重罪裁判所

本件ノ事實被告大畠喜代馬ハ明治十三年十二月中鳥取支廳ニ於テ身
代限りノ處分ヲ受ケ其節自己所有ノ高牟郡松上村字藪ノ下山林反別

三反六畝步字大谷山林反別二反三畝十步公賣トナリ同村中山儀三郎
ニ於テ買取リタルモ其地券名義書換遷延シ依然被告カ名義ナルヲ幸
ヒニ明治十七年五月廿一日該山林ニケ所ヲ抵當トナシタル金十五圓
ノ借用證書ヲ持ヘ同郡上原村外數ヶ村戸長伊奈正之ヲ欺キ其證書ニ
奥書公證ヲ爲サシメ而シテ之ヲ同郡野坂村長尾禮造ヘ交付シ同人ヨ
リ該金額ヲ騙取シ尙ホ其發覺ノ前同年六月十六日中山儀三郎今井秀
次郎カ被告所有ノ山林ヲ冒認シテ他ニ販賣シタリト不實ノ事ヲ構造
シ鳥取輕罪裁判所ニ告訴シ以テ其兩名ヲ輕罪ノ刑ニ陷害セントナシ
タル誣告罪ニ因リ明治十八年二月廿四日重禁錮二年六月罰金貳拾圓
ノ處刑ヲ受ケタルモノニテ明治十八年五月七日初審裁判所ハ被告カ
戸長ノ公證ヲ偽造行使シタルハ刑法第二百四條ニ該リ金圓ヲ騙取シ
タルハ同第三百九十四條第三百九十四條ニ該リ不實ノ告訴ヲ爲シタル
ハ同第三百五十五條第二百二十條第二項ニ該ルモノト判定シ同第百

條ニ依リ一ノ重キ第二百四條ヲ適用シ尙ホ第百二條ニ照シ前發ノ刑
 ヲ通算シ輕懲役六年ニ處スト言渡シタルニ被告ハ之ヲ不當トシ上告
 ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ明治十三年十二月中松江裁判所鳥取支廳
 ニ於テ身代限ノ處分ヲ請ケタルト毫モ之レ無ク故ニ被告カ所持スル
 山林貳筆ヲ長尾禮造ニ書入質ニ爲ス際戸長ノ公證ヲ請ケタルモノナ
 レハ官ノ文書ヲ偽造シタルモノニ非ス然ルニ輕懲役六年ニ處セラレ
 タルハ越權ノ處分ナリト云ヒ被告代官人ハ刑法第二百四條ハ官吏ノ
 公證シタル文書ヲ自ラ偽造行使シタル者ヲ罰スル法文ナリ然ルニ被
 告カ所爲ハ戸長ノ公證シタル文書ヲ自ラ偽造シタルニ非ラス戸長カ
 公證シタルモノナルニ付同第二百四條ノ制裁ヲ受ク可キモノニ非ラ
 サルニ該條ヲ適用シ處分セラレシハ擬律ノ錯誤ナリト上告論旨ヲ擴
 張シタリ刑事局ニ於テハ上告及ヒ代官人カ擴張論旨ハ其理由ナキモ
 ノト認メ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク諸般ノ徵憑ヲ取捨シ事實ノ有無ヲ判定スルハ法律ニ於
 テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定ト
 證憑ノ採擇上ニ對シテハ他ヨリ漫ニ其當否ヲ論難スルコトヲ得サル者
 ナリ然ルニ被告カ上告ノ理由トスル所ハ裁判官カ職權上正當ノ手續
 ヲ履行シ有罪ナリト認メタル事實ノ當否ヲ論難シテ不服ヲ訴フルニ
 過キサレハ之ヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得ス又被告代官人カ擴張論
 旨ハ前ニ掲クル如ク擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レヒ抑モ戸長ヲ
 欺クニ足ル可キ手段ヲ用ヒ公證文書ヲ偽造セシメシ所爲ハ假令自己
 ノ手ヲ以テ爲シタルニ非サルモ其手ヲ下シタル者即戸長ハ其方略ニ
 陷レラレタルニ過キサルヲ以テ其手ヲ借リタル者即被告ハ其方略ヲ
 施シテ偽造シタル者ト云ハサルヲ得ス而シテ證書偽造ハ其行使スル
 ヲ以テ罪ノ成立ツモノニシテ已ニ戸長ヲ欺キ公證文書ヲ偽造セシメ
 以親ク行使シタル者ナレハ刑法第二百四條ノ制裁ヲ免カル、コトヲ得

サルニ付原裁判所ニ於テ被告ノ所爲ニ對シ該條ヲ適用シ處分シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ニ非ラサルナリ因テ被告カ上告及ヒ代官人カ擴張論旨共相立タサル者トス

○官文書偽造ノ件明治十八年三月十一日

詐欺取財ノ爲メ官文書ヲ偽造シタルモノハ詐欺取財ノ點ノミヲ罰スヘキヤ將タ官文書偽造ノ罪ヲモ構成スルヤ

山形縣羽前國西村山郡左瀧村平民煙草小賣營業同郡西根村出生
鈴木彌五郎ニ對スル被告事件

初審 山形重罪裁判所

本件ノ事實被告鈴木彌五郎ハ裁判所ノ差紙ヲ偽造シ賃錢ヲ騙取シ互ニ利ヲ分タント發言シ高宮宇吉郎ト共謀シ明治十八年三月廿二日ヨリ同月廿六日迄ノ間被告カ宅裏ニ階ニ於テ共ニ山形輕罪裁判所ノ印願及ヒ召喚狀并ニ廳名ヲ題セル召喚狀封皮ノ版木ヲ摸造シ山形輕

罪裁判所檢事ヨリ西村山郡常盤郡平民長岡久七外八名ニ宛テタル召喚狀九通ヲ偽造シ明治十八年四月三日宇吉郎使丁ト詐稱シ常盤村ニ至リ久七外一名ヘ該偽造ノ召喚狀ヲ渡シ賃金ヲ得ントシテ未タ遂ケ得スシテ逮捕セラレ右偽造ニ係ル偽印版木等ハ被告カ之レヲ燒棄シタルモノニテ明治十八年十一月九日初審裁判所ハ刑法第四百四條ニ依リ官印偽造ノ所爲ハ刑法第九十五條ニ該リ召喚狀ヲ偽造シタルハ金圓ヲ騙取セントスル器具ニ過キサルヲ以テ官文書ヲ以テ論スル限リニ非サルニ付其罪ヲ問ハス金圓ヲ騙取セントシテ未タ遂ケサル所爲ハ同法第三百九十條第三百九十七條第百十二條ニ照シ一等ヲ減シ尙第三百九十四條ニ該リ二罪俱發スルヲ以テ同第百條ニ照シ官印偽造ノ罪ニ從ヒ重懲役ニ處スヘキ處所犯憫諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ減シ同第六十七條第六十九條ニ照シ仍ホ第二百一條ニ依リ被告宇吉郎ヲ二年ノ重禁錮ニ處シ九ヶ月ノ

監視ニ付シ被告彌五郎ハ重禁錮三年ニ處シ監視一年三ヶ月ニ付スト
 言渡シタルニ被告彌五郎ハ之レヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ
 第一被告カ偽造シタル印類ハ其文字寸法トモ眞印ト差異アル者ナル
 ニ官印偽造ヲ以テ處斷シタルハ事實理由ノ齟齬ナリ第二被告ト高宮
 宇吉郎ニ對シ同法條ヲ適用セラレタル上ハ刑期モ各均シカルヘキニ
 宇吉郎ヲ重禁錮二年被告ヲ三年ニ區別シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ
 ト云ヒ檢察官ハ被告カ上告ハ其理由ナキ旨ヲ答辯シ更ニ附帶上告ヲ
 爲シタリ其要ハ被告彌五郎カ偽造セシ呼出狀ノ如キハ固ヨリ文書偽
 造罪ニ必要ナル三元素ヲ具備スルモノナレハ官文書偽造ヲ以テ處斷
 セサルヘカラス然ルニ原判文ニ依レハ召喚狀ヲ偽造シタルハ云云官
 文書ヲ以テ論スルノ限リニ非サルニ付其罪ヲ問ハストアリテ其官文
 書ヲ以テ論セサルノ理由明ラカナラサレモ該文詞ヲ解釋スレハ被告
 ノ偽造セシ呼出狀ハ官文書ニハ相違ナキモ詐欺取財ヲ爲サンカ爲メ

ニ偽造セシモノナレハ其罪ナシトノ趣意ナルカ如シ果シテ右ノ趣意
 ニ出テ其罪ヲ問ハサルモノトセンカ不當モ亦甚シ如何トナレハ其重
 キ罪ハ輕キ罪ヲ犯サンカ爲メナリトテ其別ニ構造セシ重キ罪ヲ不問
 ニ付スルノ理由アラサレハナリ是レ乃チ治罪法第四百十條第九條第
 十ニ適當スル不當ノ裁判ナリト云ヒ代言人ハ上告論旨ヲ擴張シ且原
 判文ニ被告カ官印及ヒ官文書ヲ偽造シタルハ詐欺取財ヲ爲サンカ爲
 メナリト認メタル上ハ詐欺取財ノ一罪ニ止リ官印偽造ノ罪アルニ非
 ス然ルニ右ノ事實ヲ認メナカラ官印偽造罪ヲモ罰シタルハ不法ナリ
 ト陳述シタリ刑事局ニ於テハ附帶上告論旨中官文書ヲ偽造シタル事
 實ヲ認メナカラ之ヲ詐僞取財ノ手段ナリトシテ不問ニ付シタルハ擬
 律錯誤ナリト云フ點ヲ是認シ其他ノ上告及附帶上告論旨ハ理由ナキ
 モノト認メ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ被告ハ
 二人以上現ニ罪ヲ犯シタルヲ以テ刑法第四百四條ニ則リ其官印偽造ノ

所爲ハ同第百九十五條ニ該リ官文書偽造ノ所爲ハ同第百三條ニ該
 リ詐欺取財未遂ノ所爲ハ同第三百九十條第三百九十七條第百十二條
 ニ照シ一等ヲ減シ仍ホ第三百九十四條ニ該ル依テ第二百六條第三百
 九十條未項ニ依リ一ノ重キ同第百九十五條ニ從ヒ重懲役ニ處スヘキ
 處所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ三罪共同第八十九條第九十條ニ依
 リ二等ヲ減シ同第六十七條第六十九條ノ例ニ照シ一ノ重キ重懲役ニ
 二等ヲ減シタル刑ニ從ヒ被告鈴木彌五郎ヲ重禁錮三年ニ處シ仍ホ同
 第二百一條ニ依リ監視一年三月ニ付シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク本案上告第一點ハ被告カ偽造セシ山形輕罪裁判所ノ印
 願ハ文字寸法等異ナルヲ以テ官印偽造ヲ以テ處分セラルヘキ理由ナ
 シト云フニ在リト雖モ苟モ官廳ノ名ヲ題セル印願ヲ偽造シタル上ハ
 假令其文字寸法等ニ差異アルモ官印偽造ニ非スト云フヲ得サルハ勿
 論ナリ又第二點ニ於テハ被告ト高宮宇吉郎ト同一ノ法條ヲ適用セラ

レタル上ハ其刑期モ各均シカルヘキニ彼此長短ヲ區別シタルハ不法
 ナリト云フモ凡ソ法律ノ範圍内ニ於テ刑ノ長短ヲ定ムルハ裁判官ノ
 職權ナレハ是亦上告ノ理由ナキモノトス然レモ原判文ニ被告カ山形
 輕罪裁判所ノ召喚狀即チ官文書ヲ偽造シタル事實ヲ認メナカラ之ヲ
 詐欺取財ノ手段ナリトシテ不問ニ付シタルハ附帶上告論旨ノ如ク擬
 律錯誤ノ裁判ナリトス文書偽造罪ト詐欺取財トハ固ヨリ別種ノ罪ナ
 ルノミナラス假リニ詐欺取財ノ手段ニ出テタリトスルモ刑法第三百
 九十條未項ニ因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造
 ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストノ明文アレハナリ其他代言人ニ
 於テ被告ノ所爲ハ詐欺取財ノ一罪ナリトノ擴張論旨アリト雖モ既ニ
 上文ノ理由ナルヲ以テ是亦採用シ難キモノトス

○官文書偽造ノ件明治三十五年八月十六號
 官文若クハ私書ヲ偽造シ取財ヲ試ミ其目的ヲ遂ケス且害ヲ生セ

サルモノハ斷シテ無罪ト爲スヘキヤ將タ詐欺取財未遂ヲ以テ論
スヘキヤ

山形縣羽前東村山郡成生村平民農業黒田孝六ニ對スル被告事件

初審 山形重罪裁判所

本件ノ事實被告黒田孝六ハ明治十二年九月十三日畑宅地ヲ書入トシ
テ渡邊源五郎ニ貸渡シタル金五拾五圓ノ返濟ヲ促シタルトモ延期ノ
願談ノミニシテ返金セサルヨリ速ニ返金セシメン爲メ該證書ニ書入
トシタル地所ヲ高掬村佐藤庄右衛門ニ書入トシテ庄右衛門ヨリ金百
貳拾圓ヲ借受ケ相渡ス可キニ付被告ヨリノ貸金ハ返濟ス可旨申聞ケ
源五郎ヲシテ明治十四年二月二十六日附ナル佐藤庄右衛門ヘ宛テタ
ル金百貳拾圓ノ借用證書ヲ調製セシメ當時被告ハ戸長奉職中ナルヲ
以テ自ラ該證書ニ奥書割印ヲ爲シ庄右衛門ヘハ一應ノ相談モナク該
證書ヲ其儘ニ留置キ貸金五拾五圓ハ明治十五年二月十三日ニ返濟ヲ

受ケ源五郎ニ對シテハ金員調達セス源五郎ヨリ庄右衛門ヘ宛テタル
證書返戻ノ掛合ヲ受クルト雖モ紛失セシ旨ニ申僞リ庄右衛門ニ對シ
テハ被告ヨリ差換返金シタルトナシ明治十七年三月三十一日庄右
衛門宛ノ證書ヲ證據トシテ源五郎ニ係リ山形治安裁判所ニ向テ差換
殘金六拾七圓拾貳錢催促ノ出訴ニ及ヒタルモ敗訴トナリ其目的ヲ遂
ケヌ又被告ハ明治十七年五月十日官文書僞造ノ罪ニ依リ懲役二年半
ニ處セラレ止告ノ末明治十八年二月九日該裁判確定シタルモノニテ
明治十八年十一月十六日初審裁判所ハ被告カ源五郎ヨリ佐藤庄右衛
門名宛ノ證書ヲ受取り之ニ奥書割印ヲナシ自己ノ手ニ留置キタルハ
其抄跡證書騙取公證僞造官印盗用ニ似タリト雖モ被告ハ約ニ違テ庄
右衛門ヨリ該金ヲ借受ケ相渡サハルノミ該證書ヲ被告ノ手ニ留置キ
タルトナ何等ノ害ヲ生スヘキ理由ナケレハ人ヲ欺罔シテ證書ヲ騙取
シタル類ト同シカラス公證ノ僞造ナルヤ否ニ至テ大凡僞造ヲ構造ス

ルハ眞實ヲ變換スルコト害ヲ醸スノ意思ト害ノ生スヘキコトノ三原素アルヲ必要トス而シテ庄右衛門名宛ノ證書ヲ差出シタルハ源五郎ノ承諾上差出シタル儀ニシテ被告カ之ニ奥書割印シタルハ戸長ノ職務ヲ以テ之ヲ爲シ源五郎モ其奥書割印スヘキコトヲ認知シタル者ナレハ眞實ヲ變換シタリト見做スヘキ事實アルコトナキヲ以テ右三箇ノ所爲ハ新法實施以前ノ犯罪トナシ刑法第百條及明治十四年第八十一號公布ニ照シ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スヘキ限リニアラス且ツ公證偽造ハ行使ヲ待テ始メテ罪ノ成立ツヘキ犯罪ナル處被告ハ庄右衛門名宛ノ證書ヲ證據トシテ源五郎ニ係リ差換殘金催促ヲ出訴シタリト雖モ源五郎ハ庄右衛門ヨリ該金ヲ借受ケタルニ非ラサレハ容易ニ看破シ得ヘク被告ノ出訴ハ害トナルヘキ謂レナキニ付刑法第二百五條ニ依リ罪ヲ論スル所爲ニアラスト判定シ被告ニ對シ治罪法第四百條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ

爲シタリ其要旨ハ孝六ハ源五郎ニ貸與セサル金員ヲ貸與シタリト詐リ民事ノ詞訟ニ及ヒタルコトハ原判官ノ既ニ認メタル所ニシテ即チ詐欺取財未遂ヲ以テ論スヘキ事實アルニ其理由ヲ掲ケス被告カ所爲ヲ悉ク無罪トシタルハ治罪法第四百十條第九第十ニ該ル不法ノ裁判ナリト論シタリ刑事局ニ於テハ上告ノ後段ハ適當ノモノト認メ直チニ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判錯誤ノ點ヲ破毀シ被告カ所爲ハ刑法第三百九十條ニ該ル未遂犯ナルヲ以テ同第三百九十七條同第一百二十條ヲ適用シ同第七十條同第七十四條ニ照シ仍ホ同第三百九十四條ニ依ルヘキモノナルモ被告ハ官文書偽造ノ罪前ニ發シ已ニ懲役二年半ノ判決ヲ受ケ本件ハ餘罪ニ係リ輕キヲ以テ刑法第百二條ニ依リ其罪ヲ論セスト宣告シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク抑モ文書ヲ偽造シテ行使スルノ罪ヲ構造スルニハ眞實ヲ變換スルコト他人ニ害ヲ加フルノ意思及害ヲ生スルヲ得ヘキコトアル

ヲ要スルナリ故ニ之ヲ偽造シテ行使スルモ人ニ害ヲ加フルノ意思ナク若クハ害ヲ生スルヲ得ヘカラサルモハ此罪ヲ以テ處分スルノ限リニ非ラサルナリ因テ今原判文ヲ閱スルニ被告カ所爲ハ證書騙取公證偽造官印盜用ニ似タリト雖云々公證ノ偽造ナルヤ否ニ至テハ庄右衛門名宛ノ證書ヲ差出シタルハ源五郎ノ承諾上差出シタル儀ニシテ被告カ之ニ與書與印シタルハ戶長ノ職務ヲ以テ之ヲ爲シ源五郎モ其與書割印スヘキヲ認知シタル者ナレハ眞實ヲ變換シタルト見做スヘキ事實アルヲナシト即チ官文書偽造ハ素ヨリ官印盜用ノ罪ヲ構造セサルヲ認メタル上ハ他ヨリ漫リニ其當否ヲ論難スルヲ得サルモノトス然ルニ上告ノ理由トスル所ハ要スルニ其事實ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス將又原判文ニ公證偽造ハ行使ヲ待テ始テ罪ノ成立ツヘキ犯罪ナル處云云トアルハ被告ノ出訴ハ害トナルヘキ用方ニ非ラサルヲ掲ケタル者ナレハ前後理由ノ齟齬ト云

ヲ得ス因テ被告カ所爲ハ公證文書偽造官印盜用及ヒ原判文ハ前後理由ノ齟齬スルトノ上告論旨ハ相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ニ依リ棄却ス然レモ原判文ニ被告ハ源五郎ヲシテ佐藤庄右衛門ヘ宛タル金百二十圓ノ借用證書ヲ調製セシメ云云庄右衛門ヘハ一應ノ相談モナク該證書ヲ其儘ニ留置貸金五十五圓ハ明治十五年二月十三日ニ返済ヲ受ケ源五郎ニ對シテハ金員調達セヌ源五郎ヨリ庄右衛門ヘ宛テタル證書返戻ノ掛合ヲ受クルト雖モ紛失セシ旨ニ申僞リ庄右衛門ニ對シテハ被告ヨリ差換返金シタルヲナシ明治十七年三月三十一日庄右衛門宛ノ證書ヲ證據トシテ源五郎ニ係リ山形治安裁判所ニ向テ差換殘金六十七圓十二錢催促ノ出訴ニ及ヒタルモ敗訴トナリ其目的ヲ遂ケサリシ者ナリト則チ被告カ源五郎ニ貸與セサル金圓ヲ貸與シタリト民事ノ詞訟ニ及ヒ該金ヲ詐取セントシテ遂ケサリシ事實ヲ認メナカラ之ヲ不問ニ措キタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判

○公證偽造ノ件 明治十八年 第三百一號

一地方ニ於テ從前ノ公證ハ未來ノ或ル期限ヲ經過スル時ハ其効
ナシトノ告示アリ其期限經過後先キニ公證アルコトヲ隱クシ戸長
ヲ欺キ公證セシメ賣却又ハ抵當トシテ金員ヲ詐取シタルモノハ
法律上ノ罪ヲ構成スルヤ否

宮城縣陸前國志田郡大幡村二十三番地平民農渡邊熊太郎同縣同
國粟原大里村四十三番地平民無職業宍田賢造同縣同國志田郡大
幡村二十番地平民農佐々木吉右衛門同縣同國同郡同村三番地平
民農堀川久三郎ニ對スル被告事件

初審 仙臺重罪裁判所

本件ノ事實ハ初審裁判所ニ於テ被告渡邊熊太郎ハ佐々木吉右衛門堀
川久三郎亡堀川常之進ト共ニ明治十三年十一月廿二日自己ノ所有地

ニ反五畝廿九步ヲ鈴木利兵衛ニ抵當ト爲シタルヲ明シ宍田賢造ニ賣
渡シタルモノニシテ先キニ抵當トシタルヲ欺隱シタルニアラス又被
告カ該證書ニ公證ヲ受ケタルハ宍田賢造承諾ノ上成立タルモノニシ
テ眞實ヲ變換シ他ヲ害スルノ意思ニ出テ公證ヲ偽造シタルモノト同
視スルヲ得ヌ到底被告カ所爲ハ犯罪ヲ組成セサルモノト判定シ無罪
且ツ放免ノ言渡ヲ爲シ 因ニ記ス宮城縣明治十五年告第百三十五號志田
季村口村沼村八ヶ村聯合前戸長佐々木清之助家出行衛不相知ニ
付該役場ニ備ヘ置ク地所建物質入書入割印辨明治七年ヨリ本年五月
迄ノ分欠號簿雜等有之ニ付右役場ノ公證ニ關係アルモノ有之候ハ
來ル八月十五日迄該役場へ可申出右期限中不申出ニ於テハ一切關係
致シ候係此旨告示候事又被告宍田賢造ハ明治十三年十一月廿二日佐
々木吉左衛門堀川久三郎渡邊熊太郎亡堀川常之進カ各所有ノ地所六
丁餘ヲ抵當トシ鈴木利兵衛ヨリ米穀ヲ借受クルニ當リ被告ハ戸長代
理ノ資格ヲ以テ證書ニ公證ヲ與ヘ其後戸長役場筆生ヲ辭職シ明治十
五年六月頃再ヒ奉職セシ際佐々木吉左衛門堀川久三郎堀川常之進ニ

於テ先ニ鈴木利兵衛ニ抵當トシ爲シアルヲ欺隱シ澁谷龜治等ヘ重テ
 抵當又賣却スル際公證ヲ與ヘタルハ畢竟被告カ數十月間辭職中戸長
 役場ノ帳簿錯雜シタルノミナラス更正ノ帳簿ニ先ニ抵當トナシタル
 登記ナキヨリ輒ク公證ヲ與ヘタルモノト認視スヘク又渡邊熊太郎ノ
 地所ヲ買受クル證書ニ自ラ公證ヲ與ヘタルハ熊太郎ニ於テ先ニ鈴木
 利兵衛ニ抵當トシアルヲ承諾ノ上公證ヲ與ヘタルニ止テ所謂眞實ヲ
 變換シ他ヲ害スルノ所爲ニアラサルヲ以テ其罪ヲ組成セサルモノト
 判定シ無罪且放免ノ言渡ヲ爲シ被告佐々木吉左衛門ハ堀川久三郎渡
 邊熊太郎及ヒ堀川常之進ト共ニ明治十三年十一月廿二日明治十四年
 一月廿八日明治十五年二月中都合三ヶ度ニ各所有ノ地所反別六丁餘
 ヲ抵當トシ戸長役場ノ公證ヲ受ケ鈴木利兵衛ヨリ米穀ヲ借り受ケナ
 カラ明治十五年十一月十六日被告ハ先キニ抵當ト爲シアルヲ欺隱シ
 戸長ヲ欺キ公證セシメ澁谷龜治外數名ヘ重テ抵當トシテ金圓ヲ詐取

シタルモノニテ被告已ニ抵當ト爲シタル地所ヲ欺隱シ重テ差入レ金
 圓ヲ詐取シタル所爲ハ刑法第三百九十三條第二項第三百九十條第三
 百九十四條ニ該ル公證ヲ偽造シ行使シタル所爲ハ刑法第二百四條第
 一項ニ該ル數罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ同法第
 二百四條第一項ニ依リ懲役七年ニ處シ又被告堀川久三郎ハ養父伊與之
 助不在中養父ノ名義ヲ以テ佐々木吉左衛門渡邊熊太郎亡堀川常之進
 ト共ニ明治十三年十一月二十二日明治十四年一月廿八日明治十五年
 二月二十日都合三ヶ度ニ各所有ノ地所反別六丁餘ヲ抵當トシ戸長役
 場ノ公證ヲ受ケ鈴木利兵衛ヨリ米穀ヲ借受ケナカラ明治十五年十一
 月十六日被告ハ先キニ抵當トシアルヲ欺隱シ戸長ヲ欺隱公證セシメ
 柳原謙助等ヘ重テ賣却又ハ抵當トシテ金圓ヲ詐取シタルモノニテ被
 告堀川久三郎カ柳原謙助等ヨリ金圓ヲ詐取シタル所爲ハ刑法第三百
 九十三條第二項第三百九十條第三百九十四條ニ該ル公證ヲ偽造シ行

使シタル所爲ハ刑法第二百四條第一項ニ該ル數罪俱發ニ係ルヲ以テ
 刑法第百條ニ照シ一ノ重キ同法第二百四條ニ依リ輕懲役ニ處スヘキ
 處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ照依シ本刑
 ニ一等ヲ減シ刑法第六十九條第一項ニ依リ重禁錮同法第二百七條ニ
 從ヒ監視十月ニ付スト言渡シタルニ檢察官ハ渡邊熊太郎宍田賢造ニ
 對スル裁判言渡ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其第一ノ要旨ハ被告熊太
 郎カ鈴木利兵衛ニ抵當トナシタルヲ明シ重子テ宍田賢造ニ賣渡シタ
 ル證書ニ菊地隆三郎ヲ保證人トシ戶長代理筆生宍田賢造ノ公證ヲ經
 テ賣買ヲ結了シタルハ究竟宮城縣令ノ告示期限内利兵衛カ何等申出
 ナキヲ奇貨トシ買主賢造ノ發意ニ從ヒ共謀シテ故ヲニ二重ノ公證文
 書ヲ作爲シタルモノナレハ始ヨリ利兵衛ヲ害スルノ意思アリ其害ノ
 生スヘキヲハ被告人ノ自白利兵衛ノ告訴書等ニ依テ明瞭ナリ原裁判
 所ハ其成立ヲ認メナカラ利兵衛ノ被害ハ被告人ノ關セサルモノ、如

ク其末段ニ於テ他ヲ害スルノ意思ニ出テ公證ヲ僞造シタルモノト同
 視スルヲ得ヌ到底被告ノ所爲ハ犯罪ヲ組成セサルモノトシ無罪放免
 ノ言渡ヲ爲シタルハ攪律ニ錯誤アル不法ナリト云ヒ又被告宍田賢造
 ニ對スル裁判ニ就テハ被告カ渡邊熊太郎ノ所有地ヲ鈴木利兵衛ヘ抵
 當トシアルヲ知リナカラ偶々宮城縣令ノ告示アルヲ奇貨トシ該地ヲ
 己レニ賣渡ヤシメ以テ貸金ノ辨濟ニ充テン爲メ故ヲニ二重ニ公證ヲ
 與ヘタル所爲ハ公訴狀ニ掲ケタル公證僞造及ヒ官印盜用ノ各本條ニ
 照シ其刑ニ處スヘキモノナリ云云ト論シ又被告堀川久三郎ハ同人ニ
 對スル裁判ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一原裁判所ハ澁谷
 龜治ノ外數名トノミアリテ何人ナルカヲ記載セス曖昧タル文字ヲ以
 テ被告ヲ罪アリトセシモノナリ判文ニハ其罪アル事實理由ヲ記載セ
 サルヘカラサルニ之ヲ記載セサルハ治罪法第四百十條第九項ニ定メ
 タル破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリ第二原裁判所ハ澁谷龜治ヘ抵當

トナシタルハ二重ニ出テタルモノナリ其公證ハ偽造ナリトセシモ決
 シテ然ラヌ明治十五年七月五日宮城縣廳ハ被告住村戸長ノ公證簿欠
 號錯雜アルヲ以テ公證ニ關係アル者ハ同年八月十日マテニ申出ヘク
 期限内申出ナキニ於テ一切關係ナキモノトシ公證セシムル旨ヲ布達
 セリ故ニ先キニ抵當ニ取リシ鈴木利兵衛ニ於テ其抵當權ヲ維持セン
 ト欲セハ必ラス右期限内ニ届出テサルヘカラス然ルニ利兵衛ハ期限
 後數月ニ至ルモ届出テサルハ抵當權ヲ拋棄シタルモノト云ハサルヘ
 カラス果シテ然ラハ之ヲ他ヘ抵當トスルモ二重抵當ノ罪ヲ構成スヘ
 カラス從テ其證書ノ公證モ亦宮城縣ノ命令ニ從テ爲シタルモノナレ
 ハ効力ヲ有スルヲ勿論焉ソ偽造ニ出テタルモノト爲スヲ得ンヤ然ル
 ニ原裁判所ハ其布達ヲ知リナカラ偽造公證云云ノ裁判ヲ與ヘシハ治
 罪法第四百十條第十項ニ記載シタル破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリ
 ト思考スト云フニアリ檢察官ハ被告ハ第一第二ニ區別シ罪ヲ構成セ

スト申立レレ鈴木利兵衛ハ告示期限内ニ届出テサリシトテ故ラニ二
 重ノ公證ヲ以テ抵當ト爲シ金員ヲ詐取シタルハ無論公證文書偽造詐
 欺取財ノ罪ヲ構成シタルモノナレハ原裁判所カ刑法第二百四條第三百
 九十條ヲ適用シタルハ素ヨリ相當ナリト雖モ本案ノ事實タル其澁谷
 龜治ニ對スルト永倉元敬ニ對スルトハ同種別罪ナルヲ以テ各氏名ハ
 勿論ニ罪ニ對スル理由ヲ明示シ而シテ刑法ノ各本條ニ照ラシ數罪俱
 發例ニ依ラサルヘカラス云云ト論シ附帶上告ヲ爲シ被告堀川久三郎
 カ同人ニ對スル裁判ヲ不當トシ上告ヲ爲シタル其要旨ハ第一被告久
 郎カ養父ノ名義ヲ以テ鈴木利兵衛ヘ抵當トナセシト認メラレシ地所ハ
 證書ニ明示スル如ク堀川伊與之助ノ所有地ニシテ被告ノ所有ニアラ
 ス故ニ其所爲ハ他人ノ不動産ヲ抵當トシ又他人ノ名ヲ冒シ利兵衛ヲ
 欺キ米穀ヲ借出シタルモノト云フヘシ果シテ然ラハ此貸借ハ正當ニ
 出テタルニアラサルヘク其抵當ハ無効ナル論ヲ俟タヌ原裁判所カ之

ヲ正當トシタルノミナラス抵當ノ効アルモノトナセシモノ、如シ如何ナル理由アリテ正當ノ貸借トシ又其抵當ヲ有効トセシヤ其理由ヲ附セサルニ因リ之ヲ知ルニ由ナシ加之他ノ不動産ヲ抵當トシ養父ノ名義ヲ以テ云云ト認定シナカラ之ヲ正當ト視タルハ事實ト理由ノ齟齬アル裁判ト云フヘシ又原判文ニ柳原謙助等トアリ謙助ノ外何人カアルヤ等ノ字ハ獨リ謙助ヲ指スノ文詞ニアラス其後文ニ重ネテ賣却又ハ抵當トシ云云トアルモ謙助ヘハ賣却セシモ抵當ト爲シタルヲナシ以上ノ文詞ニ徴スレハ被告ハ謙助ノ外尙ホ他人ヲ害セシモノトセラレシナラン金員詐取ノ罪ハ即時犯ナレハ謙助ヨリ詐取セハ直ニ一罪ヲ生シ又他人ヲ害セハ又一罪ヲ生スヘシ故ニ他ニ一罪アランニハ必ス其事實ヲ擧ケテ其法律ヲ適用セサルヘカラス然ルニ之ヲ判示セス事實ヲ曖昧ニ付シ去リタルハ事實理由ヲ記載セサルモノナリ云云其第二ノ論旨ハ佐々木吉右衛門カ第二上告論旨ト大同小異ナルヲ以テ之ヲ掲ケ

ス檢察官ハ前掲被告佐々木吉左衛門カ上告ニ對スル同一ノ趣意ヲ以テ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ原檢察官カ被告渡邊熊太郎田賢造兩名ノ裁判ニ對スル上告及ヒ被告佐々木吉左衛門堀川久三郎兩名ノ裁判ニ對スル附帶上告ハ其理由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ總テ之ヲ棄却シ被告久三郎カ上告後段及被告吉左衛門カ上告論旨ニ基キ同人等ニ對スル原裁判言渡ハ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ右兩名カ所爲ハ犯罪ヲ構成セサルモノト認メ刑法第二條ニ照シ被告佐々木吉左衛門被告堀川久三郎ニ對シ各無罪放免スト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク二重典賣ノ罪ハ前後共ニ公證ノ文書ヲ以テ結約スルニアラサレハ之ヲ構成セサルモノトス本件被告等ノ事實タルヤ之ヲ原判文ニ徴スルニ其二重典賣ノ罪ヲ構成スル原因タル鈴木利兵衛ヘノ抵當ハ宮城縣明治十五年第三十五號告示ニ對シ同人カ期限内ニ申出

テヲ爲サス爲メニ抵當權ヲ拋棄セシニ因リ其効力ヲ失シタルモノナ
 レハ爾來其抵當ハ公正ノモノト云フ可カラサルナリ故ニ被告等カ其
 利兵衛へ抵當ニ差入レアリシ地所ヲ他へ典賣スルモ法律ニ所謂重典
 賣ノ罪ヲ構成ス可キモノニアラサレハ從テ其公證モ亦正當ノモノニ
 シテ之ヲ偽造シタルモノト爲スヲ得サルナリ右ノ理由ナルヲ以テ原
 裁判所カ被告人渡邊熊太郎安田賢造ニ對スル言渡ニ付テハ其理由ヲ
 異ニスルモ到底犯罪ヲ構成セストシ無罪放免セシハ結局不當ノ裁判
 ニアラサルヲ以テ之ニ對スル原檢察官ノ上告論旨ハ破毀ノ原由ト爲
 ラサルモノナリ又被告人佐々木吉左衛門堀川久三郎ニ對スル言渡ニ
 付テハ吉左衛門久三郎カ上告ノ論旨相當ニシテ原裁判所カ同人等ノ
 所爲ニ對シ刑法第二百四條第三百九十三條等ヲ適用シ刑ノ言渡ヲ爲
 シタルハ被告兩名上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ適當ス
 ル不法ノ裁判ナリトス仍テ原檢察官カ被告渡邊熊太郎外一名ノ裁判

ニ對スル附帶上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ總テ之ヲ棄却シ又
 被告堀川久三郎カ上告前段ノ論旨ハ辯明ヲ與フルノ必要ナキニ立到
 リタルヲ以テ別ニ辯明セス

○公證偽造官私書盜用及詐欺取財ノ件明治十九年
第百八號

精密ニ犯罪ノ場所年月日ヲ明示セス唯何年何月以降ノ犯罪ナル
 ヲ示スノミニテハ其裁判ハ破毀ノ原由トナルヤ否

廣島縣備後國沼隈郡浦崎村平民忠三郎長男無職業神原義方ニ對
 スル被告事件

初審 廣島重罪裁判所

本件ノ事實被告神原義方二十歲未滿ハ田頭兵次郎ト共謀シ被告カ父
 忠三郎カ明治十二年中ヨリ明治十七年七月迄同村ノ戸長奉職中其役
 場ノ自宅内ニ設ケアリテ明治十六年六月ヨリ同役場ノ筆生トナリシ
 以前ト雖ハ折衝事務ヲ手傳取扱ヒ居タルニ因リ共ニ同役場ノ帳簿ヲ

披閱スルノ便アルニ乘シ明治十六年六月初旬竊カニ名寄帳ヨリ同村
 檀上七郎右衛門同周藏田頭久吉ノ所有地各壹ヶ所外ニ兵次郎カ所有
 地壹ヶ所ヲ總テ兵次郎カ所有トナシ之ヲ書入レ明治十六年六月三日
 付同郡藤江村山路源次郎宛金二百圓ノ借用證書ニ兵次郎借主トナリ
 擅ニ田頭久吉ヲ證人ト記シ兵次郎ハ久吉宅ニ至リ竊カニ同人ノ實印
 ヲ取出シ久吉名下ニ捺シ義方ハ公證ノ與書文詞及ヒ戶長神原忠三郎
 代理大塚徳太郎ト記載シ其名下ニハ當時不用ニ屬シタル忠三郎ノ舊
 役印ヲ捺シテ戶長役場ノ印ヲ盜用シ兵次郎ヨリ該證書ヲ源次郎ニ交
 附シ金貳百圓ヲ騙取シタルモノニテ明治十九年四月二十三日初審裁
 判所ハ被告ハ第一官印盜用第二公證偽造行使第三私印盜用第四詐欺
 取財第五他人ノ不動産ヲ冒認シテ抵當ト爲シタル罪アルモノト判定
 シ第一ノ罪ハ刑法第九十七條第一項第九十五條第二ノ罪ハ第二
 百四條第一項ニ該ルモ二罪共第八十一條ニ依リ一等ヲ減シ猶第一ハ

第二百一條第二ハ第二百七條ニ相當シ第三ノ罪ハ第二百八條第二項
 第八十一條第二百十二條ニ相當シ第四ノ罪ハ第三百九十條第八十一
 條第五ノ罪ハ第三百九十三條第一項第三百九十條第八十一條ニ依リ
 猶二罪共第三百九十四條ニ相當シ數罪俱發スルヲ以テ第百條ニ照シ
 一ノ重キ第一ノ罪ニ從ヒ重禁錮二年監視一年ニ處スト言渡シタルニ
 被告ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判所ニ於テ被告ハ
 本案ノ共謀者ト認定セラレタレト被告ハ決シテ共謀シタルニアラサ
 レハ一々辯明スヘキ事實アルノミナラス却テ無罪ナリトノ反證ヲ提
 供シタルニ原裁判所ニ於テ其反證ニ對シテ一モ説明ヲ與ヘス輒スク
 本刑ニ處セラレタルハ事實ニ齟齬セル不法ノ裁判ナリト云ヒ仍ホ擴
 張書ヲ提供シテ第一原裁判言渡ニ認メラレタル事實ト之ニ對スル法
 律ノ適用ト符合セス第二犯罪ノ日時場所ヲ明示セス第三矛盾セル二
 個ノ證據ヲ採テ共ニ有罪ナリトノ證據ニ供シ第四一罪ヲ以テ二個ノ

犯罪トセラレタルハ總テ不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九第十及ヒ第十一ニ定ムル上告ノ原由アリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告ハ適當ノ原由ナキモノト認メ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本案上告ノ理由トスル處ハ被告ノ反證ニ對シ何等ノ說明ヲモ爲サスシテ有罪ノ判定ヲ下シタルハ不法ナリト云ニ在ルモ凡ソ刑事ノ裁判ハ獨リ裁判官ノ心證判斷ニ屬スルモノニシテ其證憑ニ對シ一々効力ノ有無ヲ說明スヘキ者ニ非サルナリ又犯罪ノ場所年月日ヲ明示セサルハ不法ナリト云フモ原判文ニ明治十六年六月初旬竊カニ名寄帳ヨリ同村檀上七郎右衛門同周藏田頭久吉ノ所有地各一ヶ所外ニ兵次郎ノ所有地一ヶ所ヲ總テ兵次郎ノ所有地トナシ之ヲ書入レ云云トアリテ明治十六年六月以降ノ犯罪タルヲ明カナレハ其偽造證書ヲ被害者ニ交付シタル年月日ヲ明示セサルモ別ニ期滿免除等ニ關係スヘキニ非サルハ勿論其犯罪ノ場所ノ如キモ原判文ニ掲ケテ明

瞭ナレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス其他論告スル所ハ之ヲ要スルニ裁判官ノ職權内ニ侵入シ事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ外ナラスシテ一モ適法ノ原由アルヲナシ

私印私書偽造ニ關ス

○官文私書偽造行使ノ件明治十八年三月十四日廿七號

職務上招喚狀ノ送達ヲ命セラレ疾病ノ爲メ送達シ能ハサルヨリ該呼出狀ヲ送達セシモノ、如ク偽造シタルモノハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキヤ將々刑法第二百十條ノ罪ヲ構成スルヤ

福井縣越前國今立郡四方谷村平民農業石田外松事山田外松ニ對スル被告事件

初審 福井重罪裁判所

本件ノ事實ハ明治十八年十一月四日初審裁判所ニ於テ被告山田外松ハ福井始審裁判所使丁中明治十八年二月廿日福井治安裁判所ヨリ福井

縣足羽郡飯塚村大西彌三次へ宛テ發シタル翌廿一日出ノ勸解呼出狀
 送達方ヲ使丁取締ヨリ申付ラレタルモ俄ニ足痛ヲ覺ヘ之ヲ送達シ能
 ハサルヨリ該呼出狀正本へ本人ニ送達セシモノ、如ク擅ニ彌三次ノ
 氏名等ヲ記入シ之レヲ取締へ差出シタルモノニテ其事實ハ證人江川長
 十郎大西彌三次等ノ證言及ヒ被告ノ豫審調書ニ據リ明確ナリト認定
 スト雖モ被告カ所爲タル故意ヲ以テ他人ニ害ヲ加ヘ又ハ己ヲ益セン
 トノ意思ニ起因セシモノニアラサルヲ以テ被告事件ハ罪トナラスト
 判定シ無罪且放免スト言渡シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲
 シタリ其要旨ハ抑本案呼出書狀ノ如キ官衙ヨリ人民ニ對スル達命令
 書等ハ其書類性質ノ如何ヲ問ハス苟モ官廳ノ名義ヲ以テ發付スル文
 書ニシテ未タ人民ノ手ニ達セサル以前ハ官ノ文書タルヲ明確ニシテ
 一度人民ノ手ニ達セシ止ハ其性質ヲ脱シ官ノ文書ニ非ス然ラハ本
 件ノ如キ未タ人民ノ手ニ達セサル以前ニ於テ其職業ヲ盡サス擅ニ氏

名場所ヲ記入シ送達セシモノ、如ク偽造シ之ヲ使丁取締ニ差出シタ
 ルハ最モ著名ナル官ノ文書ヲ偽造行使シタル者ナリ故ニ刑法第二百
 三條ニ照シ輕懲役ニ處ス可キハ當然ナルニ其事實ヲ認メナカラ無罪
 ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ被告ハ被告カ所爲ハ刑法
 第七十七條第一項ニ該ル者ナルニ同第二百三條ニ當ルモノト論セラル
 、ハ不當ナルヲ以テ檢察官ノ上告ハ之ヲ棄却セラレンコト願フト云
 ヒ又大審院立會檢事ハ判文其前段ニハ足痛ヲ覺ヘ送達シ能ハサルヨ
 リ該呼出狀ノ正本へ本人ニ送達セシモノ、如ク擅ニ彌三郎ノ氏名等
 ヲ記シ之ヲ取締ニ差出シタル事實ハ云々ト記載シナカラ其後段ニ故
 意ヲ以テ他人ニ害ヲ加ヘ又ハ己レヲ益セントノ意思ニ起因セシモノ
 ニアラスト揭記シタルハ事實ノ理由ニ阻礙アルモノナリト論シ附帶
 上告ヲ爲シ上告代人ハ事實理由ノ阻礙アルコトハ附帶上告ノ如シト
 雖モ本案ハ呼出狀ノ文字ヲ偽造セシモノニ非ラサレハ以テ官文書偽

造行使トハ謂フ可ラスト論シタリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ不法ノモ
ノト認メ治罪法第四百廿八條及ヒ第四百廿九條ニ照シ原裁判言渡ノ
全部ヲ破毀シ直チニ被告山田外松ヲ刑法第二百十條第二項ニ擬辦シ
重禁錮一月ニ處シ罰金貳圓ヲ附加シ刑法第二百十二條ニ依リ六月ノ
監視ニ付シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原裁判所檢察官カ上告趣意ノ就中苟モ官廳ノ名義ヲ以
テ發付スル文書ニシテ未タ人民ノ手ニ達セサル者ハ其性質ノ如何ヲ
問ハス皆ナ官文書ナリ故ニ本案呼出狀ノ如キモ即チ官文書ナリトノ
點ハ其當ヲ得サル者トス何トナレハ被告カ偽造ノ點ハ大西彌三次ノ
氏名押印ノミニシテ該氏名押印ハ呼出狀領收ヲ證スルニ在ルヲ以テ
即チ領收證ノ偽造タルノミ故ニ私文書ヲ以テ論スヘク決シテ官文書
ニアラサレハナリ又附帶上告論旨モ其當ヲ得サル者トス何トナレハ
其主張スル所ノ前段ハ事實即チ偽造ノ故意ニ出ルノ理由ヲ掲ケ其後

段ハ單ニ加害又ハ圖利ノ意ナシトノ理由ヲ示シタル者ナレハ視テ事
實理由ノ齟齬ト做ス可ラサレハナリ又上告代言人ノ論告ハ其趣旨明
瞭ナラサル者トス何トナレハ本案ヲ以テ官文書偽造行使ニ非スト爲
ス意想ハ之ヲ徵知シ得ラル、モ其之ヲ何等ノ所爲即チ法禁ノ行爲ト
スルヤ否ハ更ニ申告セサレハナリ然リト雖モ原檢察官カ爲タル上告
趣意ノ歸スル所ハ治罪法第四百十條第十項ニ適應スル者ナリトス然
ル所以ハ原判文ニ「足痛ヲ覺ヘ之ヲ送達シ能ハサルヨリ該呼出狀正本
ヘ本人ニ送達セシモノ、如ク擅ニ彌三次ノ氏名等ヲ記入シ之ヲ取締
ヘ差出シタル事實ハ云云ニ據リ明確ナリト認定スト」在レハナリ是レ
私文書偽造行使ノ罪ヲ構成シタル事實ヲ認定シタル理由ニ外ナラサ
レハ則チ刑法第二百十條第二項ニ按照シテ處辨ス可キ案件ナルニ然
ラスシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス何トナレ
ハ其理由ノ文詞ニハ被告カ犯法心ノ決行ニ出テ、其文書ヲ偽造シテ

行使シ爲メニ交收者ヲ迷誤ニ致シ公害ヲ生ス可キ必要條件ヲ具備包
含シ即チ私文書偽造行使ノ罪ヲ組成シタルニ之ヲ無罪ト判定シタレ
ハナリ而シテ其作爲ハ刑法第二百十條第一項ニ掲ケラレタル權利義
務ニ消長ヲ來シタル者ト做ス可ラサレハ乃チ同條第二項ニ謂フ所ノ
其餘ノ私書ナル者トス

○官文書偽造行使ノ件 明治三十四年四月十七日第六號

飲食料滞リノ爲メ借用證書ヲ偽造シ之ヲ差入レタルモノハ金員
騙取ヲ以テ論スヘキヤ否

廣島縣備後國芦田郡上有地村平民農原篤造ニ對スル被告事件

初審 廣島重罪裁判所

不件ノ事實原篤造カ被告事件ハ第二項目ハ總テ原判文ニ從フ第一第
一審ス○第二以下ノ事實實被告儀三郎原ハ上有地村戸長奉職中被告篤造
ト共謀シ明治十五年二月中原幸之助所有地二反九畝廿五歩ハ既ニ尾

道十四日町黒塚常助へ書入アルコトヲ押隠シ重テ賣渡證書ヲ偽造シ戸
長役場印ヲ盗用シ以テ下有地村内田傳右衛門へ金三百圓ニ賣却シ其
後明治十五年七月中黒塚常助ヨリ借用シタル元利金返濟スルニ際シ
其殘額拾六圓ニ對スル抵當ニ爲シタリ第四被告ハ宮村武利外數名ト
共ニ御調郡尾道町ニ於テ石炭會社ヲ設立セントスルニ際シ其資本金
ノ乏シキヨリ原儀三郎榎田壽市ト共謀シ明治十六年十二月中虛無ノ
地所ヲ抵當トシテ尾道久保田高津元介宛金貳百五拾圓及百圓ノ地所
書入證ヲ偽造シテ戸長役場印ヲ盗用シ之ヲ以テ元介ヨリ該金ヲ騙取
シタリ然ルヲ篤造ハ發覺前已ニ事主へ首出シタリ第五被告ハ前項同
様ノ手段ヲ以テ明治十五年五月九日付原幸之助名義金百圓ノ地所書
入證ヲ偽造シ之ニ戸長原儀三郎カ他ノ證書ニ公證ヲ爲シタル其公證
ヲ切取り繼合セ戸長役場印ヲ盗用シ尙ホ原幸之助ノ印ヲ偽造押用シ
芦田郡府中市村新田時治郎へ差入レ該金ヲ騙取シタリ第六被告ハ前

項同様ノ手段ヲ以テ明治十五年七月十二日附原幸之助名義金三拾圓ノ地所書入證ヲ偽造シ戸長役場ノ印ヲ盜用シ戸長原儀三郎及原幸之助ノ印ヲ偽造押用シ之ヲ芦田郡府中市村内海雅太郎へ差入レ該金ヲ騙取シタリ第七被告ハ明治十五年舊十月十七日附前項同様ノ手段ヲ以テ金拾圓ノ地所書入證ヲ偽造シ戸長原儀三郎ノ印ヲ偽造シ戸長役場ノ印ヲ盜用シ幸之助名下ニハ偽造印ヲ押シ之ヲ芦田郡府中市村料理權六へ差入レ該金ヲ騙取シタリ第八被告ハ豫テ芦田郡府中市村料理店淺野與太郎方ニテ飲食シタル飲食料及ヒ藝妓揚代金等相當ヨリ明治十五年八月中之ヲ借用證書ニ結了スルニ際シ前項同様ノ手段ヲ以テ金百五拾圓三百圓貳百圓ノ地所書入證ヲ偽造シ戸長原儀三郎ノ印ヲ偽造押捺シ戸長役場印ヲ盜用シ幸之助名下へハ偽印ヲ押シ之ヲ淺野與太郎へ差入レ該金ヲ騙取シタリ然シテ第五以下ハ總テ事發覺前ニ在テ官ニ自首セリ以上原裁判官カ認ムル所ノ事實ニシテ明治十八年

十一月二日同裁判所ハ被告カ所爲ノ内官印ヲ盜用セシハ刑法第百九十七條同第百四條ニ依リ輕懲役八年公證ノ文書ヲ偽造セシハ同第百四條同第百四條ニ依リ輕懲役八年他人ノ不動產ヲ二重ニ抵當又ハ賣却シ金員ヲ騙取セシハ同法第三百九十二條同第三百九十條同第三百九十四條同第百四條ニ依リ三年ノ重禁錮三拾圓ノ罰金二年ノ監視第四項被告カ所爲ノ内官印ヲ盜用セシハ同第百九十七條同第百四條ニ依リ輕懲役七年公證アル文書ヲ偽造セシハ同第二百四條同第百四條ニ照シ輕懲役七年該證書ヲ以テ金員ヲ詐取セシハ同第三百九十條同第三百九十四條同第百四條ニ依リ三年ノ重禁錮三拾圓ノ罰金二年ノ監視ニ處ス可キ處仍ホ第八十五條同第八十六條同第八十七條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ二年六月ノ重禁錮貳拾圓ノ罰金二年ノ監視第五第六第七第八被告カ所爲ノ内官印ヲ盜用セシハ同第百九十七條第一項公證アル文書ヲ偽セシハ同第二百四條ニ依リ輕懲役七年尙ホ同第八

十五條ニ照シ一等ヲ減シ重禁錮五年同第二百一條同第二百十二條ニ依リ二年ノ監視私印ヲ偽造使用セシハ同第二百八條第一項第二百十二條ニ依リ三年ノ重禁錮三拾圓ノ罰金一年ノ監視ニ處ス可キ處尙ホ同第八十五條ニ照シ一等ヲ減シ二年ノ重禁錮貳拾圓ノ罰金一年ノ監視該證書ヲ以テ金員ヲ詐取セシハ同第三百九十四條同第三百九十四條ニ依リ四年ノ重禁錮四拾圓ノ罰金一年六月ノ監視ニ處ス可キ處尙ホ同第八十五條ニ依リ一等ヲ減シ三年ノ重禁錮三拾圓ノ罰金一年六月ノ監視數罪俱發スルヲ以テ同第百條ニ依リ一ノ重キニ從ヒ輕懲役八年ニ處ス差押物件ノ内犯罪ノ用ニ供シタル伊藤重剛ノ受取書等ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ其他ノ書類ハ各所有者へ還付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタルモ其要ナキヲ以テ之ヲ畧ス上告代人ハ原判文ノ原裁判所カ其採用シタル證據ヲ一々判文ニ明示セカリシハ治罪法第三百四條ニ背キ即チ同第四百十條第十一項ニ

該ル越權ノ處分ナリト論シ上告趣旨ヲ擴張シタリ大審院立會檢事ハ代言人カ擴張論旨ノ允當ナル旨ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シタリ其要領ハ原判文第二項ノ上告人カ饒三郎ト共謀シ被告幸之助ノ所有地賣渡證ヲ偽造シタルハ其地所ヲ己レノ有トシタルカ將々幸之助ノ名ヲ以テシタルカノ事實ヲ明瞭ニ判示セサルヲ以テ上告人ノ所爲ハ單ニ刑法第三百九十條ノ詐欺取財ニ該ルヘキモノカ將々同第三百九十三條ノ一項ニ該ルモノナルヤヲ見ルニ由ナク全ク事實理由ノ不備ナルヲ免カレサルモノトス而シテ又同判文第八項ノ前段ニ金百五拾圓三百圓貳百圓三通ノ證書ハ飲食料及ヒ藝妓揚代金等ノ滯リアルカ爲メ其滯リ金ノ形ニ差入レタル事實ヲ揭ケナカラ其未段ニ至リ該金ヲ騙取シタリト判示シタルハ前後理由ニ阻礙アル不法ノ裁判ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ附帶上告論旨ノ如ク擬律ヲ誤リタルモノトシ且上告人ハ他ニ原判文第四乃至第五ノ犯罪アルモ畢竟數

罪俱發ニ係リ互ニ相牽連ノ關係ヲ有スルモノト認メ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク抑他人ノ所有地ヲ盜賣スルニ方リ之レヲ己レカ所有ナリトシタル場合純乎タル冒認定ニシテ刑法第三百九十三條第一項ニ該當スヘク又其所有主ノ名ヲ以テシタルモノトセハ假令其地所カ所有主ニ於テ既ニ抵當トナシアルモノトスルモ同條第二項ヲ以テ論スヘキ限リニアラス單ニ詐欺取財ニ該ルヘキモノナリ故ニ其事實ノ理由ハ分明ニ判示シ處斷スヘキハ當然ナルニ原判文第二項ヲ閱查スルニ被告儀三郎ハ上有地村戸長奉職中被告篤造ト共謀シ明治十五年二月中被告幸之助所有地二反九畝廿五歩ハ既ニ略書入アルヲ押隠シ重テ賣渡證書ヲ偽造シ云云トノミアリテ其區別ヲ判然ト示サス而シテ法律適用ノ部ニ至リ他人及ヒ自己ノ不動產ヲ二重抵當及ヒ賣却シ云云ト掲ケ處斷シタルハ全ク事實理由ノ不備アルモノニシテ從テ其

擬律ノ當否ヲ鑒查スルニ由ナキモノトス加之同判文第八項ノ事實ニ依ルニ其前段ニハ飲食料等ノ滯リ金アルカ爲メ偽造ノ金圓借用證ヲ差入レタルモノ、如ク掲ケアルヲ以テ證書ノ金圓ヲ收受シタルニアラサルヲ明カナルヘシ然ルニ其末段ニ至リ該金ヲ騙取シタリト掲ケタルハ前後ノ理由ニ阻齟アルモノニシテ之ヲ要スルニ原裁判言渡ハ本院立會檢事附帶上告論旨ノ如ク治罪法第四百四十條第九項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス

○偽造證書ノ件明治三十九年八月二十五號

解職ニナリタル戸長ノ名義ヲ以テ證書ヲ偽造セシモノハ刑法第二百十條ニ問フヘキヤ將タ公證偽造ヲ以テ論スヘキヤ
 委託ノ地券ヲ抵當ニ入レ其券面ノ地所ハ委託者ノ依然所有スルニ於テハ受寄物費消罪ハ構成セサルヤ否

秋田縣羽後國北秋田郡下杉村五十七番地平民武石富之助孫長男

商武石友太郎ニ對スル被告事件

初審 秋田重罪裁判所

本件ノ事實被告武石友太郎カ第一ノ所爲ハ明治十六年三月中北秋田郡米内澤村武石九郎兵衛長男武石嘉吉ヨリ金圓他借ノ委託ヲ受ケ其際借用證券ト抵當ニ充ツ可キ地券四枚トヲ預リタルモ金策ノ調ハサルヨリ嘉吉ノ催促ニ依リ該證書ト地券ヲ返還スルニ當リ北秋田郡下杉村字中島百五十七番田壹畝貳拾壹步ノ地券壹枚ヲ取匿シ置キ之ヲ奇貨トシ明治十六年十一月三十日(此日付ハ證書ニ基ク公訴狀及豫審ニ終結ニ二十日トアルハ其基ク所ヲ知ラ)秋田縣山本郡能代富町甲斐永吉ヘ任拂フ可キ止宿料拾四圓五十錢ニ對シ右壹畝貳拾壹步ノ地券ト已ニ嘉吉ヘ返還シタル三筆ノ地券(面田九畝廿二步畑七畝貳拾步畑壹反七畝廿八步)トヲ書入抵當ト爲シ負債主武石九郎兵衛保證人被告債主甲斐永吉公證戸長櫻井與一郎記名金拾四圓五十錢ノ借用證書ヲ偽造シ之ニ北秋田郡下杉村元戸長役

場ノ廢印ヲ以テ割印ヲ爲シ九郎兵衛與一郎名下ヘハ有合セ印ヲ押捺シ之ヲ甲斐永吉ニ交付シテ行使シタル事實ナリ而シテ其公證シタル櫻井與一郎ハ明治十六年三月戸長解職トナリ其證書日付ノ當時即チ明治十六年十一月三十日戸長ニアラサリシハ本人ノ申供ニ依リ明白ナリ又割印ト爲シタル役場印モ其當時廢印タルハ戸長工藤傳治及前任戸長工藤東一郎ノ申立ニテ判明セリ然レハ該偽造證書ニ明記セル公證並割印ハ其戸長ノ資格ヲ有セサル櫻井與一郎ノ名ヲ署シ無用ニ屬シタル役場印ヲ押捺シタルモノニシテ共ニ信用ヲ害スルモノニアラサレハ官印盜用公證偽造ノ罪ヲ構成シタルニアラストス又永吉ヘ差入タル地券壹枚ハ所有主武石九郎兵衛ノ承諾ヲ得テ差入タルモノニ非サルモ其地券面ノ地所ハ現ニ所有主九郎兵衛ニ於テ之ヲ所有シ居レハ該地券ハ抵當ニ差入レタルトテ之ヲ費消シタルモノト云フ可カラス故ニ此行爲ヲ認メテ地券ヲ費消シタル罪ヲ構成シタルモ

ノト爲スヲ得ス又該偽證書ヲ行使シテ甲斐永吉ヲ騙瞞シタルモ此行爲ヲ認メテ騙取シタリト云フ可カラス何ントナレハ現ニ其金圓ヲ領收シタルニアラスシテ止宿料ヲ仕拂フヘキ義務ヲ一時免カレン爲メノ所爲ニ過キサレハナリ其第二ノ所爲ハ明治十六年六月三十日秋田輕罪裁判所ニ於テ財産冒認ノ罪ニ依リ重禁錮二月罰金四圓監視六月ノ處分ヲ受ケ主刑滿期後監視執行中明治十六年十二月以來所轄警察署故ナク出頭セサルモノト以上ノ事實ヲ認メ明治十七年十月一日初審裁判所ハ被告カ第一ノ所爲ハ刑法第二百十條第二百十二條ニ當リ第二ノ所爲ハ同第百五十五條ニ當ルヲ以テ同第百條ニ依リ情狀最重キ第二百十條第二百十二條ニ從ヒ仍ホ前ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ同第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ處斷スヘキ處犯時十九年四ヶ月ナルヲ以テ同第八十一條ニ依リ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減シ其範圍内ニ於テ重禁錮十月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ尙監視六

月ニ付ス但官印盜用詐欺取財及地券費消ノ點ハ無罪ト言渡シタル缺席裁判ヲ不法トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ヲ擧クレハ第一被告カ武石嘉吉ヨリ金圓他借ノ依頼ヲ受ケ武石九郎兵衛名義ノ地券ヲ預リ置キ之ヲ甲斐永吉ニ對シ止宿料ニ宛テ書入抵當ト爲シタルハ委託物費消ト云ハサルヲ得ス何トナレハ地券ト地所トハ相牽連シテ分離スヘカラサル者ニシテ若シ偽造ノ所爲發覺セサルハ武石九郎兵衛ニ於テ其義務ヲ果サ、ル上ハ其抵當ノ地所ヲ公賣セサルヲ得サルモノナレハナリ第二被告カ甲斐永吉方ニ止宿スルヤ初ヨリ所持ノ金錢ナキト偽造證書ヲ差入レ永吉ニ一時安心サセ跡ヲ隱シタル事實ニ徴シテ初メヨリ騙取ノ念慮ナルヲハ充分認ムルニ足レリ第三偽造文書ニ記載アル戸長ノ姓名及ヒ押捺シタル戸長役場印ハ素ヨリ虛無ノモノニアラスシテ偽造ノ當時ヨリ僅カ八ヶ月前マテ設立アル役場及ヒ在職スル戸長ナレハ官印盜用公證偽造ヲ以テ論スヘキモノナルニ